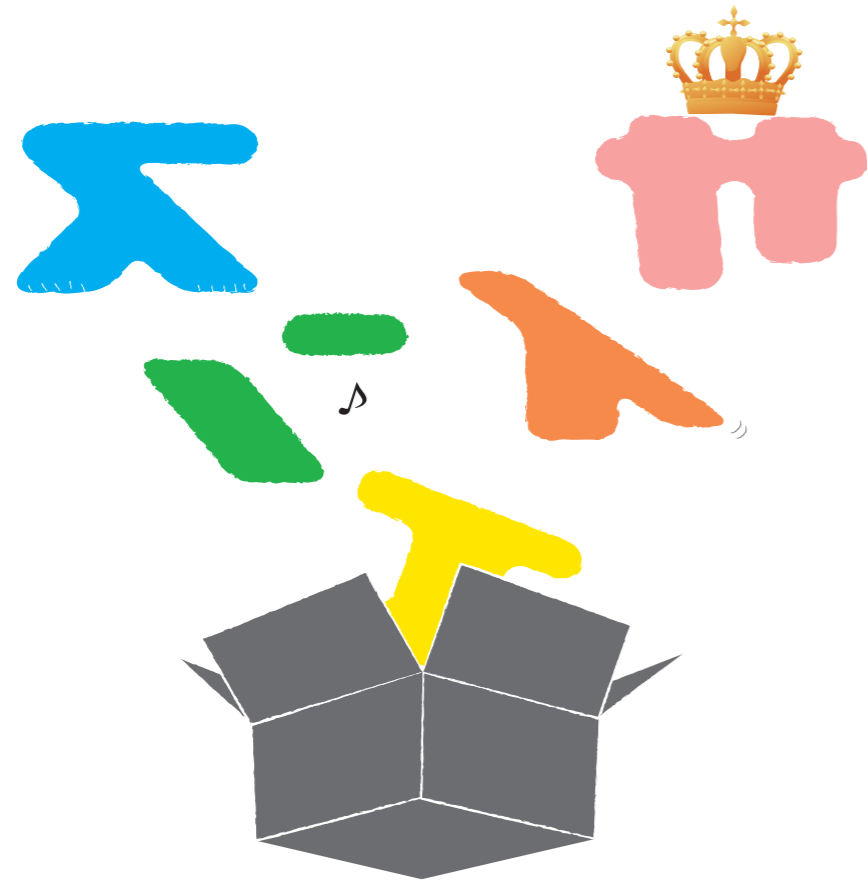


知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて

学都 **サイエンスステイ**  
仙台 SENDAI 宮城 MIYAGI

2025  
since 2007

See you next year !



お問い合わせ先

特定非営利活動法人 **natural science**

仙台市青葉区北目町 4-7 HSG ビル 7 階

TEL/FAX 022-721-2035

info@natural-science.or.jp

http://www.natural-science.or.jp/

子どもから大人まで  
科学の“プロセス”を  
五感で体験できる日



大学・研究所・企業など  
による約 100 の科学  
プログラムを体験！

2025/07/20日  
9:00 ~ 16:00 入場無料

ご来場の際には公共交通機関をご利用ください  
(大学内に駐車場はございません。路上駐車場及び周辺施設への駐車は固くお断りいたします)

会場 東北大学 川内北キャンパス講義棟  
仙台市青葉区川内 41 (仙台市地下鉄東西線「川内駅」直結)

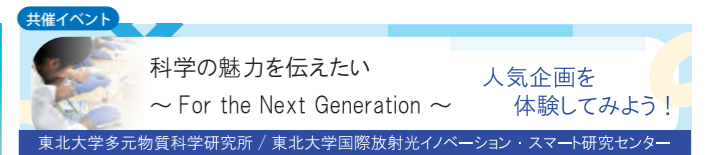
サブ会場 3GeV 高輝度放射光施設 NanoTerasu (ナノテラス)  
仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (最寄駅: 仙台市地下鉄東西線「青葉山駅」)

東北大学総合学術博物館 (理学部自然史標本館)  
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 (最寄駅: 仙台市地下鉄東西線「青葉山駅」)

東北大学西澤記念資料室  
仙台市青葉区川内 28 (最寄駅: 仙台市地下鉄東西線「川内駅」)

東北大学史料館 ※ 開館時間 10:00 - 16:30  
仙台市青葉区片平 2-1-1 (最寄駅: 仙台市地下鉄東西線「青葉通一番町駅」「五橋駅」)

Illustrated by Yoshie OHKUSA  
五色のサイエンスの文字は、「五感で感じる」と  
「科学の多面性」を表しています。  
また黒箱は、「ブラックボックスを開けること」と  
「多様な主体が一堂に集う場」を表しています。



主催: 特定非営利活動法人 **natural science**

共催: 東北大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所東北センター、東北大学多元物質科学研究所、東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター、仙台市教育委員会、東北工業大学、仙台高等専門学校、公益社団法人応用物理学会東北支部、一般社団法人日本物理学会東北支部、一般社団法人電子情報通信学会東北支部、公益社団法人日本金属学会東北支部、公益社団法人日本分光学会東北支部、東北大学知の創出センター、東北大学工学研究科・工学部創造工学センター、東北大学バリューデザイン教育センター、みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム、NanoTerasu 総務事務局

協賛: 株式会社ユーメディア、一般財団法人みやぎ産業科学振興基金、東北学院大学産学連携推進センター

後援: 文部科学省、内閣府知的財産戦略推進事務局、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、東北経済産業局、国立研究開発法人科学技術振興機構、一般社団法人東北経済連合会、東北工学教育協会、仙台管区気象台、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、東北学院大学、宮城大学、東北生活文化大学、東北医科薬科大学、一般社団法人宮城県発明協会、公益財団法人東北活性化研究センター、一般社団法人みやぎ工業会、宮城県中小企業団体中央会、公益財団法人みやぎ産業振興機構、仙台商工会議所、仙台経済同友会、一般社団法人情報処理学会東北支部、一般社団法人日本機械学会東北支部、公益社団法人日本化学会東北支部、一般社団法人映像情報メディア学会東北支部、一般社団法人日本光学会、一般社団法人電気学会東北支部、一般社団法人照明学会東北支部、公益社団法人日本天文学会、公益財団法人土木学会東北支部、一般社団法人日本建築学会東北支部、公益財団法人日本建築家協会東北支部、公益社団法人空気調和・衛生工学会東北支部、公益社団法人日本水産学会東北支部、一般社団法人日本音響学会東北支部、日刊工業新聞社東北・北海道総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台支局、河北新報社、tbc 東北放送、仙台放送、khh 東日本放送、NHK 仙台放送局、ミヤギテレビ、エフエム仙台

2025年(第19回)報告書

## 知的好奇心がもたらす 心豊かな社会の創造にむけて

近年、我が国の科学技術研究および産業競争力の強化を実現する「科学技術創造立国」の基盤を揺るがす深刻な問題として、子どもたちの「理科離れ」が叫ばれています。「理科離れ」は単に「個人的に理科が嫌い」という問題ではなく、理科を学ぶ過程で本来養われるはずの「知的好奇心」や「論理的思考力」等の低下を意味しています。その結果として、文理問わず高等教育を理解できない学生が増大し、大学教育の質の維持が著しく困難に陥っているというかたちで問題は顕在化しており、もはや「理科離れ」問題は、国民全体による知の問題、すなわち社会的リスクであると捉えられています。

これらの社会的背景に、社会の細分化・複雑化に伴い、個々は専門家に任せ、表面だけを利用するブラックボックス化が進んだことがあります。その結果、わたしたちは効率性と引き換えに、本来そこにあるはずの自己と対象との関係性を実感することが困難な状況に陥っています。しかしながら本来、自己と対象との関係性の集積が、すなわち社会です。この自己と対象との関係性が見えない危機こそが、個人・地域社会・国レベルでの問題の本質的な原因と natural science では捉え、そこから解決策を見出ししていきます。

自己と対象との関係性を実感しやすい範囲として、natural science は社会の中でも特に“地域”に着目します。自分が社会に与えている影響と自分が社会から受けている影響を実感することで、人は自らの社会的存在意義を自覚し、主体的に活動することができます。このようなひとり一人の内発的モチベーションによる主体的なアクティビティーが、地域をつくり、そして社会全体をつくるドライビングフォースとなります。つまり“地域”こそが、社会をつくる基盤であると同時に、社会全体をつくる原動力として、大きな可能性を秘めているのです。

そもそも「科学」の本質は観察からはじまります。対象に直接触れ、自分の目で見て、自己と対象との関係性を五感で感じることにし、知的好奇心・論理的思考力が養われることはありません。「科学」と言う「科学は専門家だけが知っていればよい」と自己と科学との関係性を認識しようとし、風潮や、または成果ばかりが目ざされがちですが、そこに至るまでのプロセスにこそ、知的好奇心や論理的思考力をはじめとする、科学的なものの見方・考え方、すなわち自己と対象との関係性を構築する姿勢が隠されています。

natural science では、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて、「科学」を切り口に、自己と対象との関係性の可視化・再構築の場として機能することを「科学で地域づくり」と位置づけ、日々の科学教育プログラムの開発・実施のほか、大学・研究機関や企業、行政・教育機関等と連携し、2007年から毎年、体験型科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催しています。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学」って、そもそもなんだろう？」をテーマに、製品や成果等の“結果”だけでなく、科学や技術の“プロセス”を五感で感じられる場づくりを通じて、子どもから大人まで、各人各様の感じ方から自己と対象との関係性を可視化・再構築する場として機能することを目指すものです。

そもそも人間は生まれながらにして知ることを欲する存在です。そして生まれた創造物が共有されることは喜びです。この認識に立つ時、科学は人の本性に根ざすものとなり万人のものとなるでしょう。こうした共感の輪を生み出す循環こそが、人間の本来持つ内発的モチベーションがさらに発揮され、次、その次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、わたしたちの心豊かな社会が達成されていく土壌となるはずで

す。知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを願って、19年目を迎える今年も『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

特定非営利活動法人 natural science  
大草 芳江

## コンセプト

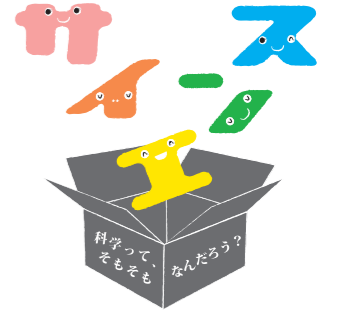
### 科学のプロセスを子どもから大人まで五感で感じる日

社会の成熟化に伴い、科学や技術はブラックボックス化し、わたしたちは便利さと引き換えに、科学や技術の“プロセス”を五感で感じる機会を失ってきました。しかしながら、科学や技術のもたらす“結果”のみを一方的に享受するだけの姿勢では、科学離れや科学リテラシー不足などの社会的リスクを回避することはできません。

一方で、ここ仙台・宮城は、「科学」という切り口で見ると、大学・研究機関、民間企業や行政・教育機関等が密集し、研究者や技術者等が日々研究・開発等の活動を行い、わたしたち市民の生活と科学・技術が隣り合わせで存在する、古くから「学都」と呼ばれる地域です。

この地域の特性を活かし、「科学って、そもそもなんだろう？」をテーマに、大人も子どもも、普段科学に触れている人も触れていない人も、科学や技術の背景にある“人”や“プロセス”を自らの五感で感じられる場として、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を毎年開催します。

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学」を切り口に地域を再発見し、関係性再構築の場として機能することで、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを目指します。



五色のサイエンスの文字は、「五感で感じること」と「科学の多面性」を表しています。また黒箱は、「ブラックボックスを開けること」と「多様な主体が一堂に会する場」を表しています。

#### ステップと期待する効果

#### 第1フェーズ (2007年～) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 科学のプロセスの多様性を可視化し再発見する

##### ステップ① 科学の“プロセス”を体験

各出展団体の現場の“人”が「おもしろい」と思う“プロセス”を形にした体験型プログラムを通じて、普段なかなか実感できない科学や技術の“プロセス”を体感することで、子どもから大人まで、各人各様の感じ方から自然な形で興味・関心が喚起される。

##### ステップ② 研究者や技術者等の現場の“人”との対話

喚起された興味・関心は各人各様であり、それぞれの人が「知りたい」と思うところから、研究者や技術者等の現場の“人”との対話を通じて、各自が興味・関心を深めることができる。

##### ステップ③ 生活の中で関連事項と遭遇

本企画は地域資源で構成されているため、本企画終了後も、市民が普段の生活の中で関連事項と遭遇する機会が多い。これまで何気なく利用していた製品や成果等の“結果”を見ても、本企画をきっかけに“プロセス”があることを想像でき、興味・関心が継続し、身近に感じられる効果が期待される。

##### ステップ④ 年間を通じた科学イベントへの参加

本企画の“見本市”的な特徴を活かし、『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』会員登録により、各団体が開催する一般むけ科学イベント（一般公開や市民講座など）情報を市民へ直接的・継続的に配信できるシステムを構築することで、年間を通じて市民が科学に触れられる機会を増やす。

##### ステップ⑤ 地域恒例イベントとして定着化

地域の毎年恒例イベントとして引き続き定着化を図ることで、科学・技術に興味・関心のある人から普段は科学イベントに参加しない人まで幅広い層が科学・技術を楽しむ文化を地域に創出する。



#### 第2フェーズ (2011年～) サイエンスデイAWARD 科学のプロセスの価値を複眼的に評価し合う

##### ステップ⑥ お互いに応援し合うコミュニティへ

各主体の取組みをお互いに応援し合ったり表彰し合えるしくみをつくることで、相互理解を深め誰もが主体的に科学に参加できる持続可能な『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の構築を目指す。



#### 第3フェーズ (2016年～) サイエンスデイ オブ ザ イヤー 科学を社会に伝えるよい方法論を共有する

##### ステップ⑦ 科学を社会に伝える優れた方法論を共有

サイエンスデイ オブ ザ イヤーの審査・表彰を通じて、科学を社会に伝える優れた方法論を発見し、地域で共有化するしくみをつくることで、次なる創造へとつなげていく。

【表彰】文部科学大臣賞、JST 理事長賞、東北大学総長賞、東北経済産業局長賞、宮城県知事賞、仙台市長賞、ベストプレゼンター賞



## 応援メッセージ① (到着順)

### 宮城県知事 村井 嘉浩 さま

第19回『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025』が開催されますこと、心からお祝い申し上げます。生成AIやロボティクスなど科学技術の進歩により、私たちの生活は日々便利で快適なものになっていますが、当たり前のもので、その仕組みを十分に理解せずに暮らしてしまいがちです。こうした中『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、大学や研究機関、関連企業の皆様の連携、協力の下、子どもから大人までが、科学のプロセスを楽しみながら五感で体験できるイベントとして定着しています。このイベントを通じて、参加される皆様が、科学技術への理解をより一層深められるとともに、宮城、東北を元気にするイベントになることを心から期待します。

### 仙台市長 郡 和子 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025』の開催に当たり、心よりお喜び申し上げます。この度の開催にご尽力をいただいた皆様には、日ごろから子どもたちの科学に対する創造性を育み、科学教育の振興に力を注いでくださっておりますことに、深く感謝申し上げます。このサイエンスデイは、「科学って、そもそもなんだろう？」をテーマに、私たちの豊かな生活を支える科学技術の原理や仕組みについて、五感で感じ取ることができる体験型イベントであり、これまで子どもから大人まで多くの方々に親しまれてきました。「学都」と呼ばれるこの地、仙台で、第19回となる本イベントが開催されることを大変嬉しく感じております。イベント会場でもある東北大学は、その優れた業績により、昨年11月に文部科学省から「国際卓越研究大学」に認定され、まさに世界最先端の研究が進められています。本市も東北大学等と連携しながら、研究開発支援や新たなイノベーションの創出に取り組んでいるところです。本イベントを通じて、多くの市民の方々が最先端の科学技術を身近に感じ、体験いただき、新しい時代を切り拓く人材が育っていくことを期待しています。

### 東北大学 総長 富永 悌二 さま

本年も東北大学川内キャンパスを会場に『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025』が開催されますことを大変嬉しく思います。今年で19回目を迎えるサイエンス・デイは、「学都・仙台」を象徴する夏のイベントとして定着し、毎年多くの皆さまにご参加いただいております。今回も大学、研究機関、企業のご協力の下、科学の楽しさ、面白さを体験し、さまざまな技術に触れることで、知的好奇心を高め、科学に親しんでいただけるプログラムが多数用意されています。また、本学は昨年、国際卓越研究大学の第1号として認定されました。これまでにない新しい研究大学として、世界的な科学技術の発展に貢献できるよう様々な教育・研究活動を進めています。今回も本学の研究の一端をご紹介しておりますので、本イベントを通して、多くの皆さまにとって「科学」がより身近なものとなり、興味・関心を一層深めていただくことを願っています。

### 東北大学 理事・副学長（企画戦略総括） 青木 孝文 さま

実は、私は子供のころから現在に至るまで、サイエンス・フィクション（SF）、特に、ハードSFが好きです。ハードSFというのは、科学の知識をテーマの中心にしたSFです。遠い未来のテクノロジーは、私たちにとって、そもそも「ブラックボックス」ですね。そのブラックボックスの中身を想像してみるということが好きでした。最近のガンダムにも、「軌道エレベーター」など、まだ人類が実現できていないアイデアが出てきます。そういうのを見るにつけ、子供のころにA.C.クラークの「楽園の泉」などを読んでいた私としては、「そんなの知ってるもんね」、と思ったりするわけです。大人になってからは、「軌道エレベーターみたいな巨大構造物を作るには、材料科学のブレークスルーが必要だな」とか、「いやいやその前に経済的な課題の方が大きいな」などと、ちょっと夢がなくなったりしながらも、想像するわけです。さて、大学では、コンピューターで人間の視覚の機能を実現する研究に取り組んでいいます。研究活動では、SFを楽しんだときに培った「想像力」が、実はたいへん役に立っています。ぜひ、大人も子供も一緒になって、想像力を働かせながら、サイエンスデイをエンジョイしてください！！

### 東北工業大学 学長 渡邊 浩文 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025』が開催されますことを、大変嬉しく、心よりお祝い申し上げます。この催事が願う「科学のプロセスを子どもから大人まで五感で感じる日」は、科学、特に実験・実習にて、実際に物や装置に触ったり動かしたり、匂いを感じたり、空気の揺れを感じたり、その感覚にまず魅了されるところから始まるのだと思います。是非、多くの子どもたち、そして大人たちに、科学のワクワクを体験していただきたいと思います。

### 宮城大学 学長 佐々木 啓一 さま

今年もサイエンスデイが開催されることをうれしく思います。本学は今年で3回目の参加となり、年々、教職員の認識、期待が高まっています。私のワクワク感もどんどん大きくなっています。子どもたちや大人が心の底から「サイエンス」を楽しんでいる姿は感動的です。主催者の方々には、心より敬意を表します。今、わが国では、物ごとについて考え、実践する力が求められています。このような力は、大学の学びのみでは身に着きません。子どもたちから、いろいろな事象について観察し、考え、時には手を動かすこと、そして大人になっても、つねに課題を探索し、その解決に挑戦し続けることが必要です。まさにサイエンスデイの目指すところでしょう。そして宮城大学も、子どもから大人まで生涯を通した学びの場となるべく、いろいろな展開を図っているところです。本学は、これからもサイエンスデイとともに歩んでいきたいと思っています。期待しています。

## 応援メッセージ② (到着順)

### 東北大学 金属材料研究所 所長 佐々木 孝彦 さま

仙台の初夏の風物詩ともなった『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025』の開催を大変楽しみにしています。AI、モバイルデバイスなどの急激な発展、普及から、いつでもどこに居ても世界中のリアルとバーチャルの両空間が簡単につながるようになりました。そのような利便性や快適性と引き換えにリアルな体験を自分の手を動かして（苦労したり失敗したりしながら）手に入れる機会やそのような経験への興味が近年急速に減少しているように思います。参加者と出展者と一緒にリアルな場で「もの」をつくり、「観察」し、「思考」、「議論」して「知識」を積み重ねる場であるサイエンスデイを応援したいと思います。テーマパーク的な楽しさや面白さを越えて、地域社会の次の世代を担う子供たち（大人も）の一生を豊かにするきっかけのイベントにさらに成長していくことを願っています。そして、今日の参加者が明日の出展者となり、サイエンスの楽しさとあわせて難しさやうまくいかないことの両方のリアル体験の機会が仙台・宮城・東北から全国、世界へと広がることを期待しています。

### 一般社団法人 東北経済連合会 会長 増子 次郎 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025』の開催、誠におめでとうございます。東北経済連合会（以下「東経連」）では、宇宙誕生の謎に迫る素粒子物理実験施設「国際リニアコライダー」（以下「ILC」）等、世界最先端の研究開発プロジェクトの実現に取り組んでおります。ILCは、日欧米の研究者が中心となって検討を進めている国際共同の科学プロジェクトです。2013年には日本の研究者組織である高エネルギー委員会が、建設候補地として岩手県南部から宮城県北部にかけての北上サイトが国内候補地として最適であるとの答申を公表しています。また、私は昨年11月にシリコンバレーに立地する大型加速器施設を有するSLACやローレンス・バークレイ国立研究所等を視察いたしました。加速器が科学の発展に大きく寄与してきた事実を改めて実感し、ILC誘致を契機に国際的な頭脳循環の拠点を日本につくることの重要性を再認識しました。東経連では、2016年よりサイエンスデイにILCのブースを出展しております。今年も、お子様方にILCに親しんでいただけるよう、素粒子のキャラクターを使った輪投げ等を準備してお待ちしております。サイエンスデイが盛会のうちに開催され、子どもたちの科学技術への知的好奇心を高める貴重な機会となることを、大いに期待しております。

### 一般社団法人 日本機械学会 東北支部長 川田 達也 さま

サイエンスデイ2025の開催おめでとうございます。今年は、どんな「へえ？」や「ほお！」や「えええ？」と出会えるのか、今から楽しみです。特に、若い皆さんが、身近な不思議や小さな発見から探究して作り上げた展示は、インターネットの知識の受け売りでなく、自分で試して、見つけて、繋げて、拡げて、考えて、そしてそれを伝える工夫をして...と、まさに、サイエンス！科学・技術！と感心させられます。私たち機械学会も、車やロボットだけでなく、人間が使う道具にはなんでも興味をもって、未来の人々の幸せにつながる研究をしたいと思っていますが、そもそものモチベーションは、皆さんと同じ。素朴な疑問や小さなアイデアを、知りたい、形にしたい、届けたい、という気持ちです。サイエンスデイに参加する若い皆さんが明日の科学・技術を担っていく姿を想像しがら、楽しみたいと多いです。

### 株式会社 メムス・コア CTO、東北大学名誉教授 江刺 正喜 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイは2007年にスタートして19周年を迎え、家族などで1万人以上が参加する素晴らしい会を続けられて本当に素晴らしいと思います。様々な分野の出展物などに触れて楽しく学べる機会になっています。青葉台にある「西澤潤一記念研究センター」にありますが、ここには会社の人などが来て半導体設備などを使う「試作コインランドリ」があり、「近代技術史博物館」など5つの展示室で実際のものを見て頂けるようにしています。幅広い分野にまたがる知識を持ち視野を広げると同時に、発展の歴史を理解してもらいたいと思います。これによって進むべき方向なども見えてきます。下の本を出版し、また「伊達な大学院」(オンライン)で技術史を見ていただけるようにしています(無料)。

### 東北大学名誉教授、宮城学院女子大学 元学長 末光 眞希 さま

インターネットが発達し「答え」はどこから探してくるものになったと思ったら、今度は生成型AIが登場し、「答え」は機械が考えてくれる時代になりました。二つのことが大切です。(1)「よい問い」を持つこと、(2)自分で考えること、この二つです。あれ？と思ったら、インターネットでもAIでも、遠慮せず聞いてみましょう。大事なことはその「答え」に納得するかどうかよく自問することです。納得いかなかったら聞き返しましょう。最後まで納得いかなかったら、きっとその問いは「よい問い」です。(2)に進みましょう。「よい問い」なのですから、答えが分からなくても恥ずかしかることはありません。一番よい方法は実験すること。これがサイエンスの始まりです。文系も理系もありません。今日一日、サイエンスデイ2025に隠されたたくさん「よい問い」に触れながら、あなた自身の「よい問い」を見つけてください。レッツゴー！

### 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 東北センター 所長 山口 有朋 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025が、子供たちが科学や技術の「？」を考えるきっかけをたくさん与える場として、多くの来場者を迎えることを楽しみにしています。また、いつも自分の研究で難しいことばかり考えている科学者にとっても、自分たちの研究・技術で子供たちに感動してもらい、疑問をもってもらう、ということを考える機会はあまりなく、将来の科学者を増やすためにも貴重な機会になっていると思います。主催者の大草さんの熱意でこれだけの大きなイベントになりましたので、来場する人も出展する人も、みんなでイベントを楽しみながら、すばらしい1日になることを期待しています。それに後で、「あの実験はね、じつはこうゆうことなのだよ」と、子供に知ったかぶりできるかも知れませんが。

## 応援メッセージ③ (到着順)

### 東北大学 大学院 農学研究科長・学部長 北澤 春樹 さま

「なんだろう」と不思議な気持ちから「なぜだろう」と興味を持ち、その不思議を解き明かすためサイエンスが威力を発揮します。その威力は、解き明かそうとする気持ちの強さによって増強されます。またその方法は多岐に渡り、答えが一つではないこともあります。そのプロセスは決して容易ではありませんが、一つまた一つと解き明かされる度にワクワクする世界に引き込まれていきます。サイエンスとは興味の追究であり、興味はまた興味を呼び無限に続くことから、サイエンスは進歩し続けています。過去にわからなかった事が、今は理解され、それによりさらにわからない事が生まれてきます。現時点のサイエンスを知り、未来のサイエンスを想像することで、あらたな興味もわいてくると思います。サイエンスデイ 2025 に参加し、多岐に渡る分野の「なんだろう」「なぜだろう」からの発見と、その解明から活用への発展をぜひ肌で感じて皆さんの興味をさらに高めて欲しいと思います。



### 東北大学 大学院 環境科学研究科長 吉岡 敏明 さま

サイエンスデイ 2025 の開催、誠におめでとうございます。いま私たちの社会では、「サーキュラーエコノミー」「カーボンニュートラル」「ネイチャーポジティブ」という三つの考え方を大切にしたい取り組みが進められています。これらを実現するには、新しい技術の開発だけでなく、既存の技術をうまく組み合わせたり、経済性や社会の受け入れやすさを考慮したりと、多角的な視点が求められます。 科学者や技術者は、こうした多様な視点を持ちながら、それぞれの専門性を生かして日々研究と開発に取り組んでいます。サイエンスデイの展示を見ていると、科学の楽しさや感動を多くの人に伝えたいという出展者の熱意と工夫が伝わってきます。今年のサイエンスデイでは、科学とともに、それを社会に届ける技術にも注目しながら、未来を想像して楽しい時間を過ごしていただければと思います。



### 東北大学名誉教授、仙台高等専門学校名誉教授 内田 龍男 さま

ここ仙台・宮城の地は、古くから「学都」として知られる学問の盛んな地域です。それに関連する大学を始めとしたさまざまな機関がたくさんありますが、これらの多くの機関と連携して、NPO 法人 natural science が学都「仙台・宮城」サイエンス・デイを 2007 年に立ち上げられました。それ以外、ずっと毎年続けてこられて、出展者も参加者も増加の一途をたどり、毎年的一大例行事となっています。このサイエンス・デイは日本で最初に作られて高く評価され、その後、日本の他の地域でも同様な仕組みが少しずつ始まっています。実際、若い人から大人まで幅広い年齢層にわたる人々がサイエンスを理解し、親しみを持っていたり、皆さんの人たちが大変楽しく有意義に参加しておられます。そしてこの結果が若い人達の知識や能力の発展に大きく貢献していられると思います。是非、出展者の方々も、それを見てサイエンスの面白さに感動する参加者の方々も、共に楽しみながらこのサイエンスデーを盛り上げてゆきましょう。



### 東北大学 多元物質科学研究所 所長 福山 博之 さま

サイエンスデイの開催を心よりお祝い申し上げます。科学技術への興味・関心は、未来を拓く原動力です。本イベントは、次世代を担う子供たちが科学の面白さに触れ、知的好奇心を刺激される貴重な機会となるでしょう。大学・研究機関、高校や中学までが一室に会し、最先端の研究成果や技術を面白く、分かりやすく伝えることで、地域全体の科学リテラシーの向上に大きく貢献するものと確信しています。当研究所も、物質科学の研究を通じて、社会の発展に貢献することを目指しています。サイエンスデイでは、私たちの研究の一端を皆様に触れていただく機会となれば幸いです。学都「仙台・宮城」が、科学の力でさらに発展していくことを願い、本イベントの成功を祈念いたします。



### 東北大学 大学院 工学研究科長 伊藤 彰則 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 の開催をお慶び申し上げます。日本は科学技術立国と言われていますが、一方少子高齢化によって子供の数が少なくなるだけでなく、「理科離れ」と言われるように、科学技術を学ぶ意欲を持った子どもたちが少なくなりつつあります。現代の社会は科学技術なしには成り立ちません。日本が世界をリードする科学技術の国として生きていくためには、少しでも多くの子どもたちに科学に興味を持ってもらい、科学技術の世界に飛び込む意思を持ってもらうことが不可欠です。学都「仙台・宮城」サイエンスデイは、そのための絶好の機会です。子どもたちが見学者として会場を訪れて興味を持つだけでなく、次は中学・高校・大学において出展する側になり、科学技術を振興するためのエコシステムとして機能する、他では得難い場になっています。サイエンスデイを運営する皆さんに心から感謝申し上げるとともに、サイエンスデイを通して、少しでも多くの若者が科学技術を志し、将来の日本、そして世界を担う人材となっていくことを願ってやみません。



### 一般社団法人 情報処理学会 東北支部長 羽生 貴弘 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 の開催、誠におめでとうございます。コロナ禍を乗り越え、通常開催が昨年度に続き継続できていることを大変うれしく思います。情報処理学会東北支部では、次世代を担う情報処理人材の育成に注力しております。特に近年は、中高生をターゲットとしたジュニア会員の拡充と会員サービスのさらなる充実を図っています。このサイエンス・デイは科学技術の面白さを中高生が自ら情報発信する仙台・宮城の一大イベントであり、科学技術への興味とその可能性を実感できるチャンスです。企画展示へ出展して頂いているの方々はもちろん、運営スタッフの皆さんの多大なご尽力に心より感謝申し上げます。今年も当該イベントが、多くの方々に対して科学技術を通じて感動を与えて続けることを心よりお祈り申し上げます。



## 応援メッセージ④ (到着順)

### 一般社団法人 日本物理学会 東北支部長 木村 憲彰 さま

学都「宮城・仙台」サイエンス・デイの季節がやってきました。今年は何が出展されるのか今から楽しみにしています。サイエンスデイの良さは、誰でも参加できる点にあると思います。見に行ったり体験したりするのはもちろん、出展する側にとっても敷居が低いのが魅力です。さらに、自分が気に入った出展者に自由に賞を出すこともできます。このような仕掛けのおかげで、本当にさまざまな人たちがいろいろなスタイルで科学の楽しさに触れ合うことができます。毎年大勢の人たちが会場を訪れるのもよくわかります。たくさんの方が、サイエンスデイをきっかけにして、科学の楽しさを知ってもらえればよいと思います。見学にいらっしゃる方はもちろん、出展する方もぜひ楽しんでください。またサイエンスデイのようなイベントの楽しさが、宮城・仙台だけでなく東北地方、さらには日本全国に広がることを期待しています。



### 仙台市天文台 名誉台長 土佐 誠 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催おめでとうございます。サイエンスデイは、毎年最新のサイエンスやいろいろなサイエンス活動に触れることができる学都「仙台・宮城」最大のサイエンスイベントです。最先端のサイエンスの話題はいつも興味深いものですが、量子技術や AI、あるいは生命の起源や宇宙の始まりなど、私たちの五感の及ばない遠い領域のように見えることが気になります。しかし、基本的な仕組みや原理・法則を理解すれば近づくことができるようです。そのためには研ぎ澄まされた思考力や想像力が必要ですが、こうした「力」は自然に触れ五感を磨くことにより培われます。サイエンスデイの会場は青葉城址から東北大学植物園、東北大学青葉山キャンパスに連なる自然豊かな緑地帯にあり、眼下には広瀬川が流れています。いろいろなサイエンスを楽しみながら、仙台の自然に触れ五感を磨くこともサイエンスデイの素敵な過ごし方です。



### NPO 法人 科学協力学際センター 代表理事、東北大学名誉教授 川添 良幸 さま

日本どころか世界にもたった一つしか無いサイエンスデイを杜の都の一大イベントに育てた大草さん達の努力は、正しい科学教育によって理科離れを食い止めようとする格調高い志に支えられて来ました。小さい人も大きい人も皆平等で、計画から展示、さらには評価・表彰までトモダチ感覚で出来ることが重要なポイントだと思います。自主性を育てる等と言いながら、上から目線で教える今の学校・大学のやり方では、科学で良い成績は取れても、「好き」になることからは離れるだけです。小さいうちは皆さん科学が大好きです。それを大人になるまで発展させる唯一の方策を独自に生み出した素晴らしい独創性の賜。今年も大成功を祈念しております。



### 東北大学 大学院 理学研究科長 都築 暢夫 さま

皆さんの周りで起きている自然現象に「なぜだろう」と感じることはありませんか？「なぜだろう」を見つけ、もっと詳しく知りたいと思うところからサイエンス（理学）は始まります。どのようなときに同じ現象が起きるのか、似た現象や違う現象が起きてないかなどをよく観察し、なぜ起きるか仮説を立て、実験や観察を通して仮説が正しいか確かめます。うまく説明できなかったら仮説を修正し、実験や観察を繰り返します。直ぐにはうまく説明できないかもしれませんが、自分が立てた仮説が正しいと分かったときには喜びが込み上げてきます。自然現象の中に見つけた「なぜだろう」を解明するのがサイエンス（理学）で、多くの人たちのこれまでの努力が積み重なり人類共通の知的財産が創造され、現在も日々新たな知が加わっています。

サイエンスデイでは、皆さんが見つけた自然現象の中の「なぜだろう」について皆さんの手による解明を楽しんでいます。「なぜだろう」を解き明かした経験と喜びを、多くの参加者と分かち合い、サイエンスの楽しさを満喫しましょう。



### 一般社団法人 電子情報通信学会 東北支部 支部長 松浦 祐司 さま

仙台・宮城の夏の風物詩である『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』の開催、誠におめでとうございます。今年で 19 回目の開催になるとのこと、大変楽しみにしております。電子情報通信学会は 1917 年に創立された電信電話学会がその始まりであり、創立以来 100 年を超える、非常に歴史のある学会です。本会は電子・情報・通信および関連する分野の国際学会として、光り輝く未来に向けた人材の育成に貢献することを目指しています。2020 年 7 月より主に小中高生を対象としたジュニア会員制度が始まりました。会費無料で会員になることができ、様々な特典が用意されています。研究者の卵として、電子・情報・通信の研究分野における学会活動を体験してみたい中高生の皆さんはぜひ入会してください。サイエンス・デイに会場された皆さんが好奇心をもって科学に触れることで新しい発見につながり、科学に携わる様々な方々との交流の輪が広がることを心より期待しています。



### 国立仙台高等専門学校 校長 橋爪 秀利 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』開催の時期がやってきました。サイエンスは、主に自然界（あまりにも複雑なため神が作り世界と呼ばれたりしますが）における物事の道理を見出すことを目的としており、なぜだろうという知的好奇心が新しい考え方を生み出す原動力となっています。一方、日々技術が進歩し新しい創造物があふれる現代社会においては、人工的に創造されたものに対して、どのような仕組みになっているのだろうかという知的好奇心が技術への興味となり、更なる技術の進歩に繋がる原動力になっています。ある意味、科学や技術に興味を持つきっかけは同じ知的好奇心であるように思えます。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、子供たちに向け、そのきっかけを作り、サイエンスや技術に興味を持ち、将来の科学研究や技術開発に夢を持ち続けてもらえる絶好のイベントです。今年も、サイエンスデイを楽しみ、皆さん一緒にワクワクしましょう。



## 東北大学名誉教授、元日本哲学会会長 野家 啓一 さま

科学の基盤がなし崩しに破壊されようとしている。研究機関の予算削減や研究者の人員縮小、DEI（多様性・公平性・包摂性）をめぐる大学への理不尽な締め付けなどアメリカのトランプ政権による一連の反知性主義的政策である。日本でも学会会議の任命拒否問題に端を発し、今回の法人移行法案の国会上程など同様の動きに歯止めがかからない。科学に対する信頼とリスペクトは、いったん失われると、回復には途方もない時間と労力を要する。人類は科学に代る地図とコンパスをいまだ持っていない。それがなくなれば、人類は方向感覚と平衡感覚を失い、地球は闇に直面するしかない。わずかに頼みとなるのは、子どもたちの純粋な知的好奇心とそれをサポートする大人たちの無償の支援である。その意味で、毎年開かれるサイエンスデイの意義は極めて大きい。今年の盛会と成功を祈りたい。



## 東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター（SRIS）センター長 千葉 大地 さま

今年も『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』が開催されること、ここからお祝い申し上げます。仙台市、宮城県を地域パートナーとした官民地域パートナーシップで東北大学青葉山新キャンパスに建設された次世代放射光施設 NanoTerasu（ナノテラス）も運用が開始されてから2年目に入りました。われわれSRISでは、ナノテラスの観測技術の高度化などを通じてこれまでに見えなかった物を見る研究を行っております。サイエンスデイは、地域の方、特に子ども達が科学の面白さに触れることのできるこの地域には欠かせない本当に大きなイベントになりました。キラキラ目を輝かせながら科学を楽しむ子供達の中から、将来ナノテラスを使って世界をあとと驚かせるような研究を行う研究者が出ることを本当に楽しみにしています。



## 学校法人新英学園 仙台歯科技工士専門学校 学校長 伊藤 多佳男 さま (サイエンスデイ オブ ザ イヤー 殿堂入)

「子どもたちの理科離れを何とかしたい！」という思いで、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を仙台の代表的イベントに成長させた遠藤様、大草様をはじめとする関係者の皆様の情熱と努力に対し、心より敬意を表します。理科に限らず、勉強は教科書の内容を憶えることに終始するものではなく、「解らなかつたことが解るようになる」「出来なかつたことが出来るようになる」という、面白くて楽しい体験の連続であるべきものです。サイエンスデイは、そんな勉強の本来の楽しさを子どもたちに知ってもらいたいという熱い思いに溢れています。アインシュタインの言葉、「教えるということは、こちらが差し出したものが見つらい義務ではなく、貴重な贈り物だと感じられるようなことであるべきです。」を具現化したサイエンスデイという夢のような一日を終える頃には、「貴重な贈り物」をたくさん胸に抱いた「科学の子どもたち」が帰路に就かれることでしょう。すっかり夏の仙台における風物詩となった本イベントが、今年も盛会であることをお祈り申し上げます。



## 東北大学 大学院 医工学研究科長 西條 芳文 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2024 の開催おめでとうございます。サイエンスデイはお子様から付き添いの方々までみんなに、最新のサイエンスを実感していただくために、多くの学校・研究機関が協力して開催されている一大イベントです。特に、科学者の卵のみなさんに「自分たちの手でよりよい未来を創っていく」という気持ちが育つように、多くの体験コーナーや展示が準備されています。医工学は「医」と「工」の研究者が連携するだけではなく、患者さんや医療従事者の意見・要望を取り入れながら発展してきた分野です。科学は科学者だけがつくるのではなく、科学に興味をもつ人すべてが育てていくものです。サイエンスデイに参加されるすべての方々が、ご自身の「サイエンス」を育てていただくことを心から願っております。



## 東北大学 副学長（社会連携・校友会・基金担当）・災害科学国際研究所教授 今村 文彦 さま

19回目になります『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』が開催されることを心よりお祝い申し上げます。サイエンスデイは、仙台において子どもから大人まで、科学の魅力を五感で体験できる貴重な機会となっています。このイベントを通じて、皆さんが科学の不思議さや楽しさを感じ、多くの方々に新たな発見と学びの場になることを期待しております。近年、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震、各地での豪雨災害、などが繰り返し発生しており、防災・減災への関心は非常に高くなっています。将来への備え、事前防災、災害発生時の避難などの対応には、災害などの科学の知識そして判断力が不可欠となっています。サイエンスデイのような間近で学べる機会に、災害科学についても触れていただき、いのちや地域を守ることも関心を高めましょう。



## 文部科学省 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当） 福井 俊英 さま

今年も、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』が開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。今年で第19回を迎えるサイエンス・デイは、子どもから大人まで、幅広い世代が科学の魅力を五感で体験できる貴重な科学イベントとして、地域にしっかりと根ざしながら、着実に発展を遂げてこられました。STEAM教育をはじめ、課題の発見とその解決に向けた主体的・協働的な学びをさらに充実させていくためにも、教育・研究機関や地域社会などが連携しながら、誰もがサイエンスに触れ、新たな発見と学びを得ることができる環境を広げていくことは、今後ますます重要になると考えております。当省の審議会でも、様々な機関の連携による科学技術人材の裾野拡大の必要性について、議論・検討しているところです。本イベントが、次代を担う子供たちをはじめ、あらゆる世代の方々にとって、科学への知的好奇心を育み、科学を「好きになる」きっかけとなることを、心より期待しております。



## 東北大学 大学院 生命科学研究科長 彦坂 幸毅 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催を心よりお慶び申し上げます。科学は「これまでなかったもの」を生み出すことができます。参加者のみなさまには、その「これまでなかったもの」が生み出されようとする瞬間を感じていただけるのではないかと思います。また、最前線で多くの研究者が、研究を楽しんでいる様子を、一緒に楽しんでいただければとても嬉しいです。主催者の大草芳江さんは、当研究科在学中に科学教育の重要性に目覚めて起業し、サイエンスデイを2007年から開催されました。以来、震災やコロナ禍にめげることなく、毎年続けられ、本年は第19回を迎えることとなりました。大草さんの志の高さとその根拠に敬服するとともに、参加者のみなさまには大草さんのスピリッツも感じていただきたいと思っています。



## 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構（QST）NanoTerasu 総括 事務局長 川上 伸昭 さま

最近ニュースなどで「ナノテラス」と聞かれどなんだろう？と思っているあなた、ぜひ7月20日はサイエンスデイに行こう！！サイエンスデイは今年、東北大学川内北キャンパスに加えてはじめて青葉山のナノテラス（NanoTerasu）をサブ会場として開催することになりました。サブ会場はシャトルバスも運行されます。ナノテラスは直径180mのドーナツ型の建物を中心とした東北最大規模の実験装置です。その中では太陽の10億倍もの明るさのX線を使って物質の構造や状態を計測して素材や生命が持つ様々な機能を科学的に解明するとともにイノベーションにつながる知見を生み出しています。科学の起点は自然を知ることにあります。かねてより人類は光を使って自然を観察してきました。みなさんも学校で顕微鏡や望遠鏡で観察した経験があるでしょう。ナノテラスは自然にある光と較べてはるかに明るく、波長が短く、精密に制御された光ですが、光で自然をとらえようという心は同じです。皆さんの経験に少しでも引き寄せてナノテラスを理解してもらいたいと願っています。



## 東北生活文化大学 学長 佐藤 一郎 さま

レオナルド・ダ・ヴィンチは、「絵画は、科学（サイエンス）である。」と述べ、「……、わたしは、あらゆる確実さの母である経験から生まれ、明らかな経験で終わらないような科学、つまり、始めか、中間か、終わりかが、五感のいずれかを通過しないような科学は、空虚で誤りに満ちているように思われる。……」と続けています。このような人間の感覚を通じた体験にねざす科学の本質は、『サイエンスデイ 2025』に集う、小学生、中学生、高校生のみなさんにこそ宿っているように見えました。絵画は、目という感覚器官を通して見た三次元、および時間をも含めた時空間の世界を、二次元の平面に表現することです。それには、光の存在によって、ありとあらゆる色彩をともなった対象物を感知することが前提になっています。この場合、光とは、赤、橙、黄、緑、青、紫といった色光の集合体である可視光線（白色光線）です。現代では、赤外線、紫外線、X線などの電磁波を使って、絵画の自然科学的調査が行われています。どのような絵画材料と絵画技術で描かれているのか、500年前のレオナルド・ダ・ヴィンチにおいても、かなり詳細に解説できるようになってきました。絵画を対象として、自然科学的調査研究する若い人材が育つことを期待しております。



## 東北大学 理事・副学長（サイエンスパーク・復興新生・ナノテラス共創担当）・未来科学技術共同研究センター長 湯上 浩雄 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 が7月20日に開催されます、開催に際してご尽力いただいている各位に感謝と敬意を表します。サイエンスと宮城・仙台の長い歴史は、一例として、JR東日本が発行している「トランヴェール」2025年5月号に掲載された、アインシュタインの宮城訪問の記事から読み取れます。アインシュタインが宮城の地を訪れたことは、学術分野の人間のみならず地域の人々にとってサイエンスが身近になった瞬間だったのではないのでしょうか。暮らしの中では、日々の繰り返しの中で時間が流れていきます。そのなかで心に残る出来事や感動する瞬間があります。特に子供時代の経験や記憶は、本人の知らない間に心に残り、将来の人生の岐路での選択に影響を及ぼします。「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025を訪れた子供たちが、100年前にアインシュタインと出会った人々が感じたサイエンスの雰囲気を感じ取ってもらえることを期待しています。



## 東北大学 理事（産学連携担当） 遠山 毅 さま

「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025」の開催に際し、心よりお慶び申し上げます。昨今、子供たちの理科離れ、ひいては若者の理工系離れが問題になっています。それは子供や若者、ひいては親が「科学」は難しいと思込んでいるからではないでしょうか。しかし「科学」は机の上で勉強して知識を頭に入れるということではなく、身近な自然現象、科学現象に実際に触れ、「楽しむ」というところから進化してきたと思います。自動車、スマートフォンなど我々が普段使っているものは先端技術の塊で専門家の領域と思いがちですが、元々の原理は身近な科学実験でわかることの積み重ねだったりします。サイエンスデイを通して、参加者の皆様が実際に「科学」「技術」に触れ、これらはとっつきにくいのも、難しいものではないのだと感じ、知的好奇心をどんどん向上させることを期待しています。是非、楽しんでください！



## 公益社団法人 日本金属学会東北支部 東北支部長 加藤 秀実 さま

「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025」の開催を心よりお祝いたします。子どもから大人まで同じ場所に集まって、サイエンスを発表し、サイエンスを考え合っ、サイエンスをたたえ合う、なんて素敵な一日でしょう。このような貴重なイベントが学都仙台で行われていることをうれしく思います。ぜひ多くの皆様楽しんでいただきたいと思います。そして、この日をきっかけに、未来のサイエンティストが誕生することを願っています。



## 国立研究開発法人科学技術振興機構 理事 柴田 孝博 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催に当たり、心からお祝い申し上げます。皆さんご存じの通り本年は「大阪・関西万博」が開催されています。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマ、「People's Living Lab (未来社会の実験場)」をコンセプトに掲げ「展示をみるだけでなく、世界 80 億人がアイデアを交換し、未来社会を共創 (co-create)」といった説明がされています。現代社会の抱える様々な課題を解決するために非常に重要な取組みですが、万博という期間限定の取組みだけではなく、これを日常化することが欠かせないと思います。幸いにも学都「仙台・宮城」には、今年で 19 回目を迎えるサイエンスデイがあります。サイエンスデイが「科学って、そもそもなんだろう?」、「科学や技術の背景にはどんなことがあるのだろう?」といった知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造のプラットフォームとしますます発展し、未来社会を共創するペースとなっていくことを心から期待しております。



## 公益社団法人 応用物理学会 東北支部長 宮崎 謙 さま

仙台・宮城の定番となった「サイエンスデイ」が、今年もやってきました。昨年同様に通常開催されるとのことで、私自身もわくわくしています。これから夏休みを迎える小中学生の皆さんにとって、強く記憶に残るイベントになることを願います。また、学校の先生方や親御様におかれましては、生徒・お子様が抱いた好奇心をいつまでも持ち続けていけるように、大事に見守っていただきますようお願いいたします。私たち応用物理学会東北支部は、理科教室の実施や様々な物理現象を応用した教材開発を通して、未来社会を支える人材育成を行ってまいります。



## 東北大学 副理事 (AI・データ戦略担当) 中尾 光之 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催おめでとうございます。いま、生成系の AI 登場を受けて益々巷では AI の話題でもちきりです。AI に関する輝かしい未来やリスクが語られるとき、科学する知性と AI の知性は違うのかを問い、考え続けることこそが重要です。両方の知性の差異を利用し創造性を紡ぎだすことができるとこれからの知を形作るはずで、サイエンスデイが、そんな新たな知の萌芽を感じ取れる場になることを願っています。



## 公益社団法人日本化学会 東北支部長 林 雄二郎 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。サイエンスデイは、科学の不思議さや面白さを、五感で体験できる貴重な機会です。実際に「見て」「触れて」「感じて」得られる体験は、科学への興味や関心を育み、将来の進路選択にも大きな影響を与えることでしょう。近年、地球温暖化、エネルギー問題、資源循環、健康といった課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、科学、とりわけ化学の果たす役割は非常に大きく、その重要性は今後さらに高まっていくことは間違いありません。分子の世界に目を向け、新たな分子を創出し、現象の背後にある仕組みを理解しようとする化学の視点は、こうした複雑な課題の解決に向けた確かな第一歩となります。サイエンスデイでの体験を通じて、未来の科学者たちが好奇心を育み、持続可能な社会の実現に向けて挑戦していくことを、心より願っております。開催にあたり多大なるご尽力をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本イベントが大きな成功を収め、地域社会に豊かな学びと刺激をもたらすことを祈念いたします。



## 日本化学会東北支部 副支部長・化学教育協議会議長 渡邊 賢 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催を心よりお慶び申し上げます。今日、私たちは地球環境の保全や持続可能な社会の実現という大きな課題に直面しています。これらの課題を解決していく上で、科学・化学の果たす役割は不可欠です。環境への負荷を低減する環境適合技術には、より安全で地球に優しいものづくりを目指すグリーンケミストリーは大変重要で、その更なる推進には特に化学の技術と知識を学ぶ人材の育成こそが鍵を握ります。サイエンスデイは、科学の面白さや奥深さを肌で感じられる素晴らしい機会であり、特に若い世代の方々が科学と出会い、その可能性を広げる場です。化学人材の育成を担う日本化学会東北支部・化学教育協議会は、本イベントの関係者の皆様の熱意とご尽力に深く感謝申し上げますとともに、益々のご活躍ならびに更なるご発展を祈念し、引き続き応援して参ります。



## 東北大学 副学長 (ダイバーシティ担当) 田中 真美 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。このサイエンスデイは、子どもから大人まで、学びや発見を通じて "科学の楽しさ" を共に体験し、多様な背景を持つすべての人々が、互いに対話しながら学び合う場が築かれており、様々なサイエンスが一同に会し、五感を通して体験できる機会です。多様な視点が交わることで新たな創造が生まれる - これは、私たちが日ごろから DEI (ダイバーシティ、公平性、インクルージョン) の推進の理念であります。本イベントが、そうした場としても体現され、参加される皆さま一人ひとりの皆さま一人ひとりの探究心や創造力が引き出される場となることを願っております。またここから生まれる新たな交流と可能性が、今後の学びの礎となりますよう、お祈り申し上げます。



## 東北大学 理事・副学長 (教育・学生支援担当) 滝澤 博胤 さま

今年もサイエンスデイが盛大に開催されます。せんくら (仙台クラシックフェスティバル) やジャズフェス (定禅寺ストリートジャズフェスティバル) とならんで、杜の都の定番イベントの 1 つです。100 年前にアインシュタインが訪れ感嘆したこの街は、いちだんとサイエンスの彩りを深め、まさに学都として大きく成長しました。サイエンスデイで科学の面白さに目覚めた未来の担い手たる若葉が、ケヤキ並木のように大きな大木となってこの街の風格を高めてくれる日々が来ることを楽しみにしています。



## 一般財団法人 みやぎ産業科学振興基金 理事長、東北大学名誉教授 伊藤 弘昌 さま

学都「仙台・宮城」ではこれまでに、世界に誇る輝かしい偉業を数多く輩出してきた。良く知られる八木・宇田アンテナやマグネトロン、センダストなどは 1920-30 年代の誕生でほぼ 100 年にもなる。その後の 100 年でも、世界に冠たる研究成果の創出は枚挙にいとまがないほどであり、この流れを引き継ぎ、さらに発展させるのが若い次の世代である。科学の面白さ、わくわく感を肌で感じてもらえるように工夫した「サイエンスデイ」の催しは重要である。将来、共に歩み始める人が一人でも多くなるように期待したい。また、企画運営は情熱的に取り組む人たちに支えられている。応援したい。



## 公益社団法人 日本分光学会 東北支部長 藤井 朱鳥 さま

サイエンスデイ 2025 の開催を心よりお祝い申し上げます。自然科学は自然を体系付け、論理的に理解しようとする長年の人間の営みの結晶ですが、いつの時代も自然科学へと人を誘ってきたのは、間違いなく「センス・オブ・ワンダー」と呼ばれる自然に対する驚きや感動の体験です。100 以上の体験プログラムが結集するサイエンスデイは大人から子供まで、センス・オブ・ワンダーを体感する事が出来る非常に貴重な機会です。何気ない日常の背後にある驚きから先端的な科学・技術への感動まで、様々なセンス・オブ・ワンダーを多くの方が体験し、自然科学の面白さを存分に楽しめることを願っています。



## 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 NanoTerasu センター長 高橋 正光 さま

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 は、見るだけ、聞くだけでなく、自ら手を動かして科学の世界に触れる体験ができる、他にはなかなか得がたいイベントです。通り一遍の解説では省略されてしまいがちな一つひとつの過程を直にたどることによって、自分なりの新しい発見や気づきが生じるはずで、第 19 回目を数える今回からは、初めての試みとして、昨年 4 月に運用を開始した放射光施設「ナノテラス」も会場に加えて開催されます。ナノテラスは仙台で、いや世界でいちばん未来に近い場所。人類が初めて知る科学上の発見が生まれているまさにその場所で、ささやかかもしれないけれど自分なりの発見をして、科学する楽しさ、興奮をたっぷり味わっていただけたらと思います。



## 東北大学 理事・副学長 (研究担当)、知の創出センター長 杉本 亜砂子 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催に当たり、心よりお祝い申し上げます。私たちの身の回りには生活を便利にする機器であふれています。パソコン、スマートフォン、タブレット等の普及により世界中から様々な情報を瞬時に得られる時代になりました。情報を簡単に得られるようになった反面、「なぜ?」と考えることが少なくなったように思われます。サイエンスデイは、この「なぜ?」をことごとん追求しながら、科学のプロセスを体験できる非常に貴重なイベントです。大人から子どもまで多くの方が科学技術に触れ、興味をもっていただけるのではないのでしょうか。これからの社会は AI (人工知能) が一層普及するといわれています。昨今、ChatGPT などの高度な AI が様々な分野から注目を浴びています。AI やその裏にあるサイエンスを理解することで、人間の知的活動はさらに広がります。サイエンスデイを通して、人間の知性の偉大さ、素晴らしさに気づき、知的好奇心が大いに刺激されることを期待しております。



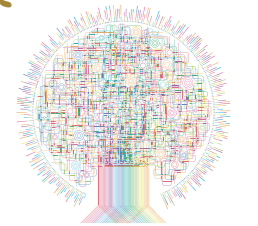
## 東北経済産業局長 佐竹 佳典 さま

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025』の開催に当たり、心よりお祝い申し上げます。サイエンスデイは、「科学って、そもそもなんだろう?」をテーマに、「科学や技術のプロセス」を大人から子どもまで楽しく五感で感じられる大変貴重な機会です。科学技術の進展は、我が国経済の成長を支えることはもちろん、地球温暖化への対応や資源循環社会の実現にも欠かせないものとなってきております。現在、日本で大阪・関西万博が開催されておりますが、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、多様な価値観の交流や世界各国の最先端の科学技術にも大変注目が集まっております。今回のサイエンスデイを通じて、普段科学に触れている方も触れていない方も、日常の中に隠された科学の面白さや驚きを体験し、皆さまの好奇心や探求心が触発され、心豊かな未来社会の創造につながることを期待しております。



## 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティの目指す「科学・技術の地産地消」 ～知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて～

学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティは、学都「仙台・宮城」の特性を活かし、この地で生まれた科学の“結果”だけでなく“プロセス”が教育的価値として地域に還元される循環を「科学・技術の地産地消モデル」と名付け、知的創造力が資源である我が国の将来を担う人材育成に携わる“実感”を共有できるコミュニティを形成することで、新しい科学が継続的に生まれる文化の醸成を目指します。学都「仙台・宮城」サイエンス・デイは、本趣旨に賛同する既存の枠を超えた多様な主体と連携し、手弁当モデルで継続運営している民間イベントです。



仙台・宮城サイエンスコミュニティ

詳細は Web をご覧ください >>> <https://science-community.jp/>

# 開催結果

## 開催概要

- 名称…… **A** 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 (第19回)  
**B** サイエンスデイAWARD2025表彰式・交流会  
**C** サイエンスデイ オブ ザ イヤー2025表彰式
- 会期…… **A** 2025年7月20日(日) 9:00~16:00 ※7月19日(土)会場設営準備  
**B** 2024年7月28日(月) 14:00~17:00  
**C** 2024年8月18日(月) 15:00~17:00
- 会場…… **A** 東北大学川内北キャンパス 講義棟(仙台市青葉区川内41)等  
**B** 東北大学 青葉山キャンパス「サイエンスキャンパスホール」(仙台市青葉区荒巻青葉6-6)  
**C** 東北大学片平キャンパス「知の館」(仙台市青葉区片平2-1-1)
- 主催…… 特定非営利活動法人 natural science (2007年6月設立)
- 共催…… 東北大学、産業技術総合研究所東北センター、東北大学多元物質科学研究所、東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター、仙台市教育委員会、東北工業大学、仙台高等専門学校、公益社団法人応用物理学会東北支部、一般社団法人日本物理学会東北支部、一般社団法人電子情報通信学会東北支部、公益社団法人日本金属学会東北支部、公益社団法人日本分光学会東北支部、東北大学知の創出センター、東北大学工学研究科・工学部創造工学センター、東北大学バリューデザイン教育センター、みちのくアカデミア発星ターアップ共創プラットフォーム、NanoTerasu総括事務局
- 協賛…… 株式会社ユーメディア、一般財団法人みやぎ産業科学振興基金、東北学院大学産学連携推進センター ほか
- 後援…… 文部科学省、内閣府知的財産戦略推進事務局、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、東北経済産業局、国立研究開発法人科学技術振興機構、一般社団法人東北経済連合会、東北工学教育協会、仙台管区気象台、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、東北学院大学、宮城大学、東北生活文化大学、東北医科薬科大学、一般社団法人宮城県発明協会、公益財団法人東北活性化研究センター、一般社団法人みやぎ工業会、宮城県中小企業団体中央会、公益財団法人みやぎ産業振興機構、仙台商工会議所、仙台経済同友会、一般社団法人情報処理学会東北支部、一般社団法人日本機械学会東北支部、公益社団法人日本化学会東北支部、一般社団法人映像情報メディア学会東北支部、一般社団法人日本光学会、一般社団法人電気学会東北支部、一般社団法人照明学会東北支部、公益社団法人日本天文学会、公益社団法人土木学会東北支部、一般社団法人日本建築学会東北支部、公益社団法人日本建築家協会東北支部、公益社団法人空調・衛生工学会東北支部、公益社団法人日本水産学会東北支部、一般社団法人日本音響学会東北支部、日刊工業新聞社東北・北海道総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、河北新報社、tbc東北放送、仙台放送、khh東北放送、NHK仙台放送局、ミヤギテレビ、エフエム仙台
- 入場料…… 無料
- 対象…… 子どもから大人までどなたでも
- 出展料…… 無料(ただし出展に関わる費用は各自ご負担ください)  
 ※ 手弁当モデルによる自立運営のため運営協力(協賛)へのご協力をお願いします。

### 出展規模

- A. 出展者数**…… のべ**152団体**(昨年度:157団体)  
**プログラム数**…… 合計**117プログラム**(昨年度:合計125プログラム)  
 ◆ 講座プログラム型:計**37プログラム**・計**136回実施**  
 ◆ 体験ブース型:計**71ブース**  
 ◆ 『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～光編～』実物展示:計**9ブース**  
 ※ 『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～光編～』紙版:計**103件**
- B. サイエンスデイAWARD**…… 計**72賞**創設(昨年度:計70賞)
- C. サイエンスデイ オブ ザ イヤー**…… 文部科学大臣賞、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)理事長賞、東北大学総長賞、東北経済産業局長賞、宮城県知事賞、仙台市長賞、ベストプレゼンター賞(出展者1件、AWARD賞創設者1件)

## 来場者数

日付	天候	来場者数
7月20日(日)	晴れ(最高気温33℃)	<b>10,638人</b>

## 開催報告

### 07/20 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025(第19回) / 過去最大規模で大盛況のうちに無事終了!

おかげさまで今年で19年目を迎えるサイエンスデイも、趣旨にご賛同いただいた多様な主体から、共催(計17団体)、後援(計49団体)、協賛(計29団体)、会場いっぱいとなるのべ152団体からご出展いただき、東北大学をまるごと会場にして7月20日(日)、合計117の科学体験プログラム(講座プログラム型:37件・計136回実施、体験ブース型:71件、サイエンスマップ光編～実物展示版～:9件)を一斉実施しました。すべての科学体験プログラムは、関係各位のご理解とご協力により、無償でご提供いただきました。

さらに今年からは3GeV高輝度放射光施設 NanoTerasu(ナノテラス)も共催に加わり、メイン会場である東北大学川内北キャンパス講義棟のほか、サブ会場としてナノテラス、東北大学総合学術博物館(自然史標本館)、東北大学西澤記念資料室、東北大学史料館もサイエンスデイ当日、特別一般公開いただきました。また当日の本部運営は、東北大学バリューデザイン教育センターと連携(共催)し、大学生に対してアントレプレナーシップとバリューデザイン(価値創造)の視点を体験的に学ぶ教育機会として提供いたしました。

今年も1万人を超える方にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。ご来場いただいた皆様、ご出展ご支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

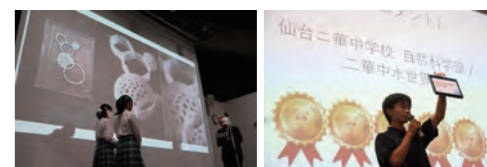


詳細はp.15～をご覧ください

### 07/28 サイエンスデイAWARD2025表彰式 / 自分の賞をつくってお互いに表彰し合う(過去最多の72賞創設)

サイエンスデイでは、自分が一番「よい」と思った出展プログラムに対し自分の賞をつくって表彰し合う「サイエンスデイ AWARD」を2011年度から行っています。「よい」科学や技術とは、そもそも何か。そこには多様な視点があります。サイエンスデイ AWARDでは、複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体問わず誰でも自分の賞を創設できることが最大の特徴です。

今年も大学・研究機関や企業等の専門家から中学生や来場者の子どもまで多様な方々から過去最多となる合計72のAWARDが創設されました。そして、7月28日に東北大学サイエンスキャンパスホールで開催したサイエンスデイAWARD表彰式には約200名が出席し、各賞が授与されました。この表彰式は1分プレゼン形式で、表彰者はどんな点を評価したか、受賞者はどんな点を工夫したかそれぞれプレゼンし、お互いの健闘を称え合いました。また、プレゼンを聞いた参加者による会場投票で「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」のベストプレゼンター賞が賞創設者と受賞者で各1件ずつ決まりました。



詳細はp.23～をご覧ください

### 08/18 サイエンスデイ オブ ザ イヤー2025贈賞式 / 科学を社会に伝えるよい方法論の共有(文部科学大臣賞等)

「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」は、科学を社会・一般に伝えるよりよい方法論を共有化することを目的に、その年の『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』の出展プログラム並びに『サイエンスデイ AWARD』賞創設者のうち特に優れていると認められる個人・団体を表彰する制度です。

今年も厳正なる審査の結果、文部科学大臣賞、JST理事長賞、東北大学総長賞、東北経済産業局長賞、宮城県知事賞、仙台市長、ベストプレゼンター賞(サイエンスデイ AWARD 受賞者・賞創設者)の受賞者が決定しました。

サイエンスデイ オブ ザ イヤー 2025 贈賞式は8月18日、東北大学「知の館」を会場に開催しました。各賞創設者から各受賞者に表彰状が授与され、受賞者が受賞の喜びを語りました。また、贈賞式後は受賞者と来賓・審査員との懇親の場も設け、受賞者の皆さんへ直にご助言等いただきました。



詳細はp.44～をご覧ください

ホームページ http://www.science-day.com/

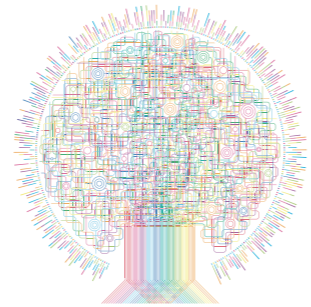
メールマガジン配信

科学イベント編(2010年～) 宮城県内小・中学校・出展高校等(約600校)に全校配布(約23万部)



▲トップページ

学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ会員(約3万5千人)向けメールマガジンでの周知



科学・技術目覚め推進 SCIENCE & TECHNOLOGY COMMUNITY

告知用チラシ(A3) 宮城県内の全小・中学校ならびに出展高校(約600校)に全児童・生徒分(約23万部)を全校配布



▲おとも



▲うら(学都「仙台・宮城」サイエンスマップとして県内科学イベントなどを紹介)

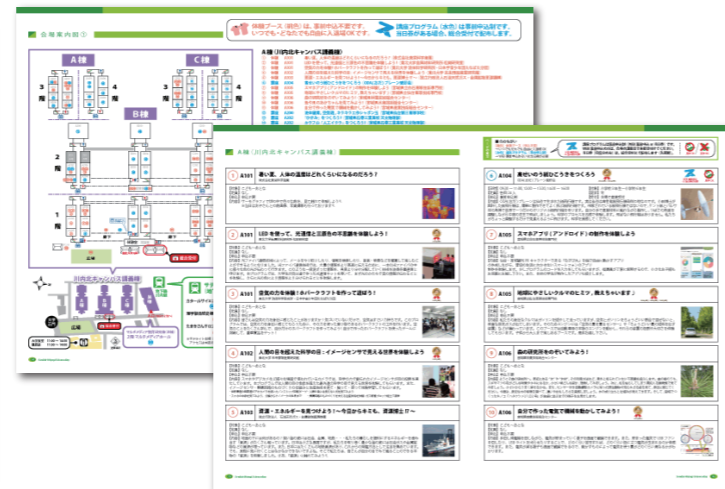
下半期(7月以降)に開催される科学イベント情報を一元的にまとめた『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～科学イベント編～』を、毎年、サイエンスデイのチラシ裏面を活用して作成し、宮城県内の全公立小学校・中学校及び出展高校等(約600校)に全児童・生徒分(約23万部)を全校配布しています。



会場案内ガイドブック イベント当日、来場者に配布(一家族につき1冊ずつ。合計3,000部)



▲背表紙、表紙



▲内容の一部

情報サイト

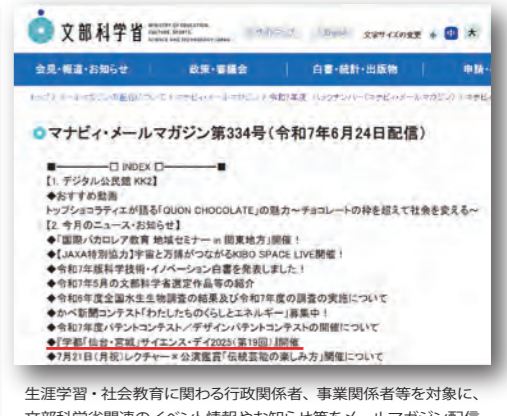
株式会社リクルート「じゃらんnet」



JR東日本「旅行・観光」おすすめ情報



文部科学省マナビィ・メールマガジン



生涯学習・社会教育に関わる行政関係者、事業関係者等を対象に、文部科学省関連のイベント情報やお知らせ等をメールマガジン配信

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025(第19回) / 今年も大盛況のうちに無事終了しました!

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』とは、ブラックボックス化した現代社会で実感する機会の少ない科学や技術の"プロセス"を子どもから大人まで五感で感じられる場づくりを目指し、既存の枠を超えた多様な主体と連携の下、古くから「学都」として知られる仙台・宮城の地において、2007年から手弁当で毎年開催している体験型・対話型の科学イベントです。

はじめはわたくしども NPO 法人 natural science 1 団体からスタートしたサイエンスデイも、現在では趣旨にご賛同いただいた大学や研究所、学術団体や企業など約 200 団体と連携のもと、1 万人規模の来場を誇る全国最大級の科学イベントに成長し、地域連携による科学教育のエコシステムとして地域に定着しています。

おかげさまで今年で 19 年目を迎えるサイエンスデイも、趣旨にご賛同いただいた多様な主体から、共催 (計 17 団体)、後援 (計 49 団体)、協賛 (計 29 団体)、賞創設 (計 78 賞)、そして会場いっぱいとなるのべ 152 団体からご出展いただき、東北大学をまるごと会場にして 7 月 20 日 (日)、合計 117 の科学体験プログラム (講座プログラム型: 37 件・計 136 回実施、体験ブース型: 71 件、サイエンスマップ光編~実物展示版~: 9 件) を一斉実施しました。すべての科学体験プログラムは関係各位のご理解とご協力により無償でご提供いただきました。

さらに今年からは 3GeV 高輝度放射光施設 NanoTerasu (ナノテラス) も共催に加わり、メイン会場である東北大学川内北キャンパス講義棟のほか、サブ会場としてナノテラス、東北大学総合学術博物館 (自然史標本館)、東北大学西澤記念資料室、東北大学史料館もサイエンスデイ当日、特別一般公開いただきました。また当日の本部運営は、東北大学バリューデザイン教育センターと共催し、大学生に対してアントレプレナーシップ及びバリューデザイン (価値創造) の視点を体験的に学ぶ教育機会として提供いたしました。

今年も 1 万人を超える多くの方にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じました。暑い中にご来場いただきました計 10,638 人の皆様、ご出展・ご協力を賜りました関係者の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

これからも知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイを継続的に開催して参りたいと存じます。引き続き、皆様のご理解・ご協力の程よろしくお祈り申し上げます。

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 主催  
特定非営利活動法人 natural science 大草 芳江



学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ  
2025 出展プログラム詳細はこちら

<https://www.science-day.com/program/list.php?y=2025>

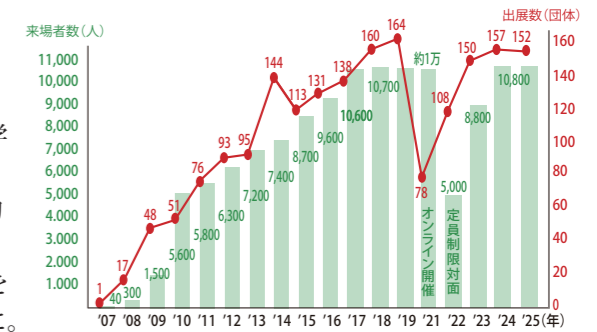


SCIENCE COMMUNITY  
科学・技術の地産地消

natural science は、「知的好奇心を育み自らのアイデアを形にする創造力の育成こそが、その人の心と未来、そして社会を豊かにする何よりの源泉になる」という信念のもと、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて、2005 年東北大学大学院在学中の学生や若手研究者たちで立ち上げた NPO 法人です。「科学・技術の地産地消」をスローガンに、『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』を形成し、大学・研究所や企業等約 300 団体と連携しながら、仙台・宮城の地で生まれた知的資源が教育価値として次世代に還元される循環づくりを目指しています。

1 団体からスタートした科学イベントが 1 万人規模に成長  
300 団体・会員数 3 万人規模の科学教育ネットワークを形成

新たな価値を生み出すプロセスを子どもから大人まで体験できる一般向け科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を手弁当で主催。natural science 1 団体・来場者 40 人からスタートし、活動 19 年で出展者・協力機関約 150 団体・来場者 1 万人を超える全国最大級の科学イベントに成長しています。サイエンス・デイをベースに『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』を立ち上げ、参加機関 (大学や企業等) は約 300 団体、個人会員は約 3 万人規模に。



創造力を育成した人材が IoT の世界大会に通算 8 回 4 年連続出場  
大学発ベンチャー設立、科学的エビデンスに基づく新市場の創出へ

自らのアイデアを形にする創造力を育成するため『科学・技術講座』を受益者負担で自立運営。育成した人材は「国際イノベーションコンテスト」世界大会に通算 8 回 4 年連続出場し、世界 1 位入賞 (計 2 回) や特許取得の他、文部科学大臣賞や総務大臣賞等、合計 84 賞受賞。さらに形にしたアイデアを事業化し、この地で産業を興すロールモデルをつくるべく、東北大学発ベンチャー企業設立 (2020 年)。東北大学医学部・工学部との共同研究により、アイデアの新規性・進歩性が国際調査で認められ (特許第 7007777 号)、科学的エビデンスに基づく新市場創出にむけて産学官連携で事業化を進めています。



教育と研究と産業が循環するエコシステム「科学・技術の地産地消」の実現へ

「科学・技術の地産地消」を生態系 (エコシステム) に例えると、自らのアイデアを形にする創造力育成は「種」、大学や企業など知的資源との連携による共同研究・開発は「発芽」、形にしたアイデアで新たな産業を興すことは「開花」です。そして、得られた「果実」は、仙台・宮城、東北、日本を豊かにし、また次代の種を次々と生み出す土壌になります。この「科学・技術の地産地消」の実現を、『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』は産学官連携で目指します。



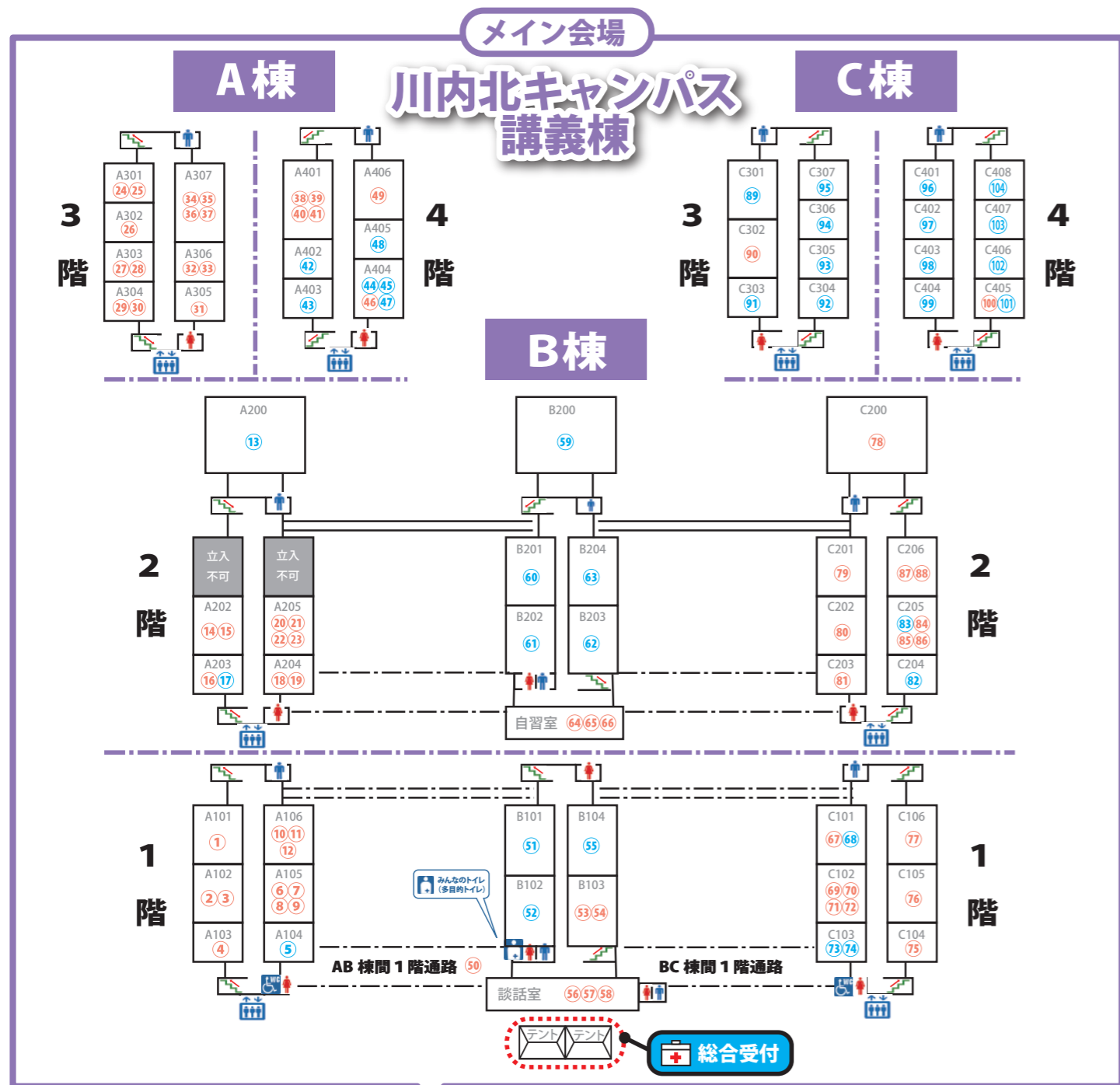


体験ブース(桃色)は、事前申込不要です。  
いつでも・どなたでも自由に入退場OKです。



講座プログラム(水色)は事前申込制です。  
空席の有無は各教室へ直接お問い合わせを。

### メイン会場



**サブ会場へ (地下鉄青葉山駅)**

107 108 自然史標本館 (東北大学総合学術博物館)  
■ 地下鉄「青葉山駅」北1出口より徒歩3分

109 ナノテラス  
■ 地下鉄「青葉山駅」南1出口より徒歩15分、または青葉山連絡バス(ナノテラス便)にて約10分  
■ メイン会場からナノテラスまで直行シャトルバス(事前予約制)。乗降場所は予約後に案内されます。

ナノテラス詳細

※各サブ会場へのアクセスは裏表紙をご参照ください

### A棟 (川内北キャンパス講義棟)

- ① 体験 A101 まじかるマグネット～磁石(じしゃく)であそぼう～(東北学院大学 工学総合研究所)
- ② 体験 A102 ヒトの体を測る・診る・治す「医工学」の技術を体験してみよう!(東北大学大学院医工学研究所)
- ③ 体験 A102 磁石と電気のふしぎな力を体験してみよう!(東北学院大学 工学部 機械知能工学科 オプトメカトロニクス加工研究室)
- ④ 体験 A103 のぞいてみよう。目には見えない光の世界!～最先端技術で広がるファンタジー～(株式会社フォトニククラティス)
- ⑤ 講座 A104 夏空に高せいのう紙ひこうきを作って飛ばそう (ODA(おだ)プレーン愛好会)
- ⑥ 体験 A105 STEAM教育って何?君も未来のイノベーター! (宮城教育大学 ZERO-Step STEAM プログラム事務局)
- ⑦ 体験 A105 ブロックでプログラミング!プログラムで描いた図形のカード作り (東北学院大学情報学部 松本研究室)
- ⑧ 体験 A105 福島イノベ構想クイズ & あるくメカトロウィーゴ相撲大会!  
(株式会社リビングロボット、公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構)
- ⑨ 体験 A105 仙台一高 Presents やってみたいサイエンス (宮城県仙台第一高等学校)
- ⑩ 体験 A106 いろいろなスイッチを押して、家の中の電気配線を学ぼう!(宮城県立大崎高等技術専門学校)
- ⑪ 体験 A106 五重塔を揺らしてみよう!木組み体験コーナーもあるよ!(宮城県立大崎高等技術専門学校)
- ⑫ 体験 A106 自然のチカラで涼しくなる クールエアドーム体験 (宮城教育大学菅原正則研究室)
- ⑬ 講座 A200 電気のひみつ発見!～お話と電気実験で楽しく学ぼう～(東北電力株式会社 宮城支店)
- ⑭ 体験 A202 水のだいぼうけん ～まちに雨をふらせてみよう!～(東北大学 HagiiZ)
- ⑮ 体験 A202 宇宙のいろいろなオーロラをくらべてみよう!(東北大学大学院理学研究科太陽惑星空間系領域)
- ⑯ 体験 A203 ぼんのちょっとだけ歯科技工の世界を体験してみよう (仙台歯科技工士専門学校、和田精密歯研)
- ⑰ 講座 A203 光で固まる不思議なプラスチックで歯を作ってみよう2025 (仙台歯科技工士専門学校、和田精密歯研、GC)
- ⑱ 体験 A204 林業技術総合センター「森の研究室」をのぞいてみよう (宮城県林業技術総合センター)
- ⑲ 体験 A204 宮城の水産業について学んでみよう (宮城県水産技術総合センター)
- ⑳ 体験 A205 リニアモーターカーは、なぜ速いのか? (国府多賀城・科学の森)
- ㉑ 体験 A205 ペン箱を作成してみよう (宮城県立石巻高等技術専門学校)
- ㉒ 体験 A205 食べ物って何からできてるの?カルタを使って“食べ物”を学ぼう (東北大学大学院農学研究所)
- ㉓ 体験 A205 色んなロボットを動かしてみよう! (石巻専修大学 ロボット研究会)
- ㉔ 体験 A301 はかるって何だ?プログラム & ミニ工作に挑戦! (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社)
- ㉕ 体験 A301 古代人が顔を映した? あなたなら銅鏡をどう調べる? (東北大学金属材料研究所 新創創造学際ハブ推進室)
- ㉖ 体験 A302 光をわけて普段と違う世界を見てみよう! (宮城県仙台第三高等学校 自然科学部)
- ㉗ 体験 A303 洪水から街を守ろう!～ゲームで学ぶ洪水のしくみ～ (東北学院大学工学部 水工学研究室)
- ㉘ 体験 A303 ぶるぶるくんと実験をしよう!五感で学ぶ幼児向け科学教育デバイス(東北学院大学工学部機械知能工学科バーチャルリアリティ研究室)
- ㉙ 体験 A304 同じ形のピースだけで不思議な立体が作れるって本当?Let's Play with Symmetry! (宮城県泉館山高等学校 DXLab)
- ㉚ 体験 A304 算数 & 理科好きな子この指とまれ!勉強嫌いな子この指とまれ! (泉館山高等学校 総合科学部)
- ㉛ 体験 A305 身近な疑問がいっぱい!“発電”って面白いを感じてね (仙台青陵中等教育学校 科学部)
- ㉜ 体験 A306 身近な色素を使ってくすりの研究を学ぼう (東北大学大学院薬学研究所)
- ㉝ 体験 A306 出張薬用植物園 見て!触れて!教室が植物園に大変身 (東北大学大学院薬学研究所)
- ㉞ 体験 A307 電気の魔法で物質を分解!電気分解の冒険 (宮城県工業高等学校 化学部)
- ㉟ 体験 A307 ちっちゃな世界をのぞいてみよう!見えるかな?なにがあるかな?なにに使うのかな?(宮城県工業高等学校 自然科学部)
- ㊱ 体験 A307 くるくるマグネットワールド～磁石の力であそぼう～ (宮城県立白石高等技術専門学校)
- ㊲ 体験 A307 食虫植物の世界 食品とPHの関係を調べてみよう! (宮城県仙台南山高等学校 自然科学部)
- ㊳ 体験 A401 攻撃者から身を守れ!～情報セキュリティの基本を楽しく学ぼう～ (東北工業大学 工学部 情報通信工学科 角田研究室)
- ㊴ 体験 A401 サイバーセキュリティやサイバー犯罪捜査を体験してみよう! (宮城県警察本部サイバー犯罪対策課)
- ㊵ 体験 A401 インターネットを安全に楽しく歩こう～情報セキュリティを正しく理解すればこわくない～ (慶應義塾大学 KGRI サイバーセキュリティ研究センター)
- ㊶ 体験 A401 サイバー攻撃被害からの脱出! - 謎解きで学ぶ情報セキュリティ - (仙台高等専門学校 和泉研究室)
- ㊷ 講座 A402 ミニ電気自動車を作って走らせてみよう!ハイブリッド自動車のしくみを見てみよう!(宮城県産業技術総合センター)
- ㊸ 講座 A403 金属を研磨してピカピカに輝くサイコロを作ってみよう!(宮城県立仙台高等技術専門学校)
- ㊹ 講座 A404 自分が撮った動画をCG空間で鑑賞してみよう!(公立大学法人宮城大学事業構想学群)
- ㊺ 講座 A404 どうして?だからか!—60年後の感覚を体験して、高齢者看護を考えよう— (公立大学法人宮城大学)
- ㊻ 体験 A404 ビッグデータで見る!仙台・東北のお祭り体験 (公立大学法人宮城大学 太田研究室)
- ㊼ 講座 A404 仙台・東北のお祭りをビッグデータで見よう!(公立大学法人宮城大学 太田研究室)
- ㊽ 講座 A405 お肉を柔らかくして、より美味しく食べよう!(公立大学法人宮城大学食産業学群動物遺伝育種学分野)
- ㊾ 体験 A406 ロケット打上大作戦 一無事に地球へ帰還せよ (東北大学 FROM THE EARTH)
- ㊿ 体験 A401 森のイロイロ (東北工業大学ライフデザイン学部 生活デザイン学科 地域環境研究室)

### B棟 (川内北キャンパス講義棟)

- ① 講座 B101 生活の中のアミノ酸・ペプチドを見つけてみよう!(東北医科薬科大学)
- ② 講座 B102 紙ブーメランを作って、「ブーメランはなぜ戻ってくるのか?」体験して考えてみよう!  
(宮城県ブーメラン協会 共催:東北工業大学経営コミュニケーション学)
- ③ 体験 B103 未来の科学者ブース:小中学生の研究発表を見て!聞いて!オリジナルのゲームで遊ぼう!(東北公益文科大学公益ジュニアドクターセンター)
- ④ 体験 B103 いつでも・どこでも・だれでも天体観測～インターネット望遠鏡とVRプラネタリウムの体験～  
(インターネット望遠鏡プロジェクト、山形県立致道館高等学校)
- ⑤ 講座 B104 ブロックで街を守ろう!マイクラで学ぶ大雨と洪水(Minecraft非公式) (東北工業大学/東北学院大学/株式会社建設技術研究所)
- ⑥ 体験 B105 (旧談話室) 「科学者の卵養成講座」～なぜ?ふしぎ!からはじまる科学者への道～ (東北大学「科学者の卵養成講座」)
- ⑦ 体験 B105 (旧談話室) 学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～光編～2025 (合計9ブース出展)
- ⑧ 体験 B105 (旧談話室) 近赤外線ってなに?光で探るかくれたヒミツ (日本大学工学部電気電子工学科センシングフォトニクス研究室)



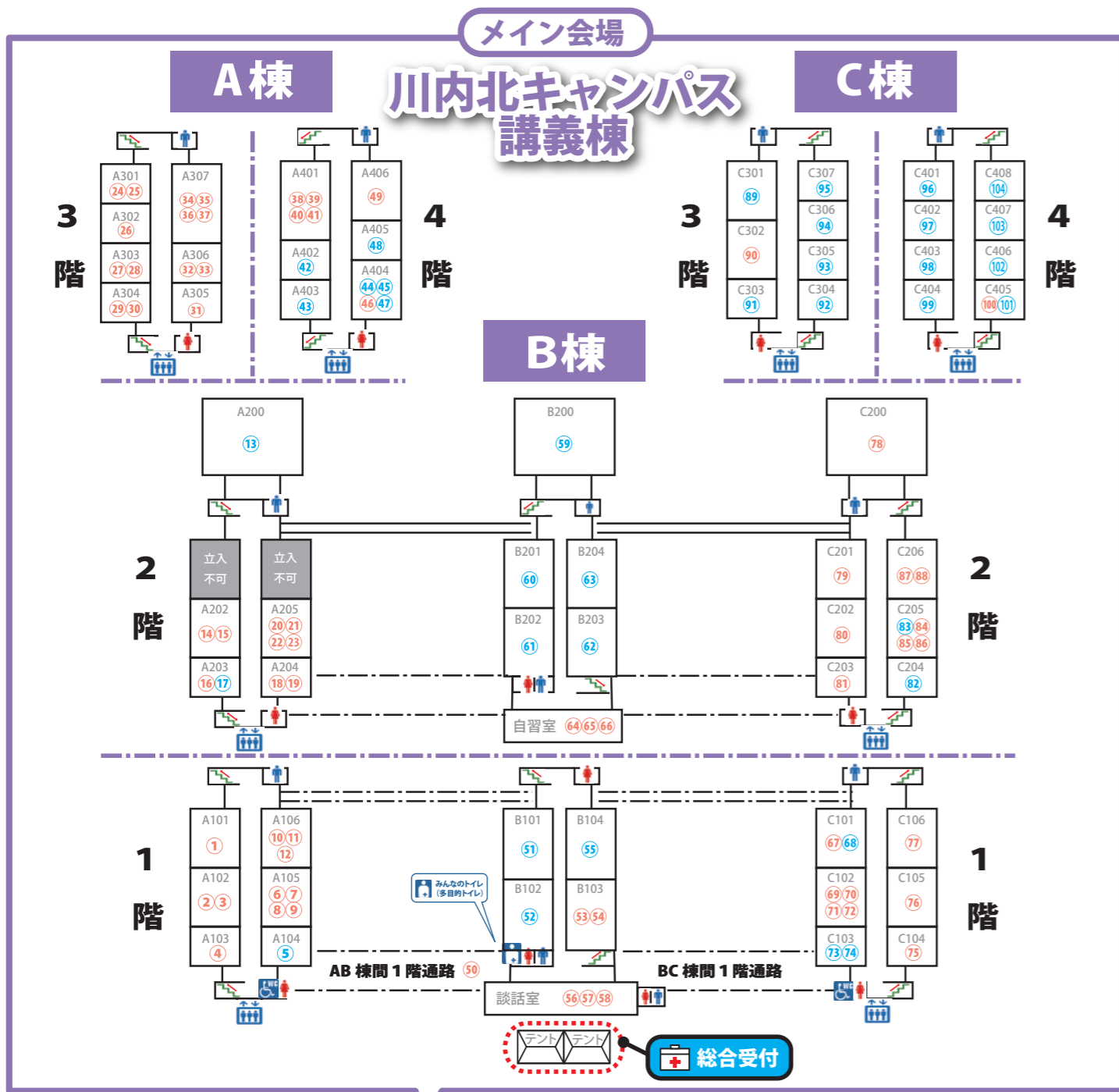
つぎのページ  
につづくよ!



体験ブース(桃色)は、事前申込不要です。  
いつでも・どなたでも自由に入退場OKです。



講座プログラム(水色)は事前申込制です。  
空席の有無は各教室へ直接お問い合わせを。



### B棟 (川内北キャンパス講義棟) つづき

- 59 講座 B200 大道仮説実験講座(しゅぼしゅぼ)(NPO法人楽知ん研究所 仙台)
- 60 講座 B201 AI絵本をつくろう!(とみや つなぎ つなぐれ みちのく協議会(T3みちのく協議会))
- 61 講座 B202 なるほど日本史・史料館〜歴史も科学だ!〜(加藤諭(所属 東北大学史料館)、エフエムたいはく)
- 62 講座 B203 天気と火山のヒミツにズームイン!〜災害についてしらべてみよう!〜(仙台管区気象台 協力:仙台市、一般社団法人日本気象予報士会東北支部、NPO法人防災士会みやぎ)
- 63 講座 B204 LEDを使って光るオブジェを作ろう(仙台城南高校美術デザイン部 & ちくろロボット研究部)
- 64 体験 B205(旧自習室) リアルタイムモーションセンシング体験(東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター、東北大学多元物質科学研究所、東北大学知の創出センター)
- 65 体験 B205(旧自習室) 銅ってすごい!活躍する金属:銅となかまたち(東北大学多元物質科学研究所 非鉄金属製錬環境科学共同研究部門、東北大学多元研非鉄部門、住友金属鉱山、日本鉱業協会、日本銅センター)
- 66 体験 B205(旧自習室) 手作り vs 光 vs 電子 顕微鏡を比べてみよう!(東北大学多元物質科学研究所 寺内研究室)

### C棟 (川内北キャンパス講義棟)

- 67 体験 C101 電池のしくみを知ろう!(トヨタバッテリー株式会社)
- 68 講座 C101 ジュースで「電池」を作ろう!(トヨタバッテリー株式会社)
- 69 体験 C102 現代に生きる工芸指導所のデザインに触れてみよう!(国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター)
- 70 体験 C102 産総研クイズに挑戦!参加者には工作キットをプレゼント!(国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター)
- 71 体験 C102 小さな世界が未来を変える?研究成果に触れてみよう!(国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター)
- 72 体験 C102 AI搭載のアザラシ型セラピーロボット「パロ」とふれあおう!(国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター)
- 73 講座 C103 博士と光反応を体験しよう!(国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター)
- 74 講座 C103 博士とトウモロコシ由来のバイオマスプラスチック作りをしよう!(国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター)
- 75 体験 C104 ILC 緑日 ~宇宙のなぞを楽しく学ぼう~(東北 ILC 推進協議会)
- 76 体験 C105 半導体会社で大活躍!!人生ゲームでお仕事を体験しよう!(東北経済産業局)
- 77 体験 C106 体感!電気電子〜ロボット・電子機械を知ろう~(東北工業大学工学部電気電子工学課程)
- 78 体験 C200 NUMO×東京大学 CAST「サイエンス&実験」パフォーマンスショー (NUMO×東京大学 CAST)
- 79 体験 C201 二華中水世界(仙台二華中学校 自然科学部)
- 80 体験 C202 おてんき・じしん百科展 2025(仙台管区気象台 協力:仙台市、一般社団法人日本気象予報士会東北支部、NPO法人防災士会みやぎ)
- 81 体験 C203 体験しよう!地層処分 火山灰や溶岩の一部を使ったバスポムづくりと、不思議なねんどの実験!(原子力発電環境整備機構 (NUMO))
- 82 講座 C204 バーチャルな3次元空間で自分のテーマパークを作ろう!(株式会社フォーラムエイト)
- 83 講座 C205 君は名探偵?!化学の力で水を見分けてみよう!!(東北工業大学工学部環境応用化学科丸尾研究室)
- 84 体験 C205 電気のみつを探れ!ワイヤレスでおもちゃが動く!?(東北工業大学工学部情報通信工学科 袁研究室)
- 85 体験 C205 レーザーハーブを演奏しよう!(東北工業大学工学部情報通信工学課程 佐藤研究室)
- 86 体験 C205 ドボクを体験 つよいぜ!!紙で橋をつくってみよう(東北工業大学工学部都市工学課程、(一社)日本橋梁建設協会)
- 87 体験 C206 海底から「科学のお宝」を掘り出す探検航海に出よう!(日本地球掘削科学コンソーシアム 共催:海洋研究開発機構 研究プラットフォーム運用部門)
- 88 体験 C206 知っていた?海と陸の岩石がちがうこと(海洋研究開発機構 海域地震火山部門)
- 89 講座 C301 ナノって何なの?!おどろきの金ナノ粒子を創っちゃえ!!(東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター、東北大学多元物質科学研究所、東北大学知の創出センター)
- 90 体験 C302 「科学が好き!」な仲間に出会える国際科学オリンピックを体験してみよう!(日本科学オリンピック委員会)
- 91 講座 C303 化学ってキレイ!光る世界にいざチャレンジ!!(宮城県多賀城高等学校 SS 科学部)
- 92 講座 C304 つくってみよう 小さな星空!(仙台市立仙台高等学校 天文地学部)
- 93 講座 C305 大地からのおくりもの4〜親子でトライ!湯・石のヒミツ(Waku2 as life × ゆざわジオパーク × 箱根ジオパーク × 蔵王ジオパーク × ACADEMIJAN)
- 94 講座 C306 Rica カードのナツをとけ!〜はこに近づけると光るふしぎなLED〜(応用物理学会東北支部)
- 95 講座 C307 LEDを使った光る飾りをつくろう!(HOKUSHU 仙台市科学館)
- 96 講座 C401 電池ってふしぎ!じぶんできつくみよう!(独立行政法人 製品評価技術基盤機構東北支所)
- 97 講座 C402 コイルと磁石でモーターを作ろう(仙台市太白少年少女発明クラブ)
- 98 講座 C403 地震について、ちょっとだけ知っておく(認定NPO 防災・減災サポートセンター、協力:公益社団法人日本技術士会東北本部応用理学部)
- 99 講座 C404 光を食べるスライムを作ろう!〜色はなぜ見えるのか?〜(国立研究開発法人理化学研究所)
- 100 体験 C405 ~電波ってナニ??~電波を使うと遠くのひととお話ができます!?(一般社団法人日本アマチュア無線連盟宮城県支部 共催:東北大学学友会アマチュア無線部・国立仙台高専広瀬アマチュア無線クラブ)
- 101 講座 C405 わたしの声は電波にのって、どこまで行くの??(一般社団法人日本アマチュア無線連盟宮城県支部 共催:東北大学学友会アマチュア無線部・国立仙台高専広瀬アマチュア無線クラブ)
- 102 講座 C406 生物多様性(せいぶつたようせい)ってなあに?〜カードゲームでシミュレーションしてみよう〜(東北大学生態適応グローバルCOE)
- 103 講座 C407 つくってあそんで、楽しく学ぼう「ICレコーダーワークショップ」(ソニーグループ株式会社 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社)
- 104 講座 C408 「電波」って何だ? ワイドFM対応AM/FMラジオを作ろう!(日本無線株式会社)

### A棟前ひろば、サブ会場 (西澤記念資料室、自然史標本館、ナノテラス)

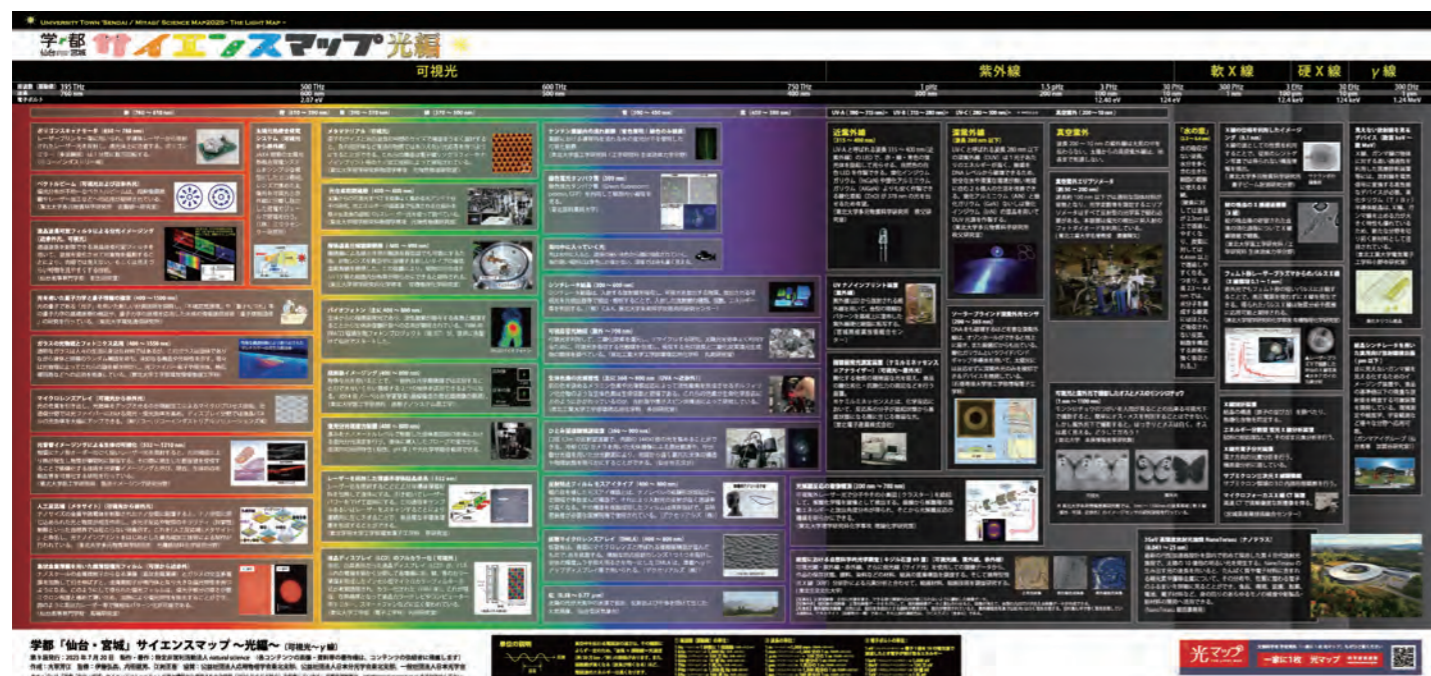
- 105 体験 A棟前ひろば 移動天文車ベガ号による「真昼の天体観望会」(仙台市天文台)
- 106 体験 西澤記念資料室 サイエンスデイ当日、西澤記念資料室を特別一般公開します(東北大学理学部自然史標本館(総合学術博物館))
- 107 講座 自然史標本館 講演会「サカナのようなは虫類の物語〜恐竜時代における魚竜類の進化」& イベント・ワークショップ(東北大学理学部自然史標本館(総合学術博物館)、東北大学総合学術博物館・みちのく博物楽団)
- 108 体験 自然史標本館 サイエンス・デイ当日入館無料です!(東北大学理学部自然史標本館(総合学術博物館))
- 109 体験 ナノテラス ナノテラスで学んでみよう〜なぜなに光の不思議と最先端技術(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 NanoTerasu 総務事務局)

# 学都 仙台 宮城 サイエスマップ 光編

この世界は光で満ち溢れています。光と言うと、普通はヒトの目に見える「可視光」を指しますが、可視光は電場と磁場の波である「電磁波」の一種で、実は電波や赤外線、紫外線、X線なども、波の長さ（波長）が異なるだけで同じ電磁波です。この『学都「仙台・宮城」サイエスマップ光編』では、可視光を含めた電磁波が、どのように社会で使われ、どのような現象に関わっているか、仙台・宮城の切り口で紹介します。

**紙版**（第9版／数量限定・事前予約制）

学都「仙台・宮城」サイエスマップ～光編～の紙版（第9版）では、学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティの皆様から提供された全情報（合計103件）を掲載しています。「総合受付」にて配布中です（事前予約制・数量限定）。



## 実物展示版（合計9ブース出展／申込不要・入退場自由）

学都「仙台・宮城」サイエスマップ～光編～の紙版に掲載された“実物”を実際に見ることができるコーナーです。今年度は合計9ブースが光の波長順に並びます。ぜひ紙版のマップを片手にご覧ください。

電波	 <p><b>光① セシウム原子時計と電波時計</b> 電波無線等で利用される「標準周波数」と電波時計や電化製品の時刻合わせに利用される「日本標準時（JST）」を伝える標準電波（JJY）の送信所が、『おたかどや山標準電波送信所』（福島県）と『まがね山標準電波送信所』（福岡県/佐賀県）です。情報通信研究機構（NICT）は、上記2か所の送信所、東京（小金井市）、神戸の4か所にある合計30台以上の原子時計を使ってニオブ酸リチウム結晶を用いて実現しています。本光源の特長は、高効率にテラヘルツ波を発生させるだけでなく、約1THzから3THzまでの波長を自在に選択でき、かつ高速に切り替えることができます。また最近、新しいテラヘルツ波発振の原理が発見され、手のひらサイズになった光源（後進テラヘルツ波パラメトリック発振器）も参考出展します。（国立研究開発法人情報通信研究機構）</p>	
遠赤外線	 <p><b>光② ランダム・高速波長可変テラヘルツ波光源</b> 電波と光波の境界にあるテラヘルツ電磁波は、紙、布、プラスチック、セラミックスなどを透過し、一方でナイフ、針、銃などには遮断され透過しないことから、安全安心セキュリティ応用や、他にも食品の異物検査、薬の品質チェック、電子部品の回路診断など幅広い非破壊検査での利用が期待されています。リング共振器型テラヘルツ波光源は、赤外線レーザー光を波長変換してテラヘルツ波を発生させる装置です。波長変換は、非線形光学の原理に基づいてニオブ酸リチウム結晶を用いて実現しています。本光源の特長は、高効率にテラヘルツ波を発生させるだけでなく、約1THzから3THzまでの波長を自在に選択でき、かつ高速に切り替えることができます。また最近、新しいテラヘルツ波発振の原理が発見され、手のひらサイズになった光源（後進テラヘルツ波パラメトリック発振器）も参考出展します。（国立研究開発法人理化学研究所）</p>	
中赤外線	 <p><b>光③ 火山活動を観測する赤外線映像装置</b> 気象庁では、“光”や“電波”を使ってさまざまな観測をしています。その一部として、火山観測で離れた場所から火口付近の温度を測る「赤外線映像装置」を展示します。（仙台管区気象台）</p>	<p>関連出展 <b>80</b> C202</p>
近赤外線	 <p><b>光④ アイセイフレーザー</b> レーザーは、自然光にはない優れた性質を持っているため、光通信やセンシング、加工などあらゆる分野で活躍しています。こんなに便利なレーザーですが、人がいる場所で使うときには、目に対する安全性に十分に配慮する必要があります。波長1.4μm以上の赤外線レーザー光は、目に対する安全性が高いため、アイセイフレーザーと呼ばれています。この展示では、大気観測などに使われる高出力の波長2μmアイセイフレーザー装置と、その内部でレーザー光を発生させるレーザー結晶を紹介いたします。（東北工業大学 工学部 情報通信工学科 佐藤研究室）</p>	<p>関連出展 <b>85</b> C205</p>
近赤外線	 <p><b>光⑤ 光は世界を駆け巡る～超高速・長距離光通信を支える光ファイバー増幅器～</b> 光ファイバー通信は私達の情報社会を支える重要な技術です。石英ガラスから成る光ファイバーは、光信号を速くまで伝搬することができる高性能な伝送媒体です。しかしながら、ガラス中で生じる光の散乱や吸収によって光ファイバーにもわずかながら伝送損失があります。そのため長距離伝送を実現するためには、弱くなった光信号を途中で増幅する光増幅器が必要になります。エルビウムという金属を添加した光ファイバーを用いた光増幅器は、簡単な構造で波長1.55μm帯（μmは1/1000mm）の光信号を効率良く増幅することが出来ます。当展示ブースでは、超高速・長距離光通信を支えるエルビウム光ファイバー増幅器をご紹介します。（東北大学電気通信研究所・災害科学国際研究所）</p>	<p>関連出展 <b>106</b> 西澤記念資料室</p>
可視光	 <p><b>光⑥ 「ミスター半導体」が開発した「世界第1号」の高輝度LED赤色灯【本物】</b> 現代のIT社会に欠かせない半導体や光通信の基礎となる技術を開発し、「ミスター半導体」と呼ばれ、ノーベル賞候補にもなった仙台市出身の研究者・西澤潤一さん（元東北大学総長）。西澤さんが当時開発した高輝度LEDが従来のLEDと比べて100倍以上も明るいことを社会に示すため「世界で初めて開発した」高輝度LED回転赤色灯（本物）と従来のLEDとの輝度の比較を展示します。（特定非営利活動法人 natural science 協力：西澤記念資料室、東北大学総合学術博物館、江刺正喜 東北大学名誉教授）</p>	<p>関連出展 <b>106</b> 西澤記念資料室</p>
可視光	 <p><b>光⑦ 緑色蛍光タンパク質（Green fluorescent protein, GFP）</b> 緑色蛍光タンパク質（Green Fluorescent Protein, GFP）は、約490nmの青色の光を受けて約509nmの緑色の蛍光を発するタンパク質です。1962年に下村脩博士がオワンクラゲより発見し、その功績により2008年にはノーベル化学賞を受賞されています。GFPは現在様々な研究分野で利用されており、例えば、遺伝子組換え技術を用いることで、光学顕微鏡では見ることができない小胞体やゴルジ体などの細胞内小器官（オルガネラ）の形態や存在位置、動きをリアルタイムで観察したり、緑色に光る遺伝子改変動物を作製したりすることができ、医学・薬学の発展に貢献しています。（東北医科薬科大学）</p>	
可視光	 <p><b>光⑧ 光質の違いによる水産動物の行動制御</b> 水の中で暮らす生き物たちも、私たちと同じように「色」を感じ取ることができます。照らされる光の色によって、エサをたくさん食べるようになったり、穏やかに落ち着いた動きを見せたり、反対に苦手な色から逃げようとすることもあります。色の違いによって変化する海の生き物たちの行動を、ぜひゆっくりとご覧ください。（東北生活文化大学短期大学部）</p>	
紫外線	 <p><b>光⑨ キジル石窟壁画の自然科学的調査</b> 【写真①】正常光画像：左右に光源を置き、画面の凸凹がないように撮影。 【写真②】側光線合成画像：正常光画像データをネガにして、側光線画像データと重ね合わせると凸凹がなくなり、表面の凸凹だけが見える。 【写真③】紫外線蛍光画像：白色には、鉛白を主成分とする顔料（鉛白）が使用され、紫外線蛍光写真では鉛Pbは白く蛍光を発する。羽毛の真ん中で青色蛍光を発している顔料は、アタカマイト（若緑青の一種）、その上部の濃紺色は、ラピスラズリ（青金石）である。（東北生活文化大学）</p>	



Scienceday AWARD 2025

あなたが「よい」と思ったプログラムに、あなたの賞をあげませんか？

サイエンスデイ AWARDは、現代社会では実感する機会の少ない科学や技術の“プロセス”の中からよいプロセスを選び、顕彰することを通じ、私たちの社会がより心豊かなものとなることをめざした活動です。

サイエンスデイ AWARDは、いわゆる科学・技術のコンクールではありません。一般的な科学・技術の評価制度は、その成果を評価しています。しかし、サイエンスデイ AWARDは、その結果に至るまでのプロセスが、「知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資する」という観点、つまり、科学や技術の成果だけでなく、科学的なものの見方や考え方、科学に対する姿勢という視点から評価をおこないます。

そもそも科学や技術は自然や社会に根ざした思考であり、自然や社会に密着した様々なものごとを生み出す方法論です。したがって、極めて優れた科学や技術の成果が登場しても、その結果を単に利用するだけでは、真に心豊かな社会を創造することはできません。優れた科学や技術の“プロセス”が共有されることにより、次、その次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、さらなる心豊かな社会が達成されていく。そうした共感の輪をつくりだす場となることが、サイエンスデイ AWARD創設の目的です。

また、サイエンスデイ AWARDは、よいプロセスを誰もが共有できるよう、そのよさを第三者の視点から残すことをめざしています。わたしたちが心豊かな社会を生きるために、科学や技術は必要であり、わたしたち一人ひとりが科学や技術を理解していかなければならない時代です。つまり、よい科学や技術は、その思考、方法論を誰もが活用できなければ、存在意義をはたせません。その思考、方法論が、様々な活動において私たち一人ひとりが次のよりよい科学や技術、そして社会を創造する原動力となることを、サイエンスデイ AWARDは願っています。

そもそも、よい科学や技術とは何か。そこには、さまざまな視点があります。そのため、サイエンスデイ AWARDでは、複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体を問わず誰でも賞を創設することができることとし、審査会場を『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』として一般公開するなど、開かれた審査を行います。よい科学や技術とは、そもそも何か。サイエンスデイ AWARDは、参加する一人ひとりがそれを考え、自由に提案することを通して、心豊かな社会を模索し創造する場となることをめざしています。

審査・表彰のプロセス

ポイント

- ①賞は、個人・団体を問わず、誰でも創設することができます。
- ②サイエンス・デイ出展プログラムすべてが審査・表彰の対象となります。
- ③賞創設者はサイエンス・デイ当日に会場で楽しみながら審査し、後日開催される表彰式にて受賞者の健闘を褒め称えてください。

必要なもの

- ・賞創設に関わる費用：無料(賞創設・審査・表彰等に関する経費はご負担ください)
- ・ご用意いただくもの：賞名、賞創設者名、審査基準、副賞、(審査後)授賞理由

スケジュール

- 6月27日(金) まで提出
  - ・賞および賞創設者の名称(表彰状に掲載)
  - ・審査基準
- 7月20日(日) 当日
  - 【学都「仙台・宮城」サイエンスデイ会場での審査】
- 7月22日(火) まで提出
  - ・授賞結果(翌日にノミネート団体発表のため)
- 7月28日(月) 午後2時～
  - 【サイエンスデイ AWARD表彰式での表彰】
  - ・授賞理由および副賞(賞創設者の特長を活かした何か)
  - ※副賞は賞創設者と受賞者で直接やり取りください
  - ※表彰状は事務局でご用意します(後日郵送します)

Scienceday AWARD 表彰式

[日時] 2025年7月28日(月) 14～17時頃  
[会場] 東北大学サイエンスキャンパスホール

- ・サイエンスデイ AWARD表彰式では、賞創設者並びに受賞者から1分ずつのプレゼン形式となります。プレゼンは「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」の自己推薦者の審査も兼ねています。
- ・表彰結果はホームページで発表します。

サイエンスデイAWARD2025表彰式開催／お互いに自分の賞をつかって「よい」プログラムを表彰し合う(計72賞)



サイエンスデイでは、自分が一番「よい」と思ったプログラムに対して自分の賞をつかって表彰し合う「サイエンスデイ AWARD」を2011年度から行っています。「よい」科学や技術とは、そもそも何か。そこには多様な視点があります。サイエンスデイ AWARDでは、複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体問わず、誰でも自分の賞を創設できることが最大の特徴です。

今年度は中高生から専門家まで過去最多の合計72のAWARDを創設いただき、7月28日に東北大学サイエンスキャンパスホールを会場に開催したサイエンスデイ AWARD 表彰式において各賞が授与されました。当日は約200名の賞創設者並びに受賞者にご参加いただきました。サイエンスデイ AWARD 表彰式はプレゼン大会形式となっており、表彰者はどんな点を評価したのかを、受賞者はどんな点を工夫したかを、それぞれ1分ずつプレゼンしました。また、賞創設者からはそれぞれ自身の特性を活かした副賞が受賞者に授与されました。さらに、そのプレゼンを聞いた参加者による会場投票で「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」のベストプレゼンター賞が賞創設者の部と受賞者の部で各1件ずつ決まりました。

なお、サイエンスデイ AWARD 表彰式での1分プレゼンは、「サイエンスデイ オブ ザ イヤー 2025」のプレゼン審査も兼ねており、サイエンスデイ当日の出展内容と併せて、審査委員会による厳選なる審査が行われました。



サイエンスデイ AWARD表彰式

賞創設者 1分プレゼン

賞創設者からの副賞授与

受賞者 1分プレゼン



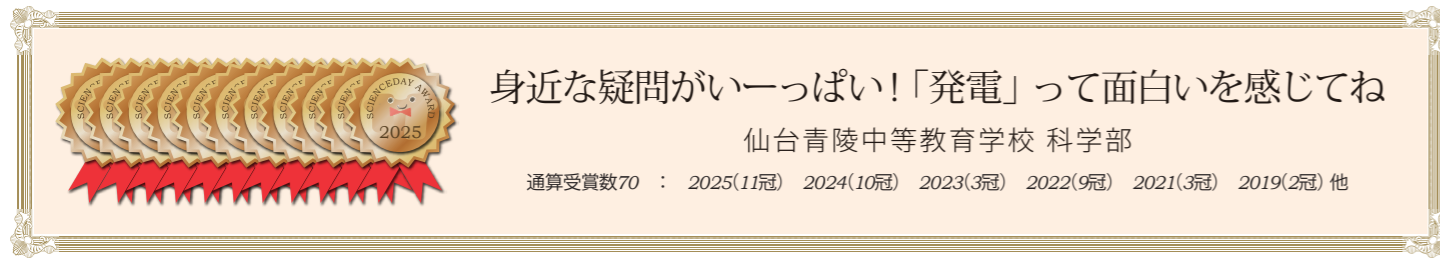
【図】表彰状のイメージ



【写真】これまでの表彰式の様子



複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体問わず、誰もが、自分の視点で自分の賞を創設できることが、サイエンスデイ AWARD の最大の特徴だよ！



**受賞者コメント**

今回私達は、6つのブースに区切り、それぞれのブースを通して、発電に対する理解を深めることを目的としました。私達仙台青陵科学部は、子供から大人にかけて、身近な「ぎもん」や「ふしぎ」から、科学のおもしろさを知ってもらうということをコンセプトにし、ブースを立ち上げました。これからもより多くの人に、身近には「ぎもん」がいっぱいあること、またそれを理解することは楽しいということを伝えていきたいと思っています。最後に、サイエンスデイに関わる全ての方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。この度は本当に、ありがとうございました。

**【賞名】 仙台歯科技工士専門学校 学校長賞 (伊藤 多佳男)**

**【理由】** 今年も電気！今回は、火力、原子力、再生可能エネルギーによる発電方式それぞれの特徴・利点・欠点について、とてもわかりやすく簡潔に説明を加えるだけでなく、「電車の模型に自分で発電した電気を送って走らせる」「自分が発電した電気を電磁誘導で送電対象に送る」「光の強さが太陽電池の発電量に与える影響を見る」といったことを、実際の体験を通して理解させようとする取り組みが素晴らしかったです。人間がよくわからないものを理解するためには、何と言っても「実際に見て」、「実際に手を動かす」ことが最善手ですね。個人的には太陽光発電ブースの「凝り過ぎずシンプル」に全振りした潔さが MVP です w

**【副賞】** ミニ義歯ストラップ、出張授業体験(ご希望に応じて)

**【賞名】 東北大学大学院理学研究科長賞 (都築暢夫・東北大学大学院理学研究科長)**

**【理由】** 物理現象としての発電の仕組みと発電所から家庭や事業所に電気を送り届ける工学的または経済的な視点での解説まで、発電にまつわる科学技術について楽しく学ぶことができました。実際に手を動かし体験したり、作成する企画が盛り沢山で、科学部の皆さんが実験したり、調べたりしながら発電という物理現象の不思議の解明に挑んで掴んだ面白さが、来場者によく伝わっていました。サイエンスの楽しさが溢れた非常に優れたプログラムでした。

**【副賞】** 記念盾の贈呈、ならびに受賞した皆様を東北大学大学院理学研究科で実施している最先端研究を紹介する「ぶらりがく for You」にご招待します。

**【賞名】 電気学会東北支部長賞 (電気はおもしろい賞) (一般社団法人電気学会 東北支部長 山田 利之)**

**【理由】** 毎年テーマを変えて、今年は「発電」をテーマとしての出展。体験型の展示で発電をわかりやすく工夫しての発表・展示が、電気学会東北支部長賞の理念に沿い、授賞に相応しいものと評価しました。

**【副賞】** 図書カード(10,000円分)

**【賞名】 「E」でしょう! (東北大学大学院環境科学研究科長 吉岡敏明)**

**【理由】** 火力、原子力に加えて太陽光発電等の再生可能エネルギーの原理、メリットデメリットの説明からはじまり、実際に手回し発電機での発電体験と送電の仕組みの説明、磁石や太陽光発電のデモンストレーション、圧電素子を用いたふりふり発電機の作成と、子供から大人まで非常に楽しめる上に、発電について学べるプログラムでした。また説明者の説明もわかりやすく、しっかりと質問にも答えてくれました。種々の発電技術を理解し、改善することや組み合わせることはエネルギー環境問題に取り組む社会において非常に重要であり、本プログラムを受賞対象としました。

**【副賞】** 研究科グッズ(文房具セット)

**【賞名】 Tohtech E&E Prize (東北工業大学工学部 電気電子工学課程 課程長 藤田 豊己)**

**【理由】** 「電気」をテーマにした展示は、私たちの身近にありながら不思議な存在である電気について理解を深め、感じ取ることができる内容でした。生徒たちが主体となって電気の「なぜ」を探求する様々な展示を行い、その過程で来場者が楽しみながら学ぶ姿は非常に印象的でした。また、これらの展示が我々の電気電子工学課程が対象としている電気を扱っていた点も本賞の目的に合致していました。昨年度からさらに進化している点もよかったです。以上の点について高く評価し、賞を贈らせていただきます。

**【副賞】** ロボット工作キット

**【賞名】 バリューデザイン未来共創賞 (東北大学バリューデザイン教育センター長 森谷祐一)**

**【理由】** 仙台青陵中等教育学校 科学部の展示「身近な疑問がいっぱい!『発電』って面白いを感じてね」は、科学を通じた価値創造と探究の優れた実践でした。「発電」という高度な概念を、子どもから大人まで楽しめる体験型ブースで提示し、来場者を「疑問」から「体験」、そして「発見」へと導く工夫が凝らされていました。この展示は、日常の電力・エネルギー課題に対する問いから試行錯誤を重ねて構築されており、まさに「課題発見から価値創造へ」というバリューデザインの模範例です。また、来場者の好奇心を引き出す構成と、対話的な説明スタイルは、科学への共感と「自分もやってみたい」という意欲を促進していました。今後も「未来を共に創る」科学展示としてのさらなる発展が期待されます。

**【副賞】** バリューデザイン便利グッズ

**【賞名】 東北大学大学院農学研究科長賞 (北澤 春樹・東北大学大学院農学研究科長)**

**【理由】** 子どもたちの興味を引きやすい電車の模型を使って発電のしくみを伝えるというアイデアが、とても魅力的でした。発電機で実際に動く電車の模型は細部まで精巧に作られており、学生の皆さんの高い技術力と、準備にかけた努力が伝わってきました。また、火力発電や原子力発電など、さまざまな発電方法について紙芝居を使って丁寧に説明する姿も印象的でした。それぞれのしくみだけでなく、社会的な課題にも触れながら分かりやすく伝えようとする姿勢には、科学を伝える喜びと責任が感じられ、将来の科学技術の担い手としての成長と活躍が大いに期待されます。これらの点を高く評価し、本賞を贈呈いたします。

**【副賞】** 東北大学グッズ

**【賞名】 ソニーグループ賞 (ソニーグループ株式会社 仙台テクノロジーセンター)**

**【理由】** いろいろな発電方式を楽しみ体感できる多彩なブースにより、参加者自身が学びを得られる場を創出した点を評価しました。磁石から出る磁力線を可視化したりして従来の電磁誘導式の発電機の原理説明を行い、実際にダイナモで自動車や電車の模型を動かすことで発電の効果を可視化するなど工夫を凝らした実演や、再生可能発電方式の体験型演示など、好奇心を刺激するアプローチで、子供たちがそれぞれの発電方式の原理とおもしろさを知る良い機会になっていました。子どもたちに さらに深い学びの場を提供してくれることに期待をしてこの賞を贈ります。

**【副賞】** ソニー製品

※テレビ、ビデオカメラ、ブルーレイプレーヤー、ワイヤレススピーカーなど、リストの中から受賞者のご希望のソニー製品を贈呈します。

**【賞名】 日本物理学会東北支部長賞 (日本物理学会東北支部長 木村憲彰)**

**【理由】** 私たちの生活に欠かせない電気がどのようにして作られているか、またその電気がどのように届けられているかをわかりやすく伝えていました。また、圧電素子を使った発電機など、おもちゃを手作りしてもらって実際に電気が発生する様子を体験させるなど、工夫を凝らしたアイデアが素晴らしかったです。

**【副賞】** 電気の源の電子について書かれた本「電子を知れば科学がわかる」江馬一弘(著)を贈呈します。

**【賞名】 日本機械学会東北支部長賞 (日本機械学会東北支部支部長 川田達也)**

**【理由】** 電磁誘導、光起電力、圧電効果といった、いろいろな仕組みで電気が作り出されることを、手作りのおもちゃで体験させてくれる、楽しい展示でした。さらに、発電所や変電所の手作り模型を置いたり、手回し発電機で電車のおもちゃを走らせたりして、社会の中で電気がどう作られてどう使われているのかをイメージできるようにしていたところもグッドでした。

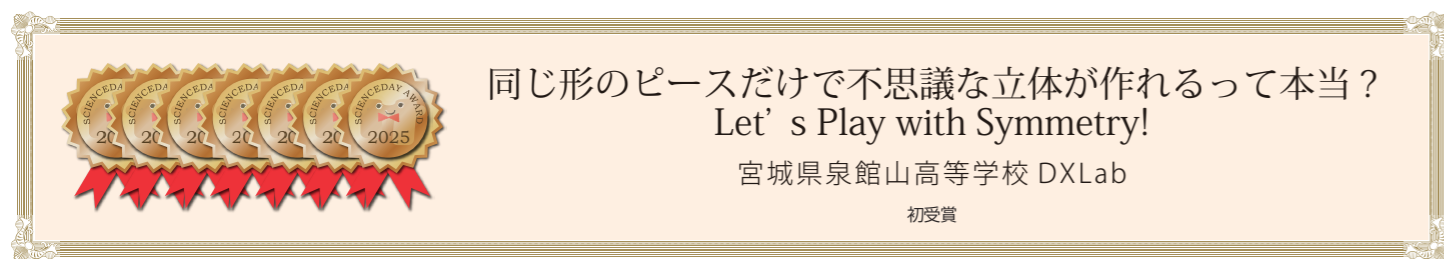
**【副賞】** こらからも楽しいモノ作りに挑戦していただきたいという思いを込めて工作工具セット

**【賞名】 東北大学電気通信研究所所長賞 (東北大学電気通信研究所 所長 石山和志)**

**【理由】** 科学の感動をまず自分が楽しんで、そしてその感動を来場者と共有している様子がとても印象的でした。会場が笑顔と驚きにあふれていたののでこの賞を送ります。

**【副賞】** 2025年10月11日(土)に開催される片平まつりにおいて「所長が案内する電気通信研究所一般公開見学ツアー」にご招待します。





**受賞者コメント**

このたびはこのような素敵な賞をいただき、誠にありがとうございます。今回は多面体を通して数学の楽しさ、不思議さを感じてもらうことを目的に出展しました。今年が初出展だったので、当日になるまで不安でいっぱいでした。しかし、参加者の方々がとても面白そうに多面体を制作しているのを見て、私たちも楽しみながらサポートすることができました。多面体については簡単なものから複雑なものまで幅広く用意し、一つずつステップアップしながら挑戦できるようにしました。また、同じ形のピースだけで綺麗な立体が組み上がっていく不思議さを感じられるように設計しました。最後になりますが、暑中私たちの出展にお越しいただいた皆さん、サイエンスデイの運営をしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。これからも皆さんに「数学って面白い!」と感じていただけるような活動を続けていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**【賞名】 仙台三高わくわく賞 (宮城県仙台第三高等学校 自然科学部)**

**【理由】** 正 12 面体をはじめ、様々な多面体が展示されており、はじめてみる不思議できれいな形にわくわくしました。また、多面体は配られたシートから作成可能であるということで子どもたちがとても真剣に取り組んでいました。正 12 面体は 3 つのパーツだけなので一見簡単そうでしたが、実は難しく、だいぶ時間がかかりました (後ろの中学生は 40 分以上格闘していました!)。たくさんいた泉館山高校のスタッフが、来場者に声がけしてくれたり、できたときには驚いたり褒めてくれたりと一緒になって参加してくれました。複雑な多面体もこうなってできてくんだ!というプロセスが体感でき、できあがりのわくわく感もあり、この賞の受賞とします。

**【副賞】** 高校につき、副賞はありません。すみません。

**【賞名】 宮城大学 Wow!! Award (宮城大学学長 佐々木啓一)**

**【理由】** 果物を使った円の面積の求め方、水圧を用いた浮沈子の体験コーナー、努力の結晶により作り上げたテンセグリティ構造模型など、子どもたちがあっ!と驚くような展示が魅力的でした。そして等面体のクラフト制作のコーナーはたくさん子どもたちが集まって、一生懸命作っていたところもとても印象的です。泉館山高校 DXLab の皆さん、総合科学部の皆さんのチームワークによる一つの空間づくりに「Wow!!」となりましたので、本賞を贈りたいと思います。

**【副賞】** 宮城大学公式ノベルティ「MYU CANDY」(PAPABUBBLE)を贈賞式にてお渡しします。

**【賞名】 TSB アワード (東北生活文化大学学長 佐藤一郎)**

**【理由】** おとなも子どもも指先をじっと見つめ、多面体づくりに熱中する!そんな「場」を提供してくれたことと、完成まで優しく導いてくれた泉館山高校 DXLab さんへ『TSB アワード』をお贈りします。サイエンスデイの賑やかな会場の中、多面体と対峙するこの一画だけは少し静かで、心地良い緊張感に包まれていました。見慣れない不思議な形を作る面白さ、これはまさしくサイエンスでありアートでもあるのです。

**【副賞】** 副賞 グラスアート『連』(れん)  
山口綾子先生(東北生活文化大学美術学部非常勤講師・本学出身)制作によるグラスアート作品

**【賞名】 東北大学工学研究科創造工学センター賞 (東北大学工学研究科創造工学センター長 山口 健)**

**【理由】** 泉館山高等学校にあるレーザーカッターを使ってパーツを作成し、「等面体」と呼ばれる、すべての面が同じ形をした多面体を参加者に組み立てさせていました。参加者の理解度や経験に応じてパーツを調整し、説明方法も工夫することで、非常に分かりやすい内容となっていました。

**【副賞】** 東北大学工学研究科・工学部 創造工学センター及び関連研究室ツアー 招待券

**【賞名】 国立仙台高等専門学校広瀬キャンパス賞 (国立仙台高等専門学校 広瀬キャンパス副校長 白根崇)**

**【理由】** 多面体の面白さは、その物だけではなく、その展開図にもあると思います。3D プリンタなどでは味わえない手作業の面白さに好感を持ちました。熱心に多面体作成に集中する子供たちと親切に指導している生徒さんたちの姿が印象的で、感銘を受けました。

**【副賞】** 特製の盾

**【賞名】 科学指導者賞 (日本物理学会東北支部長賞) (日本物理学会東北支部長 木村憲彰)**

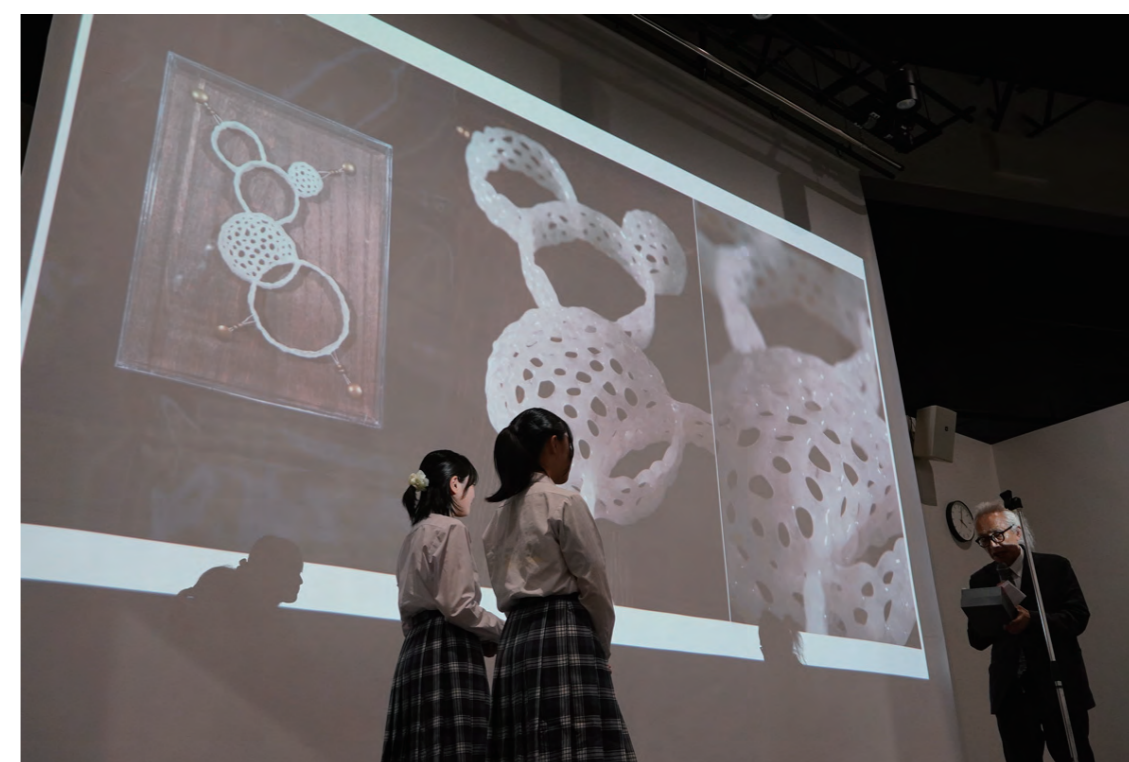
**【理由】** 平面から立体を作るという題材で科学の魅力と楽しさを伝えていました。また、教える方の高校生の皆さんにとっても楽しめたのではないかと思います。生徒さんたちも素晴らしかったのですが、指導する先生が日ごろから科学に対する興味を駆り立てる努力を続けていらっしゃる事がよくわかりました。これからも科学が好きになる生徒さんをたくさん育てていただきたく、この賞を贈らせていただきます。

**【副賞】** 多面体と対称性について解説した「美しい幾何学」谷克彦(著)を贈呈します。併せて、ご希望に応じて物理学会東北支部から研究者が出前授業を行います。(出前授業は受賞されなくても申し込み可能です)

**【賞名】 金属材料研究所賞 (東北大学 金属材料研究所長 佐々木孝彦)**

**【理由】** 今回の授賞となった泉館山高校 DXLab の皆さんは、多くの参加者の方々と 1 対 1 で丁寧に 1 枚の平面の紙から多面体に折り曲げて組み立てる方法を説明していました。一見単純な作業のようですが、1 個がきれいに出来上がり、複数がびたりと組み合わせるときの感動は、「ものを作る」ことの楽しさの初めの一歩になるものです。金属材料研究所賞は、出展者自身が楽しんでいること、ここが面白いと精一杯伝える姿勢を評価します。参加者に手を動かしてもらおうこと、一見単純で単調な作業のようで正確性が組み立てには必要なこと、そして丁寧、熱心に出展者自身も面白いと思いつながら説明していたこと、いずれも「ものづくり」の原点として本賞の授賞にふさわしいものです。

**【副賞】** 東北大学金属材料研究所のオリジナルグッズ





## 仙台一高 Presents やって見たサイエンス

宮城県仙台第一高等学校

初受賞

### 受賞者コメント

この度は私たちの発表に対して、賞をいただきありがとうございます。仙台一高では、学校設定科目「学術研究」の中で課題研究の活動を行っています。今回、発表させていただいたのも、「学術研究」の中で行ってきた2年間の研究活動の成果になります。これまで、校内で同年代の生徒や一高内の教職員に対して発表を行うことが主でしたが、外部に向けて、また年齢層も幅広い方々に対して発表を行う機会を与えていただき、大変学ぶことが多くありました。発表を聴いて下さる方によって言葉遣いを工夫し、質疑応答も発表を重ねる中で、自分の考えを整理することにも繋がりました。この経験を後輩にも伝えていくとともに、私たちもこれから大学へと進学した後も自然科学への興味・関心を広げながら、引き続き研究活動を頑張っていきたいと思います。

### 【賞名】 心に鮮やかインプレッ賞 (テラヘルツ光研究領域・理化学研究所)

【理由】 環境問題、ジェンダー、職場環境、文化、物理・化学技術、情報技術など、現代社会の多様な課題に対し、独創的で柔軟な視点からアプローチした6つの研究について、それぞれのテーマは、社会的に重要かつ意義深いものであり、既存概念にとらわれることなく新たな解決策を模索していました。調査や考察が非常に深く、様々な方法や工夫による市場調査や文献調査も本格的で、結果を高い精度で裏付けていました。さらに、プレゼンテーションは、その成果を聴衆に伝える力強さと魅力を持ち、聞く者の心を引きつけていました。それらは、科学のわくわく感や発見の喜びをまさに体現したものであり、その独自性、創造性、そして努力が感じられました。

【副賞】 理研グッズ

### 【賞名】 IEEE Sendai WIE 活躍賞 (IEEE Sendai WIE)

【理由】 IEEE Sendai WIE では女性の技術者や研究者への支援を目的として活動しております。仙台一高さんの出展では、ジェンダー平等に関する発表題材が複数あり、積極的に説明してくれました。非常に高い意識をもって授業の課題に取り組んでいることが伝わり、感銘を受けました。今後、分野にかかわらず女性が活躍する社会を牽引する人材に成長し、活躍してほしいという期待を込めて選ばせていただきました。ぜひ、これからの子供たちのロールモデルとなっていきたいと思います。

【副賞】 IEEE Sendai WIE グッズ、IEEE Sendai WIE Web ページへの活動紹介掲載

### 【賞名】 トヨタバッテリー賞 (トヨタバッテリー株式会社)

【理由】 6つの研究発表は新鮮な目線で日常生活における疑問や課題を認識し、チャレンジングなテーマ設定をされておられました。また難しいテーマに対して丁寧に情報を集めて分析し、地道な試行錯誤を通じて課題解決の方向性を絞り込み明確な解を提示されていました。果敢にチャレンジしていく姿勢と的確な課題解決のアプローチができていた点をたたえるとともに、若い皆さんの未来の可能性に期待し表彰いたします。

【副賞】 1, トヨタバッテリー オリジナルグッズ

2, (ご希望があれば) 宮城工場の工場見学へご招待

### 【賞名】 東北大学工学研究科 未来への挑戦賞 (東北大学大学院工学研究科長 伊藤彰則)

【理由】 社会課題から科学・工学・情報科学まで、幅広い分野で面白くレベルの高い研究を繰り広げていました。

【副賞】 東北大学マグカップ

### 【賞名】 中高生最優秀発表賞 (東北大学生命科学研究科 酒井聡樹)

【理由】 独自の視点に基づき、しっかりとした研究発表を行っていた。

### 【賞名】 東北大学・チャレンジング-クエスト賞 (東北大学理事・副学長 (サイエンスパーク・復興新生・ナノテラス共創担当) 湯上浩雄)

【理由】 各研究テーマにおいて、身近な社会課題を科学的アプローチで解決しようとする強いチャレンジング精神と実行力が高く評価されます。高校生が手にできるリソースを最大限活用しながら、データに基づいた客観的な分析と実用的な成果創出を両立させています。特に、複雑な現象を数値化可能な形に置き換え、協力者との連携も含めて現実的な解決策を模索する姿勢は、真のチャレンジング精神の体現として称賛に値します。これらの取り組みは、科学技術を通じた社会貢献への道筋を示す優れた実践例です。

【副賞】 ・東北大学 普通カレー ×15個

・研一 アクリルスタンドキーホルダー ×15個



## 二華中水世界

仙台二華中学校 自然科学部

通算受賞数95 : 2025(5冠) 2024(9冠) 2023(13冠) 2022(5冠) 2021(12冠) 2019(12冠) 他

### 受賞者コメント

この度は5つの賞を頂き、誠にありがとうございました。今年は近年でも類を見ない猛暑だったということで、サイエンスデイにお越しの皆様のおアシスとなれるよう、「水」をテーマに研究・発表をさせていただきました。なかでも、小さなお子さんでも感覚で楽しむことができる「つかめる水」のブースや、映画と科学を結び付けることで科学の面白さを共有する「塩析」のブースは、多くの人が科学に興味を抱くきっかけとなることができたのではないのでしょうか。私たちが今回の研究発表において大切にしたこと、それは「気になる」を追及することです。研究だからと言って教科書に沿った実験をするのではなく、自分たちの知的好奇心の赴くままに「気になる事象」を研究していく。この姿勢を常に忘れず抱いたことで、私たちの発表は観客の皆様興味・探究心と共鳴し、非常に有意義なものになることができたのではないのでしょうか。今後も私たち自然科学部は、進化する知的好奇心と共に熱意をもって研究に向き合ってまいりますので、是非来年以降の活動にご期待ください。改めて、この貴重な学びの機会を与えてくださった Natural Science 様、素晴らしい賞を下された5つの団体の方々に心より感謝申し上げます。

### 【賞名】 国立仙台高等専門学校名取キャンパス賞 (国立仙台高等専門学校 名取キャンパス副校長 伊藤昌彦)

【理由】 「水が織りなす、美しい科学の世界」と題して、「つかめる水について」、「サイフォンの原理について」、「蒸留をいっぱいやってみたい」、「ムペンバ効果で熱湯が急凍」などを採り上げ、現象について情報を集め深く理解し、自分たちで再現実験を何度も行い、得られた結果について考察し、生き生きと発表している姿は、この賞の主旨に合致しており、授与するにふさわしいと考えました。

【副賞】 特製の盾

### 【賞名】 東北大・多元研・賞 (東北大学多元物質科学研究所 所長 福山博之)

【理由】 梅雨明けの猛暑日に思わず「水世界」に惹きつけられて会場に足を運びました。部屋に入るとまず「つかめる水」のコーナーです。容器に入った無色透明の水に指を入れると確かに水がつかめます。これは、アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシムの反応によってゲル化したものとのことでした。ディズニー映画「アナ雪」に登場する不思議な雪だるまオラフを題材とした「塩析」の実験も分かりやすく良かったです。サイフォンの原理や蒸留の実験も工夫されていましたが、私にとって不思議な魅力だったのは高温の水が低温の水よりも短い時間で凍結する現象「ムペンバ効果」のコーナーでした。頭の中で理由を考えてみました。まさに暑さを忘れる「水世界」への誘いでした。

【副賞】 1. 東北大学 多元物質科学研究所 概要 2. 東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター (SRIS) 概要 3. リーフレット「Science Adventure」 4. 名入れエコバッグ 5. 名入れ付箋 6. 名入れボールペン 7. 形状記録合金

### 【賞名】 産総研 (AIST) 賞 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター所長 山口有朋)

【理由】 暑い中、「水」に着目して、さまざまな研究を発表していました。一生懸命に説明している姿に科学に対する熱意を感じました。科学に対する熱意は何よりも大切にして今後も研究を進めてください。

【副賞】 選べる産総研体験チケット ①産総研東北センター見学 ②アザラシ型メンタルコミットロボット「パロ」1日出張

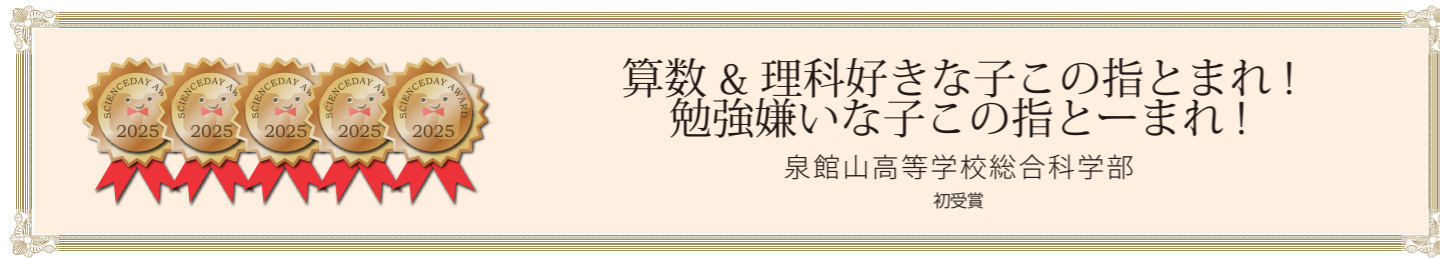
### 【賞名】 こども未来賞 (仙台市教育委員会)

【理由】 身近にある水の不思議を題材とし、仮設・実験・考察のプロセスで子どもたちの探求心を深めるすばらしい講座プログラムでした。サイフォンの原理や蒸留、水温の高い水の方が低い水よりも早く凍るムペンバ効果、シリカゲルの効果によるつかめる水、水圧砲など、水の特性に応じた様々な現象を扱い、日常生活とかわりのある内容について、こどもの目線で丁寧に説明していました。空想世界での事象を科学で説明するユニークな試みや、参加者みんなで楽しむサイエンスショーも行われていました。目を輝かせながら学ぶ子どもたちの姿が見られ、未来で活躍する科学者になるきっかけにつながると思いました。

【副賞】 仙台市天文台招待券 20枚

### 【賞名】 ベストオーナーシップ賞 (マイプロジェクト宮城県事務局 (一般社団法人 cotohoku))

【理由】 仙台二華中学校の自然科学部の皆さん、まずは本当に素敵な研究発表をありがとうございました。水、というテーマに基づいて、各チーム、様々な切り口からの研究を見させていただきました。アナと雪の女王のオラフが主題になっていたり、理科の授業で習う「蒸留」について深めてみたりと、その好奇心は大変多様で、興味深く発表を聴かせていただきました。また、「ムペンバ効果」について着目し実験を行ったチームも大変印象的でした。身近な「気になる！」から、じゃあ自分たちで検証してみよう、という素朴でありながら本来の学びの本質とも言えるプロセス全体を聴かせていただき、学生さんたちのわくわくが伝わってきて、聴いている方も楽しく科学に触れられた時間でした。そして、一つの教室を貸し切って発表を行っていた自然科学部のみなさんでしたが、教室のどのブースを見ても、チームの一人だけが研究について話しているという状況はなく、チームの一人一人がとても良い表情で研究について語っていた姿が何よりも印象的でした。それぞれのチームで、皆さん自身の好奇心を起点とした研究がなされており、また、一人一人が、自分の言葉でいきいきと語っている姿から「ベストオーナーシップ賞」をお贈りしたいと思います。



**受賞者コメント**

この度は、5つもの素晴らしい賞をいただきありがとうございました。私たち宮城県泉館山高校総合科学部は今回、「算数 & 理科好きな子この指とまれ! 勉強嫌いな子この指とまれ!」をテーマに、「浮沈子作り体験」、「円の面積の求め方」、そして「テンセグリティ構造」の3つのブースを出展しました。「泉館山高校DXラボ」の協力もあり、どのブースにも多くの方々に越えいただき、私たちも楽しく活動することができ、とても意義のある充実した出展となりました。特に、親子連れでお越しいただいた方が多く、子どもたちが興味を持ち、自ら考えて取り組む様子が印象的でした。今回のイベントを通して、科学の面白さを伝えることができたと感じています。また、本校には「館高力」という9つの力があり、その力を伸ばすことができ、部員一人一人がさらに成長できました。改めて、名誉ある賞をいただき、心より御礼申し上げます。今後とも本校総合科学部をよろしくお願い致します!

【賞名】 **東北大学電気通信研究所所長賞 (東北大学電気通信研究所 所長 石山和志)**  
 【理由】 科学の感動をまず自分が楽しんで、そしてその感動を来場者と共有している様子がとても印象的でした。会場が笑顔と驚きにあふれていたこの賞を送ります。  
 【副賞】 2025年10月11日(土)に開催される片平まつりにおいて「所長が案内する電気通信研究所一般公開見学ツアー」にご招待します。

【賞名】 **仙台管区気象台長賞 (仙台管区気象台 台長 鎌谷紀子)**  
 【理由】 日常の中の不思議な現象や「なぜだろう?」と思うことに目を向け、その裏にある科学を解説するだけでなく、来場者にも「そうだったのか!」と感じてもらえるような分かりやすい説明で、科学の楽しさをしっかりと伝えていました。科学への強い興味と伝える力をあわせ持ち、未来の科学者としての大きな可能性が感じられる魅力的な展示でした。  
 【副賞】 はれるんグッズ

【賞名】 **国立仙台高等専門学校 校長賞 (国立仙台高等専門学校 校長 橋爪秀利)**  
 【理由】 金魚の中の空気の体積が変化しているのが見えるように工夫されており、浮力の原理を、目で見て実感でき、子どもたちも目を輝かせて金魚を浮かべたり沈めたりしていました。小さい子どもたちが科学への関心を高めるきっかけになる素晴らしい企画と考え、選ばせて頂きました。  
 【副賞】 特製の盾

【賞名】 **ファミリーでワクワク! 科学を楽しめるで賞 (ララガーデン長町オペレーションセンター所長 桑田泰博)**  
 【理由】 「オレンジでもとめよう! 円の面積」は、円に関する公式の原理を、果物を使ったパズル形式で視覚的に学べる仕組みとなっており、小さなお子さまでも楽しく取り組めるような工夫が見られました。浮沈子のワークショップについても、高校生レベルの原理をかみ砕いてわかりやすく解説しており、お子さまの「疑問」や「不思議」が「知識」に変わる瞬間を目にすることができました。どちらも、大人も一緒に参加でき、お子さまにとっても「ちょっと背伸びした学びの機会」の場として、今後の興味関心につながるプログラムになっていたため、選出させていただきます。  
 【副賞】 ララガーデン長町で使える「ライフスタイルパーク共通お買い物・お食事券 10,000円分」  
 ※部活動で使用する消耗品や備品などの購入にお役立てください。

【賞名】 **宮城大学 Wow!! Award (宮城大学学長 佐々木啓一)**  
 【理由】 果物を使った円の面積の求め方、水圧を用いた浮沈子の体験コーナー、努力の結晶により作り上げたテンセグリティ構造模型など、子どもたちがあっ!と驚くような展示が魅力的でした。そして等面体のクラフト制作のコーナーはたくさん子どもたちが集まって、一生懸命作っていたところもとても印象的です。泉館山高校DXLabの皆さん、総合科学部の皆さんのチームワークによる一つの空間づくりに「Wow!!」となりましたので、本賞を贈りたいと思います。  
 【副賞】 宮城大学公式ノベルティ「MYU CANDY」(PAPABUBBLE)を贈賞式にてお渡しします。



**受賞者コメント**

素晴らしい賞をいただき大変光栄に思います。私達は偏光板、偏光顕微鏡をつかって光の見え方を表しました。段ボールを使って原理を説明したり、プラスチックを曲げて変化を見せたりと工夫しました。ビタミンCを偏光顕微鏡で見ると幾何学的でとてもきれいです。多くの人に見てもらいたいという思いで準備しました。また、偏光顕微鏡の工作も大好評で120人分を準備しましたが午前中でなくなりました。来年はもっともっと準備をして多くの人に作ってもらいたいと思います。改めて、私達のところに足を運んでいただき、また、1団体に1つしかない賞に選んでいただき感謝の気持ちで一杯です。大切にしていきたいと思っています。

【賞名】 **「NanoTerasu」賞 (川上伸昭・NanoTerasu 総括事務局長)**  
 【理由】 「光」や「色」といった身近なテーマを、偏光板や偏光顕微鏡などの本格的な科学的手法を用いて、わかりやすく美しく紹介していました。特に偏光板の説明では、光とスリットの関係が段ボールを使って視覚的に示すなど、工夫が凝らされていました。参加者の反応を見ながら丁寧に説明を進め、偏光を自ら理解し、伝えようとする姿勢にも好感が持てました。「NanoTerasu」賞は、科学技術を創造的かつ親しみやすく表現し、子どもたちの理解や興味を引き出した団体を表彰するものであり、宮城県仙台第三高等学校自然科学部に本賞を授与します。  
 【副賞】 NanoTerasu 特製クリアファイル、NanoTerasuT シャツ、NanoTerasu 加速器特別見学権

【賞名】 **日本光学会東北支部賞 (縄田耕二・日本光学会東北支部委員)**  
 【理由】 光は電磁波であり、波としての特性があることは知られています。しかしながら、目で見ることのできない光の波を如何に「見える化」するかは専門家でも頭を悩ます課題です。今回の出典では偏光を利用して、色として可視化する工夫を凝らした展示でだったと感じました。実験では、偏光板を回転させて色が変化する様子を見ることが小さい子供でも出来、身近な鉱石の違いを見せてくれました。紹介動画の作成を含めた創意工夫に賞を贈ります。  
 【副賞】 日本光学会ピンバッジ1個・日本光学会クリアファイル10部

【賞名】 **東北大学サイエンス・アンバサダー賞 (東北大学サイエンス・アンバサダー)**  
 【理由】 本展示では、偏光板の仕組みを段階的に説明することで、来場者が徐々に理解を深めていく様子が印象的でした。また、実際にミニ偏光板顕微鏡を作製できる体験ブースも設けられており、科学の原理を「見て・触れて・試せる」工夫を高く評価しました。各説明ブースには担当者が配置されており、来場者一人ひとりと丁寧にコミュニケーションを取りながら、テンポよく進行していた点も好印象でした。小中高生を中心とした聴衆が楽しそうに参加している様子が多く見られ、科学の面白さがしっかりと伝わっていると感じたことから、本賞にふさわしい取り組みであると評価しました。  
 【副賞】 サイエンス・アンバサダーのマスコット「たまか」のこけし

【賞名】 **仙台市天文台 台長賞 (仙台市天文台 台長 小野寺正己)**  
 【理由】 偏光にテーマを絞りを、いくつかの視点で偏光をわかりやすく見せていたことが素晴らしいと思いました。また、モノづくりも行った上で、それを用いた観察を参加者に体験させていることも、とても素晴らしいと思いました。  
 【副賞】 仙台市天文台 オリジナルグッズセット





**化学ってキレイ!光る世界にいざチャレンジ!!**  
宮城県多賀城高等学校 SS 科学部  
通算受賞数29 : 2025(4冠) 2024(4冠) 2023(2冠) 2022(1冠) 2021(3冠) 2019(4冠) 2018(2冠) 他

**受賞者コメント**

この度は、4件の名誉あるアワードをいただき、ありがとうございます。今年度は化学発光の講座プログラムを企画し、ルミノールの発光実験をメインに、原理の説明、実用例の紹介(血痕査の疑似体験やケミカルライトなど)を行いました。本プログラムでは「参加者体験型」「実験の安全性」「感動や気付きの共有」の3つを柱としました。子どもたち自身に実験してもらうことで五感で科学を体験してほしい!と考え、実験器具に水筒を採用するなど、安全に発光が観察できるよう工夫を重ねました。実際にルミノールの青い発光を見た子どもたちが「わぁ」と惹き付けられる姿を見た際、来場者の方々と「感動」や「気づき」を共有できたと感じ、部員一同うれしく思いました。最後になりましたが、来場者の方々や事務局、審査員の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も、地域の方々へ「科学の魅力」を伝えていけるよう、励んでいきたいと思ひます。

【賞名】 **日本化学会東北支部長賞(支部長 林雄二郎)**

【理由】 光を取り扱っている様々な取り組みの中で、化学反応から生み出される光について取り扱っているプログラムであり、他の光とも関連づけられれば、光の魅力の入り口になりうると感じました。具体的には、光が化学反応からも生み出せることを、身近な例や身近な製品と関連づけて説明し、実際にそれを体感させることで、興味を惹くものでした。子供たちも楽しそうに体験していることに加え、説明している高校生も楽しそう、かつ一所懸命であることが印象的でした。子供たちがうまくスプレーを扱えず、うまく発光が得られないこともありましたが、高校生が笑顔で励ましながら取り組んでいることにサイエンスデイに相応しいやりとりだったと感じました。

【副賞】 周期表クリアファイル、化学の日缶バッジ、研究室見学

【賞名】 **日本分光学会東北支部長賞(日本分光学会東北支部 支部長 藤井朱鳥)**

【理由】 様々な化学発光をまさに目の前で体験できる面白い企画でした。演示の仕方が良く練られており、また安全管理が非常にしっかりしている点にも感心しました。そして、ルシフェリンの発光には「センス・オブ・ワンダー」が満ちていました。あの美しい光に魅了された参加者は多かったと思ひます。

【副賞】 クリスタルトロフィー

【賞名】 **化学は楽しいで賞(東北工業大学工学部環境応用化学課程)**


【理由】 化学実験を安全に手際よく実施するには、多くの事前準備と手順の確認が必要ですが、これを見事なチームワークにより完璧に進めている点に感心しました。限られた時間を有効にかつ安全に楽しく実験を進めており、また発光実験の美しさや不思議さに多くの参加者が歓喜の声を上げていたことが一番印象的でした。

【副賞】 東北工業大学・環境応用化学課程名入り文具、東北工業大学クッキー

【賞名】 **東北大学大学院医工学研究科長賞(東北大学大学院医工学研究科長 西條芳文)**

【理由】 暗くした教室に浮かび上がるルミノール反応の美しい発光がとても印象的で、参加した子どもたちに科学への興味や好奇心を抱かせる素晴らしい内容でした。子どもたちが説明を聞きながら自分の手で実験に取り組めるように、教室のレイアウト・実験の準備・説明の仕方がとてもよく工夫されていると感じました。

【副賞】 アースクロック(時計)

**サイバー攻撃被害からの脱出! - 謎解きで学ぶ情報セキュリティ -**  
仙台高等専門学校 和泉研究室  
通算受賞数5 : 2025(3冠) 2023(2冠)

**受賞者コメント**

この度は賞をいただきありがとうございます。これからも様々なサイバー攻撃の症状や対策を誰でも無理なく・わかりやすく・楽しく体験し、情報機器を気付けて便利に安心安全に使ってもらうように意識してもらえような教材を開発していきたいと思ひます。

【賞名】 **東北工大情報通信工学課程賞(東北工業大学工学部情報通信工学科課程長 佐藤篤)**

【理由】 仙台高等専門学校 和泉研究室の「サイバー攻撃被害からの脱出! - 謎解きで学ぶ情報セキュリティ -」は、情報通信技術の急速な普及・発展に伴い利用者側にとっても重要となってくる情報セキュリティについて、とてもわかりやすく伝えていました。特に、セキュリティインシデント防止のための情報システムの利用方法や暗号化のしくみについて、クイズやパズルを効果的に活用し楽しみながら学べる工夫をされていた点が素晴らしかったです。

【副賞】 アラームクロックと情報通信工学課程オリジナルクリアファイル

【賞名】 **情報処理学会東北支部賞(情報処理学会東北支部 支部長 羽生貴弘)**


【理由】 ウイルス感染時の「どんな症状が出るか」を、画面上の異常な表示や動作の変化を自分で見つけながら学べる点を評価します。観察→異常だと思ふ→手がかりで確かめる、という基本的な分析の流れを無理なく体験でき、専門知識が少なくても理解しやすい構成でした。

【副賞】 情報処理学会東北支部が厳選した頭の体操パズル

【賞名】 **きれいで賞(塚本勝男・東北大学大学院理学研究科 / 名古屋大学大学院工学研究科)**

【理由】 最近では、インターネット上の犯罪が、私たちの身近な生活にも深く関わるようになってきました。パスワードを盗まれたり、他人になりすまして銀行口座に不正アクセスされたりするなど、深刻なサイバー犯罪が急増しています。こうした攻撃に対抗するには、日ごろからその背後にある基本的な仕組みを理解しておくことが重要です。一見複雑に思える犯罪も、最新のセキュリティ技術には、シンプルで美しい論理構造が隠されています。今回の発表では、その仕組みを誰にでもわかりやすく伝えようとする工夫と地道な努力が見られました。まさにその点に「美しさ」を感じ、「きれいで賞」を授与する大きな理由となりました。

【副賞】 世界の著名な鉱物コレクションより設定する



**大道仮説実験講座〈しゅぽしゅぽ〉**  
楽知ん研究所 仙台  
初受賞

**受賞者コメント**


当日は合わせて180人ほどの皆さんに参加していただきました。5段階で感想をお聞きしたところ、95%以上の方が「5とてもたのしかった」と「4たのしかった」を選んでくださいました。たくさんの人と楽しい時間を過ごすことができました。さらに、おふたりからのステキな賞をいただき、とても感激しています。おふたりが創設された賞の審査基準と受賞理由を読ませていただいてビックリしました。こういう視点で、ものごとを見たり考えたりできる素晴らしい少年たちがいる ということに驚かされました。私たちNPOのミッションは次のとおりです。私たちは、誰もが たのしく感動的に学ぶことができる〈科学入門講座〉を開催するNPOの研究所です。その講座を通して、予想をたてて実験しながら、新しいことに〈チャレンジする〉人、そのチャレンジを〈主体的に応援する〉人、〈他人の笑顔を広げていく〉人 たちが、たくさん育つ社会をつくっていきます。今回、石井さん、佐藤さんからお認めいただいたことで、これからも自信をもって活動を進めることができます。ありがとうございます。

【賞名】 **好奇心を育て賞(石井智仁(仙台市立第一中学校3年))**

【理由】 講座名のとおり、真空に関する実験とクイズが大道芸のように次々と行われました。身近なものでの実験であったこと、「パチパチパンチ」と呼ぶ分子の動きは大きな袋の中にビーズを入れて振って歩いて見せたことなど、とても面白く感じました。幅広い年齢層の参加者は見てだけでなく3択に挙手したり意見を述べたりと、一緒になって頭を使います。付添いのつもりだったであろう大人が予想外の実験結果に思わず上げる歓声、子どもだけが正解してお父さんに得意げにVサインする姿など共に楽しみながら学ぶ様子に、サイエンスが生まれる最初の一歩である「不思議だね、面白いね」とわくわくする気持ちをたくさん見ることができました。

【賞名】 **仮説はおもしろいで賞(佐藤龍(宮城教育大学付属小学校5年))**

【理由】 仮説(予想)から実験まで充実した濃い内容で子どもからおとなまで楽しめる内容だったから



**ドボクを体験 つよいぜ!! 紙で橋をつくってみよう**

東北工業大学 工学部 都市工学課程  
通算受賞数3 : 2025(2冠) 2016(1冠)

**受賞者コメント**

この度は「宮城県産業技術総合センター所長賞」「ミヤテレ賞」を頂きどうもありがとうございます。10年以上前にグルーガンを溶接機に見立てて、色々な橋の模型を紙で作って試していました。うまく作るとかなりの強度が出て、私自身も驚きと楽しさを感じていた事を思い出します。このような楽しさを評価して頂き感謝しています。私たち都市工学課程は土木工学科がルーツで、土木工学は公共事業としてインフラ整備や災害対応、防災や復興を含めたまちづくり、都市計画を扱う歴史ある工学の分野です。ですが「土木」への誤解や不理解、それゆえの不人気は私が学生の時からの事で、全国の「学科の生残りを掛けて名前を変えた」元土木工学科でも同じ様な状況だと思えます。橋の架設や維持管理は公共事業です。昨今の自然災害の激甚化や、上下水道をはじめとするインフラの老朽化にもかかわらず、公共事業を担う技術公務員や建設業の人材不足が続いています。このイベントをきっかけに土木工学に興味を持って頂ければ幸いです。

- 【賞名】 **宮城県産業技術総合センター所長賞（宮城県産業技術総合センター所長賞 千代窪毅）**  
 【理由】 実際に手を動かして、紙で作った軽い箱桁橋が、ジュース 1L の重さに耐えられる驚きと感動を体験でき、子どもたちの知的好奇心を引き出していた取り組みでした。また、グルーガンを使った工作は、溶接の疑似体験にもなっており、ものづくりの楽しさを伝えるとともに、こうした技術が橋や道路の社会インフラを支えていることをわかりやすく説明していたことを評価し、この賞を贈ります。  
 【副賞】 宮城県産業技術総合センターによるデザイン力や加工技術を活用して作製したオリジナルの亚克力製の橋

- 【賞名】 **ミヤテレ賞（株式会社宮城テレビ放送 事業開発局次世代ビジネス部長 新田誠）**  
 【理由】 \*数キログラムの重さに耐える工作の橋が「1枚の紙」だけでできるという意外性  
 \*使う道具は、ハサミ、カッター、グルーガンなど普段から子どもが使用するもの  
 \*「1枚の紙」に詰まった工夫や試行錯誤  
 ・20cm×30cmの紙に橋の構造部位を格納したこと  
 ・短時間で強度を出すため、部位数や大きさをこのイベントに参加しながらアップデートしてきた  
 \*完成した橋に2ℓペットボトルのジュース(重り)を乗せて、耐えられれば成功となるがその際の演出(盛り上げ)が良かった  
 ・ジュース(重り)を乗せる子どもは、現場用のヘルメットをかぶる  
 ・成功すると、教授や学生、橋梁建設協会のみなさんが「やったー!」と大きな拍手を贈った  
 【まとめ】「土木」を学ぶ学生や、就職で業界を目指す学生は、建築と比べて少ないという理由は、業界イメージのほか、生活者との接点が建築よりも希薄なのだという簡単な工作で「成功」を体験する、これを周りのスタッフみんなで盛り上げていたこのブースは、楽しさや明るさにあふれていた。  
 【副賞】 ミヤテレイベントグッズ



**つくってみよう 小さな星空!**

仙台市立仙台高等学校天文地学部  
通算受賞数4 : 2025(2冠) 2024(2冠)

**受賞者コメント**

今回は「ミウラセンサー賞」「発想が華丸で賞」という2つのすばらしい賞を頂き、とても嬉しく思っています。ありがとうございます。私たち仙台高校天文地学部はサイエンスデイに参加する方々に、工作を通して楽しく宇宙に興味を持ってもらえるような内容にしました。作るだけで終わることなく、家に帰っても楽しく星について考えて貰えるように工夫しました。また、プラネタリウムソフトを使って最初に今日の仙台で見られる星のお話とクイズをして興味を持ってもらい、工作につながるようにしました。説明書や星座表、惑星紹介シート、クイズの問題用紙などはふりがなをふり、図や写真を入れて分かりやすく、見やすいように工夫しました。当日は参加者の方々が星のお話で盛り上がり、自分だけの星空を思い描きながら工作を楽しんでいただけで嬉しく思いました。今回のサイエンスデイで学んだことを、今後の部活動に活かしていきたいと考えています。ありがとうございます。

- 【賞名】 **発想が華丸で賞（仙台二華中学校 自然科学部）**  
 【理由】 星空を手作りするという斬新な発想が素晴らしいと考え、賞を贈らせていただきました。また、作り方も簡単なため、小さな子供が天文学に親しむきっかけとなる、非常に有意義な内容だと感じました。次回以降のサイエンスデイでも、地学のおもしろさを様々な人に伝えていって下さい。  
 【賞名】 **ミウラセンサー賞（株式会社ミウラセンサー研究所 代表取締役 三浦賢一）**  
 【理由】 手のひらサイズに乗る星空を、シンプルな材料で創作が出来てアイデアが面白いと思いました。個々の光には未知のエネルギーが存在します。これからも宇宙に興味を持って勉強頑張ってください。  
 【副賞】 太陽光熱複合発電システム模型 ソーラーツインザラス 1台



**食虫植物の世界 食品とPHの関係を調べてみよう!**


宮城県仙台向山高等学校 自然科学部  
通算受賞数10 : 2025(2冠) 2024(2冠) 2022(2冠) 2019(4冠)

**受賞者コメント**

この度は2つの賞を頂き、ありがとうございました。今年度は、昨年度も好評だった食虫植物の展示に加え、新たな研究を出展させていただきました。腐敗した食品に見られる「酸っぱい」という特徴から、腐敗すると食品のpHが酸性に傾くのではないか、というひらめきから始まった本研究ですが、仮説とは異なる結果を示した食品もあり、まだまだ研究の余地が残されています。今後も根気強く研究していきたいと考えています。私たちは今回、思いついたことは何でも実際にやってみることを重視しました。理科の学習において大切な試行錯誤の精神が、今回の展示・発表を通して一人でも多くの方に伝わっていれば幸いです。ただ、それがいきすぎた結果、サイエンスデイ当日に腐敗させすぎた食品を持ち込んでしまい、展示が一部中止になってしまったことはこの場をお借りして謝罪いたします。最後に、サイエンスデイに携わった全ての方々に心より感謝申し上げます。

- 【賞名】 **将来の医療に役立つで賞（東北医科薬科大学 学生広報スタッフ『tmPR』 イベント班）**  
 【理由】 「食べ物が腐ると酸っぱくなる」という身近な気づきを出発点に、実際に食べ物が腐敗するとpHがどう変化するかを調べた研究は、とても身近で面白いテーマだと思いました。特に、実験結果から導かれた考察がとてもユニークで、聞いて面白かったです。食品のpHの変化は食中毒などにも関わるため、こうした視点は将来の医療や健康にも繋がる可能性を感じました。身近な疑問から丁寧に科学を探っていた姿勢がとても好印象であると感じました。  
 【副賞】 東北医科薬科大学 オリジナルグッズ

- 【賞名】 **東北大学生命科学研究科長賞（東北大学大学院生命科学研究科 研究科長 彦坂幸毅）**  
 【理由】 食虫植物の発表では、なかなか目にするのできない様々な種類の食虫植物が実際に展示されており、非常に価値のある内容だと思っています。実物を通して観察できたことで、食虫植物に対する関心を自然に引き出すきっかけとなっていました。一方、食品とpHに関する発表では、身近な現象を取り上げつつも、実験によって予想に反する結果が得られることがあるという科学的な気づきを丁寧に示しており、印象的でした。さらに、得られた結果に対して類似する食品を取り上げ、追加の実験を行って検証を重ねている点も非常に良かったです。今後は実験環境や条件をより明示することで、科学的な信頼性が一層高まると思います。実体験に基づく探究が行われており、科学への関心を高める良い機会となっていました。  
 【副賞】 生命科学研究科オリジナル絵はがきとクリアファイルのセット



**まじかるマグネット ～磁石(じしゃく)であそぼう～**

東北学院大学 工学総合研究所  
通算受賞数12 : 2025(2冠) 2024(3冠) 2023(1冠) 2015(2冠) 他

**受賞者コメント**

この度は、私どもの出展に対して「仙台青陵 科学部賞」および「未来の金属博士賞」を頂き、誠に光栄に存じます。私どもは、身の回りに多く使われている磁石の不思議を子供たちが体験して、その魅力を感じてもらうことを目標にして、磁気に関する研究を行っている大学生と大学院生が担当して展示を行いました。様々な磁気応用について紹介しましたが、永久磁石は言ってみればクリーンエネルギーの塊ですから高性能磁石を開発することは低炭素化に大いに貢献できます。本受賞を糧として、益々研究に励むとともに今後子どもたちの知的好奇心を引き出せるよう工夫して出展を継続して行きたいと思っています。

- 【賞名】 **仙台青陵 科学部賞（仙台市立仙台青陵中等教育学校・科学部）**  
 【理由】 磁石という身近な存在を分かりやすく、かつ詳しく教えてくれたので理解が深まったため。また、磁石の隠された使い道や魅力を熱心に説明してくれたことが良かったと感じた。

- 【賞名】 **未来の金属博士賞（公益社団法人日本金属学会東北支部 東北支部長 加藤秀実）**  
 【理由】 子どもの頃からずっと磁石は魔法の石です。見えない何かによって、くっ付いたり、はなれたり。いろいろな工夫を凝らし、私たちはこれを遊びの道具にしました。大人になって、この魔法の磁石は、生活を常に新しく、豊かにする暮らしの道具になりました。金属学会でも、KS 磁石鋼で知られる本多光太郎・初代会長の頃から今日に至るまで、磁石の基礎・応用研究が議論されています。この展示では、磁石が持つ実に多彩な特殊能力が、工夫を凝らした方法で、直感的に分かりやすく示されていました。魔法にかかった子どもたちが楽しんで、驚く姿が印象的でした。ネオジム磁石に多数の鉄球がくっ付く宣伝写真も豪快で、既に心奪われてしまいます。  
 【副賞】 表彰盾  
 日本金属学会 コースター

## サイエンスデイAWARD2025 受賞結果(7/10)



### AI搭載のアザラシ型セラピーロボット「パロ」とふれあおう！

国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター

通算受賞数2 : 2025(1冠) 2024(1冠)

#### 受賞者コメント

このたびは、I-SCIENCE 賞を賜り大変光栄に存じます。産業技術総合研究所(産総研)が開発した「パロ」は、タテゴトアザラシの赤ちゃんをモデルにしたアザラシ型セラピーロボットです。心の癒しや精神的な支援を目的に開発されており、搭載された人工知能により名前や行動を学習します。現在は、医療・福祉施設などで活躍しています。サイエンス・デイでは、ブースに来場された多くの方に、パロと触れ合ってくださいました。パロに触ったときの来場者の顔から溢れる笑顔を見ると大変嬉しく感じました。また、「可愛い」という印象だけでは終わらないよう開発背景や目的なども説明いたしました。産総研東北センターは、毎年サイエンス・デイにて産総研の研究成果を体験要素も取り入れながら来場者に紹介させていただいております。引き続き、産総研の取り組みを発信して参りますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

【賞名】 **I-SCIENCE 賞(東北大学大学院情報科学研究科研究科長)**

【理由】 「パロ」は本物の動物を飼うことが困難な人のために、セラピーを目的として開発されたアザラシ型のロボットです。「パロ」のつぶらな瞳、瞬きや尻尾を振るなどのアクション、ふわふわとした触り心地、愛らしい鳴き声など、五感に訴える技術が人を癒す効果を実感できました。さらに産総研の職員の方の対応がとても丁寧で、学校で習ったことと関連付けて子どもたちにわかりやすく説明し、「パロ」との記念撮影まで対応が親切だった点も印象的でした。このように、「パロ」の愛くるしさというインパクトにはじまり、そこに科学技術がどのように社会に活かされ、人々を幸せにするかが最も丁寧に伝わってくる内容だったことから、I-SCIENCE 賞を贈呈いたします。

【副賞】 情報科学研究科オリジナルグッズ等



### 「電波」って何だ? ワイドFM対応AM/FMラジオを作ろう!

日本無線株式会社

通算受賞数3 : 2025(1冠) 2024(1冠) 2013(1冠)

#### 受賞者コメント

このたび、サイエンス AWARD2025 にて小学5年生の「染谷 勇希さん」がプレゼンターとなった、「わかりやすかったで賞」を受賞し大変光栄です。日本無線では、今回普段、多くの方が便利に利用している無線について、電波を使った身近な事例の紹介と、AM/FM ラジオの技術について、簡単に説明させていただきました。当社、日本無線では電波を使った製品を数多く設計しております。その設計技術を生かして、一般の方にも「電波について」知っていただきたい思いから、ラジオ工作教室を2010年に始め、2019年にはAMラジオのみ対応していたものをワイドFM対応と進化させて、2025年までに約8,500人にご参加いただきました。ラジオを製作するだけでなく、電波について分かりやすい説明もしている点で大変好評を頂いています。このプログラムでは、小学校4年生から6年生を対象としていますが、最近ではスマートフォン、Wi-Fiなどを通じて、普段生活の中で身近に電波を使っていますが、小中学生だけでなく大人になっても、電波については一般的には教わる機会がなく、このような活動を通じて電波に関する学習の機会を提供しております。今回参加していただいた皆様が、無線の仕組みを知り、見えない電波が身近な生活に役に立っている事を理解して頂き、さらに自分ではんだ付けをしながらラジオを作ったことで、ものづくりや技術にも興味を持ち、未来の技術者として育つきっかけになれば幸いです。この受賞を通じて、小学生にわかりやすく教えることが、いかに難しいかを改めて考えさせられる機会ではありましたが、この度「わかりやすかった」という、賞をいただきましたので、スタッフ一同、本当に感謝しております。最後に、電波の基本的な知識はこれからの生活に欠かせない技術であり、私達、日本無線は、電波について興味を持つ未来のエンジニアが育ってゆくことを願って今後もこの教室を展開してゆきたいと考えております。この度は、アワードを頂きありがとうございました。

【賞名】 **わかりやすかったで賞(染谷勇希(片平丁小学校5年))**

【理由】 はんだづけをするときにうまくいくコツを教えてください、部品の配置場所などを教えてくださいとわかりやすかった。ラジオづくり以外にも体験コーナーがあって楽しかった。



### 五重塔を揺らしてみよう!木組み体験コーナーもあるよ!

通算受賞数15 : 2025(1冠) 2024(4冠) 2023(4冠) 2018(1冠) 2017(1冠) 2016(2冠) 2014(2冠)

#### 受賞者コメント

この度は、名誉ある東北工大建築学部・建築学科賞を頂き大変光栄に存じます。1000年以上前に創造された五重塔が、木造の高層建築物であるにもかかわらず、倒壊した記録がないという事実に多くの方は驚嘆します。優れた耐震・制震性を有することは間違いありませんが、そのメカニズムは現代の科学をもってしても不明な点が多いことにロマンを感じます。来場者の方々が熱心にクイズに答えてくださり、動く台座のハンドルを回し過ぎて、模型が倒壊寸前となって歓声があがるなど、余興としても楽しんでいただけたと思います。小さな家型の木組み体験には、子供たちが4~5人のチームとなって、骨組みを組み立ててもらいました。継手・仕口の複雑な形状を目でみて、組み上げてみて、屋根の上に登ってみて、という体験を通じて、大工が担う家づくりの一端を知ってもらえたのはうれしかったです。最後に、今回の出展が多くの方にとって伝統木造や技能の担い手について考えるきっかけとなっていましたら幸いです。

【賞名】 **東北工大建築学部・建築学科賞(東北工業大学 建築学部長・教授 石井敏 建築学科長・教授 船木尚己)**

【理由】 「建築」に関わる唯一の出展として、今年も多くの子どもの笑顔を届けてくれたことを評価いたします。木組み体験や、五重塔の揺れの体験を通して、過去が現在、そして未来につながることを伝えてくれました。建築の技術者不足は深刻です。未来のためにも、多くの子どもたちに建築やその技術に興味・関心を持ってもらえるように、このような活動や取り組みを継続されることを期待します。

【副賞】 建築学科オリジナルクッキーと大学オリジナルグッズの詰め合わせ



### ヒトの体を測る・診る・治す「医工学」の技術を体験してみよう!

東北大学大学院医工学研究科

初受賞

#### 受賞者コメント

このたびは「サイエンス・デイ TU賞」に選んでいただきありがとうございます。東北大学大学院医工学研究科では、工学と医学のふたつの学間に立脚し生命の神秘に触れながら革新的な医療技術を生み出し人類の社会福祉に貢献する独創的な研究活動を行っています。これからも人々の健康と幸せな暮らしに貢献できるよう活動を続けて参りますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

【賞名】 **サイエンス・デイ TU賞(東北大学名誉教授 内田龍男)**

【理由】 東北大学で、医学部と工学部が連携して2008年に日本で初めて医工学研究科が構成されました。これによって病気の診断や治療に関して、医学の方式と工学の方式が組み合わされて大変有効な方法が始まったようです。サイエンス・デイでこの内容を詳しく説明され、今後、人々の病気の治療などが有効に行われ、幸せな社会が発展すると期待されます。多くの参加者に大変いい説明をされて、今回の賞とさせていただきます。

【副賞】 Plaque 盾



### ～電波ってナーニ??～ 電波を使うと遠くの人とお話ができます!?

一般社団法人日本アマチュア無線連盟宮城県支部

通算受賞数4 : 2025(1冠) 2024(2冠) 2023(1冠)

#### 受賞者コメント

表彰をいただき、感謝申し上げます。テレビ受信用の八木・宇田アンテナは町中どこにでもあります。アマチュア無線では、アンテナにまつわる不思議などを学習し国家試験で資格を取得して日々無線交信を楽しんでおります。おかげさまでサイエンスデイには毎年出展させていただいており、東北大学アマチュア無線クラブと仙台高専広瀬アマチュア無線クラブのクラブ員が中心となって、子供たちへの体験交信のサポートや、モールス通信の体験支援を行っております。毎回、体験交信を終わった時のうれしそうなお顔やモールス通信チャレンジの熱中した姿がとても印象的です。今後とも、無線を使った色々な体験を通じて、電波についての理解を深めてもらえるよう努めてまいります。今後ともご支援を宜しくお願い致します。

【賞名】 **応用物理学会東北支部長賞(しぶいで賞)(宮崎謙・応用物理学会東北支部長)**

【理由】 アマチュア無線の交信やモールス符号の体験コーナーをはじめ、航空・船舶無線の傍受によるリアルタイム位置表示、最新の無線通信技術の展示など、見えない相手と通信する手段としての電波の魅力を、様々な角度から伝える興味深い展示で、小中学生から大人まで幅広く楽しめる内容でした。また、発明から100年を経てもなお、短波通信において使用されている八木・宇田アンテナの指向性を一目で理解できる展示では、当該アンテナの性能を改めて実感しました。以上より審査基準に照らし、最も本賞に相応しい展示であると判断しました。

【副賞】 1. しぶ茶(深蒸し茶)  
2. 応用物理学会東北支部オリジナル実験キット  
3. 応用物理学会に所属する大学の研究室見学(ご希望内容によっては、調整をお願いする場合がございます)



## 電気の魔法で物質を分解!電気分解の冒険

宮城県工業高等学校化工部

通算受賞数9 : 2025(1冠) 2024(4冠) 2023(3冠) 2022(1冠)

### 受賞者コメント

宮城県工業高等学校の化工部です。この度はHOKUSHU仙台科学館長賞をいただきありがとうございます。私たちは“化学”を実験を通して体験してもらい、その理屈を多少なりともわかってもらうことを目指して毎年サイエンスデイに参加させて頂いています。本年は、電気分解という簡単そうで難しい反応を子供から大人までわかりやすい形で教えることを目標に参加しました。工夫したところは、電極から気体とか、液体とかが出てくる様子をお見せするだけでなく、溶液の中の何が反応するのか?また、どんなものが溶けているから電気分解したときに何が出てくるか?という予想を立ててもらい、電気分解を模型やイオン化傾向の表などを用いてお伝えしたところです。多くの方々に実験を体験していただき、「なるほど!」という反応を見られたことが、何より嬉しかったです。このような賞をいただけたことに感謝し、今後も活動を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

【賞名】 **HOKUSHU 仙台市科学館長賞 (HOKUSHU 仙台市科学館長 加藤民夫)**

【理由】 電気分解を題材にして様々な溶液を使い実験を行っていました。小学生には、イオン化傾向など少し専門的で難しい内容ですが、丁寧に子どもたちの素朴な疑問や質問に答えながら実験を進めて行く過程がとても素晴らしかったです。子どもたちは実際に研究者になったつもりで実験に参加している姿が見られました。その探求心あふれる姿は当館のコンセプトでもある「見て、触れて、試す科学」の審査基準を満たしたプログラム内容でした。

【副賞】 科学館を会場にしてのイベントプログラム(展示発表やワークショップ等)開催の権利を授与します。(令和7年度内に実施)



## レーザーハープを演奏しよう!

東北工業大学 工学部 情報通信工学課程 佐藤研究室

初受賞

### 受賞者コメント

この度は、このような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。また、情報通信技術の専門家である日本無線株式会社様から評価していただいたことを、当研究室一同、大変うれしく思っています。今回の展示では、通信の基本となる3要素である、送信機、伝送路、受信機の3つを、半導体レーザー、伝送空間、照度センサーの3つで表現し、レーザーハープを構築しました。レーザーハープを体験していただいた皆様には、空中で手をかざすと、何も無いのになぜか音が鳴るといふ不思議な楽器を演奏していただき、楽しんでいただきました。この「なぜか音が鳴る」というところで、「なぜだろう?」と少しでも思っていたら、今回の展示は大成功だと思っています。最後に、本展示に参加していただいた皆様、賞を授与していただきました日本無線株式会社様に改めまして感謝申し上げます。

【賞名】 **JRC 創意工夫賞 (日本無線株式会社 東北支社長 田中裕史)**

【理由】 本展示では、日常で使われている、電波、光通信などの通信に使われる「レーザー」を使った技術を、音楽を奏でるしくみとして「ハープ」で楽しい演奏体験ができるように取り組んでいました。普段はあまり接することがないレーザーの性質ですが、その基本的な技術を実際の体験を通じて理解できるようにわかりやすく説明する工夫していました。具体的な展示内容では、「レーザーハープ」を使って、レーザー光の反射する性質について、ハープの弦の代わりに光ファイバーの代わりに「水ファイバー」を弾く体験をしていました。さらに「レーザーハープ」の製作の工夫として、昨年までは音階が6種類でしたが、今年は音階を増やして12種類にして様々な難しい曲も演奏できるように工夫して多くの学生さんがサポートしていました。また学生さんの説明では、レーザーの技術の原理から動作と応用までの一連の内容も説明しており、来場した多くの子供の他に親も含めて、通信の技術としての科学に興味を持つきっかけになっていたプログラムでした。この展示では通常は通信などに利用される影の技術となるレーザーですが、この基本技術を使用した「レーザーハープ」の演奏の仕組みが技術開発を考えた「創意工夫」でありますので、本賞を贈ります。

【副賞】 日本無線「JRC」製オリジナルAM/FMラジオキット



## 自然のチカラで涼しくなる クールエアドーム体験

宮城教育大学菅原正則研究室

通算受賞数2 : 2025(1冠) 2022(1冠)

### 受賞者コメント

この度は、栄えある「サイエンスデイ AWARD2025 アクセンチュア未来創造賞」を賜り、ありがとうございました。気化熱の効果で涼しさを得る体験を、「シンプルかつダイレクトに科学を体験」できるプログラムと評価して頂き、大変うれしく思います。幅広い年齢の参加者が多く集まるサイエンスデイにおいて、低年齢の子どもたちを楽しんでもらえるようにと出展しておりますが、案外大人の皆さんにも興味を持って頂くことも多いです。当日は、300人超の方々にクールエアドームを体験して頂くことができました。付き添いでご覧頂いた皆さんも含め、多くの方々に体験ブースへお立ち寄り頂き、感謝申し上げます。例年このような貴重な場を用意して下さっているサイエンスデイ、そしてその運営スタッフの皆さまににお礼申し上げます。

【賞名】 **アクセンチュア未来創造賞 (アクセンチュア・アドバンスト・テクノロジーセンター仙台センター長 菊地文人)**

【理由】 最近の異常気象の中、実施当日も非常に暑い気候でしたが、複雑な装置を使わず、科学の原理と身近な材料を活用することで、より親しみやすく「科学」と「涼しさ」を体験できるプログラムになっていたと思います。多くの子どもたちがクールエアドームに入って楽しんでおり、私自身も予想以上の涼しさを体感させていただきました。高度化・複雑化された技術に触れる機会が多い中で、シンプルかつダイレクトに科学を体験できる本プログラムは非常に素晴らしいと感じました。今後も多くの方々にこのプログラムを提供し、科学の楽しさを広めていただければと思います。

【副賞】 アクセンチュア・アドバンスト・テクノロジーセンター仙台オフィスツアー  
科学(特にITテクノロジー)がどのように実ビジネスの中で利用されているか事例をご紹介しつつ、弊社オフィスをご案内します。また、これから社会人となる学生の皆様へは弊社の先輩社員がお悩みへ答えるQAセッションも希望に応じて実施を致します。



## いつでも・どこでも・だれでも天体観測 ～インターネット望遠鏡とVRプラネタリウムの体験～

インターネット望遠鏡プロジェクト

通算受賞数3 : 2025(1冠) 2023(1冠) 2019(1冠)

### 受賞者コメント

インターネット望遠鏡プロジェクトでは、山形県立致道館高等学校と協力してサイエンスデイへの出展を行いました。我々の作品と取り組みを評価していただき、参加した高校の生徒も大変喜んでいました。多くの方、特に小さい子どもたちが宇宙に興味を持ちVRプラネタリウムを体験していたように思います。関係者の皆様、来場していただいた皆様に厚く御礼申し上げます。VRヘッドセットがあれば「いつでも・どこでも・だれでも」VRプラネタリウムを体験できるため、様々な活用が期待できます。現在は星座とメシエ天体などしか表示できませんが、月や惑星などの天体も表示できるように大学のゼミ生や高校の生徒たちと改良に取り組んでいます。ただの見せ物ではなく、教育現場でも利用できるようにパワーアップしていきたいと思っております。

【賞名】 **映像情報メディア学会東北支部賞 (映像情報メディア学会東北支部 支部長 工藤栄亮)**

【理由】 本格的な天体観測をインターネット望遠鏡を利用して気軽に体験できるプログラムでした。また、VRプラネタリウムはインターネット望遠鏡で作成した星座の映像を利用してプラネタリウムの疑似体験ができ、興味津々にVRゴーグルを覗き込んでいるお子さん達が科学に触れ合う貴重な機会を提供していました。我々の学会が対象としている映像情報を扱っていることも本賞の目的に合致しており、科学の発展への皆さんの地道な取り組みに敬意を評して表彰させていただきます。

【副賞】 会員企業からのノベルティグッズ詰め合わせ



## 銅ってすごい!活躍する金属:銅となかまたち

東北大学多元物質科学研究所非鉄金属製錬環境科学共同研究部門

初受賞

### 受賞者コメント

私たちは、身近な銅の作り方とどのように使われるのか、また、金属ごとに様々な性質を持つことを伝える展示をしました。今、SDGsが話題です。金属のリサイクルも大事です。展示をご覧いただいたお子さんの中から1人でも私たちと一緒に持続可能な社会づくりに関わってもらえたらと思っています。保護者の方のご理解とご協力も大事なので、子どもから大人まで楽しく勉強してもらえるように展示を工夫しました。その結果、高校生の皆さんに評価してもらえたのは大変嬉しく思います。城南高校さんから頂いた「いろいろな科学技術があって勉強になったで賞」を励みに今後も展示を継続していきたいと考えております。ありがとうございました。

【賞名】 **いろいろな科学技術があって勉強になったで賞 (仙台南高等学校)**

【理由】 銅を中心としたさまざまな金属について紹介されており、普段見ることのできない金属にも見たり、触れたりすることができて大変勉強になりました。また、そのような色々な金属が加工され、私達の日常生活を支えていることを改めて知ることができたことも大変よい経験でした。これからも金属のすごさやすばらしさを子供から大人まで幅広く伝えていって下さい。



## ブロックで街を守ろう！マイクラで学ぶ大雨と洪水 (Minecraft 非公式)

東北工業大学 / 東北学院大学 / 株式会社建設技術研究所

初受賞

### 受賞者コメント

サイエンスデイにおいては2023年度より継続してビデオゲームを活用した子ども向けの防災教育コンテンツの展示を開催しております。本活動は、自然災害や防災に関する子どもたちの「興味・関心」の向上を狙いとしており、「テクノロジー & コミュニケーション賞」を授与いただいたことは誠に光栄であると同時に、これまでの努力が報われたと感じております。今後もコンテンツの改善に取り組むとともに、小中学校における出前講座の機会を通じて、日本全国の皆様に科学や工学の魅力を発信していきたいと思っております。

【賞名】 **テクノロジー & コミュニケーション賞 (株式会社東栄科学産業 代表取締役 山城 智万)**

【理由】 近年、異常気象などの原因で起こる洪水対策をマイクラフトを利用し、子供に限らず大人も視覚的分かりやすく説明されていたことに感銘を受けました。また今では当たり前となりつつある、小学生のITやプログラミング等の習得について、このツールを活用して楽しく学べることで新しい発見と感じ、この度の受賞理由と致します。

【副賞】 電子顕微鏡出張授業



## 未来の科学者ブース： 小中学生の研究発表を見て！聞いて！オリジナルのゲームで遊ぼう！

東北公益文科大学公益ジュニアドクターセンター

通算受賞数8 : 2025(1冠) 2024(4冠) 2023(3冠)

### 受賞者コメント

この度は、名誉ある「電子情報通信学会東北支部長賞」をいただき、ありがとうございました。小中高生の成果発表について高く評価いただき大変嬉しく思います。ジュニアドクター鳥海塾では、「地域活性化」「システムの開発」「事故を減らす研究」など、一人ひとりの興味のあるテーマで小中高生が研究を行っており、ポスター発表を行いました。また、小中学生がプログラムを作成したオリジナルゲームの体験会を行いました。多くの方がブースにご来場くださり、感謝しております。この賞をきっかけに参加した小中高生が、次世代を託され、守り、育てるための創造性をさらに高めてもらえることと確信しております。このような貴重な場を提供して下さった主催者の皆様、本当にありがとうございました。

【賞名】 **電子情報通信学会東北支部長賞 (電子情報通信学会東北支部 2025年度支部長 松浦祐司)**

【理由】 次世代を担う小中高生が独自の観点で取り組んできたプロジェクトの成果を発表した点を高く評価しました。発表された成果は交通支援、子どもの心理状態の可視化、防災マップ、地域の歴史など、地域の社会問題の解決に資すると判断しました。明確な目標を設定し、理論的に開発と実証実験を行っていました。特に印象的だったのが、発表者のイキイキとした表情です。プロジェクトに対する熱意がひしひしと伝わってきました。まさに「持続可能な社会の実現に貢献し、豊かな文化と新たな価値創造の精神にあふれた」展示として本賞に相応しいと評価しました。

【副賞】 ジュニアドクター鳥海塾様と電子情報通信学会東北支部のコラボグッズ  
(ファイルケース100個・うちわ100個・不織布トートバッグ50個のうちから1つ選択)



## ちっちゃな世界をのぞいてみよう！見えるかな？なにがあるかな？なにに使うのかな？

宮城県工業高等学校 自然科学部

初受賞

### 受賞者コメント

この度は、私たちの出展に「東北大学SRIS賞」という素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく思います。今年は「ちっちゃな世界をのぞいてみよう」をテーマに、肉眼では見えないミクロの世界を追いかけました。展示では、身近な微生物である酵母の働きや、自然界の仕組みを技術に活かす「バイオメティクス」という考えに着目しました。身近な自然や微生物には未知の工夫や可能性があり、それを知ることで環境に優しい技術や未来のものづくりにつながると考えました。子供から大人まで科学と一緒に体験し、楽しんでいただけたことを部員一同嬉しく思います。最後に、ブースにお越しくくださった皆様、そして審査員の皆様により感謝申し上げます。今後も宮城県工業高校自然科学部をよろしくお願ひします。

【賞名】 **東北大SRIS賞 (東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター)**

【理由】 虫がねや顕微鏡を使って肉眼では見ることのできない身のまわりのミクロの世界を見ることが出来るプログラムです。顕微鏡で見せてくれた酵母菌が普段食べる食品に役立てられていることをポスターで説明する工夫が素晴らしいと思えました。また、ヤモリの粘着力や蓮の葉の撥水効果などミクロな構造によって機能が実現していることが分かりやすく伝えられており、それらを人工的に模倣した製品を実際に展示する工夫もありました。

【副賞】 東北大学SRISノベルティグッズなど



## 攻撃者から身を守れ！～情報セキュリティの基本を楽しく学ぼう～

東北工業大学 工学部 情報通信工学科 角田研究室

初受賞

### 受賞者コメント

この度は「東北公益文科大学ジュニアドクター鳥海塾賞」をいただき、誠にありがとうございます。我々は、ネットワークセキュリティを楽しく学ぶことをテーマに、DDoS攻撃やパスワード総当たり攻撃の仕組みや脅威について実演やゲームを通じて体験できる展示を用意しました。研究室としての出展は今回で2回目でしたが、小中学生の皆さんにセキュリティ問題をより理解してもらえるよう、展示内容や説明内容を工夫して臨みました。当日は青いTシャツを着たジュニアドクターの皆さんが目キラキラさせながら体験していたのが印象に残っています。この展示をきっかけに少しでもネットワークやセキュリティについて興味関心を持っていただけたのではないかと大変嬉しく思います。ありがとうございました。

【賞名】 **東北公益文科大学ジュニアドクター鳥海塾賞 (東北公益文科大学 ジュニアドクター鳥海塾)**

【理由】 身近なところにひそむ危険として情報セキュリティ問題はとても重要な位置付けです。しかし、その根本的理解には数学的背景の知識が不可欠であるため、なかなか身につけることが難しいのが現状です。本展示はこれをゲーム形式とすることで、子どもを含めた多くの方がインターネットに潜む危険性やその事例について楽しく学ぶことができるようになっており、見学した小中学生はいずれも今後の心掛けを新たにすることができました。以上のように、公益的かつ教育性豊かな展示であることから東北公益文科大学ジュニアドクター鳥海塾賞を贈ります。



## 古代人が顔を映した？ あなたなら銅鏡をどう調べる？

東北大学金属材料研究所 新知創造学際ハブ推進室

初受賞

### 受賞者コメント

「文理の垣根を取りま賞」をいただき、ありがとうございます。新知創造学際ハブは、まさに文理融合、人文科学と材料科学が歩み寄ることで、新しい知識や知恵を見つけることを目指しています。今回は、銅鏡をテーマに、社会科で習うことと理科で習うことは繋がっているんだよということを伝えようと考えました。銅鏡が鏡だと改めて考えると、現代の鏡がどんなに高性能か気づき、構造や材料を知りたくもなりますね。一方、二千年前に銅鏡がどうやって作られたのか、まだ分からないことがたくさんあります。私たちはこれまで銅鏡を傷つけないで調べる方法をいくつか試してきました。この後は必要に応じて銅鏡内部を直接調べる方法も試す予定です。金属材料研究所が銅鏡をどう調べるか、これからも見守ってください。

関連動画をまとめました。  
再生リスト「あなたならどう調べる？」<https://www.youtube.com/playlist?list=PLRWuxyRHfOIGGEQInuVSi0AqhFb07a9a7>

【賞名】 **文理の垣根を取りま賞 (東北大学名誉教授、元宮城学院女子大学長 末光真希)**

【理由】 古代人が顔を映したと言われる銅鏡が一体どんな金属で出来ているか、その謎を考古学者と材料科学者が一緒になって謎を解明する、そんな「科学」の方法論を追体験する企画でした。まずは来場者に実際に銅鏡を手にとってもらい、顔が映るか試したり、重さを感じてもらったりしながら古代へのロマンを掻き立て、そして次第に、本当に鏡として使えたの？ どうやって磨いたの？ どうして黒っぽい金属で作ったの？ 銅なのに赤くないのはなぜ？ どんな成分でできてるの？ といった科学の質問へと参加者を誘うプログラムは、まさに文理融合のサイエンスでした。次は実験コーナー。銅鏡は一つしかないのでも謎の試料が21種類用意されており、銅鏡を調べるつもりで材料研究のプロセスを体験します。参加者は机の上に並んだ試料の中から好きな試料を1つ手に取り、自分だけの実験を考えます。机の上には長さを測る定規ノギス、ルーペ顕微鏡、電気が流れるかどうかを試すテスター、磁石、質量を測る電子天秤などが置かれてあり、「自分は何を知りたいか」、「そのためには何を測りたいか」を「実験計画書」に書くのです。これまたサイエンス。一番バワフルなのが密度測定器でした。浮力を使って密度を調べ、密度が分かると含まれている元素が大体わかるとか。一番人気のキラキラ光る試料No.23をジルコニウム(Zr)と当てた人はさぞ嬉しかったことでしょう。「教科書では模様がある面しか見ることができないので鏡の面を見られてよかった」という感想があったということですが、ひょっとしたら考古学者は模様がある面を眺め、材料科学者は鏡の面を眺めているのかも知れませんね。

【副賞】 みんなで「おかき」を食べて、これからは文系と理系の「かきね」を取り除いてください。

## サイエンスデイAWARD2025 受賞結果 (10/10)



### STEAM教育って何？君も未来のイノベーター！

宮城教育大学 ZERO-Step STEAM プログラム事務局  
初受賞

#### 受賞者コメント

Scienceday AWARD2025、「科学はアートだ！賞」をいただき ODA(おだ) プレーン愛好会に感謝いたします。宮城教育大学 ZERO-Step STEAM プログラム事務局は、中谷財団の次世代系人材育成プログラムの支援を受けて、STEAM 分野で課題解決型の研究活動をしたい中学生の募集しております。今年度のサイエンスデイでは、昨年度の本プログラムの概説と、分野横断的でユニークな研究を行った受講者に発表していただきました。さらに、月一回のペースで展開している、ワクワクドキドキする思考力を高める活動の一端を体験していただきました。STEAM 教育は、内閣府を中心に、産官民が協力した日本発の「イノベーション」や「Society5.0」を実現するための人材育成を展開しております。東北大学が中心に展開している、「科学者の卵養成講座」プログラムと連携・連動して展開しております。皆さまからの応援を願っております。

#### 【賞名】 科学はアートだ！賞 (ODA(おだ) プレーン愛好会)

【理由】 宮城教育大学の ZERO-Step STEAM プログラムは宮城県内の理系分野に興味関心を持つ子供たちに探究活動への支援や特別講座を行なっています。発表は ZERO-Step STEAM プログラムに参加した子どもたちに行ってもらおうという仕組みが良いと思いました。私たちの紙飛行機教室の設計、製作、評価という一連の活動も STEAM 教育の考えで見直したいと思いました。科学とアートが共通するすばらしい活動として科学はアートだ賞を贈呈します。

【副賞】 希望により、紙飛行機教室を出前いたします。



### 仙台・東北のお祭りをビッグデータで見よう！

公立大学法人宮城大学 太田研究室  
初受賞

#### 受賞者コメント

この度は「役に立つ地学賞 2025」をいただき、誠にありがとうございます。私たちの出展では、仙台・東北のお祭りをテーマに、携帯電話ネットワークから得られる人流ビッグデータの可能性を小中学生から大人まで幅広い世代にお伝えしました。人手不足や資金不足に直面している地域のお祭りについて、クイズや AI を活用した未来のお祭りアイデア創出コーナーを通じて参加者の応援や関心を高めることができました。また、人流ビッグデータの活用事例として防災計画をはじめ、まちづくり、観光振興などを紹介し、データサイエンスが私たちの暮らしを支え、地域の課題解決に活用できることへの理解を深めていただけたと思います。今後も継続的な探究活動と情報発信 (<https://matsuri-design.notion.site/>) に注力し、地域社会の安全と発展に貢献してまいります。

#### 【賞名】 役に立つ地学賞 2025 (認定 NPO 法人 防災・減災サポートセンター)

【理由】 「お祭り」という心躍るテーマを切り口に、難解なビッグデータ解析を、誰もが楽しめる身近な研究として提示された着眼点は、サイエンスの魅力を伝える上で大変素晴らしいものです。この研究の本質は、楽しさだけに留まらず「人の暮らしと災害」という、防災・減災の根源的な視点を示唆しています。平時の人々の動きを詳細に捉えるアプローチは、万が一の災害時における安全な避難誘導や都市計画に直結する、まさにこれからの「役に立つ地学」に欠かせない分野だと気付かされました。人流ビッグデータの活用は、私たちの安全・安心な暮らしに不可欠です。その探究心と着眼点に敬意を表し、今後のさらなる活躍を期待しております。

【副賞】 副賞として、当法人で出版した書籍「自然災害へのそなえ～マイマップづくりのスズメ～」と「自然災害についての 防災 Q&A 100」を各 1 冊と当法人の出身母体の公益社団法人日本技術士会東北本部応用理学部会の技術サロンでの講演権を贈呈いたします。



複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体問わず、誰もが、自分の視点で自分の賞を創設できることが、サイエンスデイ AWARD の最大の特徴だよ！

2025 年に創設されたサイエンスデイ AWARD  
審査基準などの一覧は HP をご覧ください →



## サイエンスデイ オブ ザ イヤー



### Scienceday of The Year

### 科学を社会に伝えるよい方法論を審査・表彰を通じて共有化

「科学を社会に伝える方法論」が最も優れている出展プログラムを審査し「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」として表彰することで、科学を社会に伝える“よい”方法論を共有化することを目的とした表彰制度です。「文部科学大臣賞」「JST 理事長賞」「東北大学総長賞」「東北経済産業局長賞」「宮城県知事賞」「仙台市長賞」「ベストプレゼンター賞」を予定しています。

●「文部科学大臣賞」「東北大学総長賞」「東北経済産業局長賞」「宮城県知事賞」「仙台市長賞」は、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』の出展内容及び「サイエンス・デイ AWARD 表彰式」での 1 分プレゼン内容、並びに自己推薦書を審査対象とし、サイエンス・デイ オブ ザ イヤー審査委員会による審査により決定します。「JST 理事長賞」は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の審査によって決定します。「ベストプレゼンター賞」は、サイエンス・デイ AWARD 表彰式における会場投票によって決定します。

●サイエンス・デイ オブ ザ イヤーは自己推薦制です。審査を希望する出展者は自己推薦書(形式指定)を締切日までに提出ください。



- 👑 文部科学大臣賞
- 👑 JST 理事長賞
- 👑 東北大学総長賞
- 👑 東北経済産業局長賞
- 👑 宮城県知事賞
- 👑 仙台市長賞
- 👑 ベストプレゼンター賞

#### 審査員 (敬称略、五十音順)

- 内田 龍男 (東北大学名誉教授、仙台高等専門学校名誉教授)
- 江刺 正喜 (東北大学名誉教授)
- 川添 良幸 (東北大学未来科学技術共同研究センターシニアリサーチ・フェロー、科学協力学際センター代表理事)
- 佐藤 一郎 (東北生活文化大学学長、東京藝術大学名誉教授)
- 末光 眞希 (東北大学名誉教授、宮城学院女子大学元学長)
- 野家 啓一 (東北大学名誉教授、元日本哲学会会長)





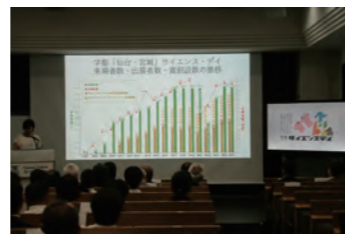
サイエンスデイ オブ ザ イヤー 2025 贈賞式 (2025年8月18日 東北大学「知の館」にて)

学部「仙台・宮城」サイエンス・デイ(2007年～開催)では、自分が一番「よい」と思った出展プログラムに対して自分の賞をつくって表彰し合うユニークな表彰制度「サイエンスデイ AWARD」(2011年～創設)に加え、科学を社会に伝える優れた方法論を可視化・共有化することを目的に「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」の審査・表彰を2016年から行っています。

合計7つの賞のうち「文部科学大臣賞」「東北大学総長賞」「東北経済産業局長賞」「宮城県知事賞」「仙台市長賞」については、事前に自己推薦書を提出いただいた団体を中心に、サイエンスデイ当日の出展内容及びサイエンスデイ AWARD 表彰式での1分プレゼンを審査員5名体制でご審査いただきました。JST 理事長賞については国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)様ご自身から審査を行っていただきました。ベストプレゼンター賞については、サイエンスデイ AWARD 表彰式の参加者による会場投票によって決定いたしました。厳正なる審査の結果、文部科学大臣賞(1件)、JST 理事長賞(1件)、東北大学総長賞(1件)、東北経済産業局長賞(1件)、宮城県知事賞(1件)、仙台市長(1件)、ベストプレゼンター賞(サイエンスデイ AWARD 受賞者の部1件、サイエンスデイ AWARD 賞創設者の部1件)の受賞者が決定しました。

サイエンスデイ オブ ザ イヤー 2025 贈賞式は8月18日、東北大学「知の館」で開催しました。贈賞式では、主催者として特定非営利活動法人 natural science 理事の大草芳江よりご挨拶及び開催報告を申し上げた後、文部科学省から審議官(科学技術・学術政策局担当)の福井俊英様、JST から理事の柴田孝博様、東北大学から総長の富永悌二様(代読:東北大学理事・副学長(教育・学生支援)滝澤博胤様)、東北経済産業局から地域経済部長の古谷野義之様、宮城県から知事の村井嘉浩様(代読:宮城県経済商工観光部産業人材対策課長 熊谷圭太様)、仙台市から経済局長の木村賢治朗様よりご祝辞を賜りました。続いて表彰式では各賞創設者から各受賞者への表彰状の授与が行われ、受賞者が受賞の喜びを語りました。最後に審査員の先生方から各賞についてご講評を賜りました。大変お忙しい中、審査にあたってくださった審査員の先生方に厚く御礼を申し上げます。さらにはご来賓の皆様から公務ご多忙のところご臨席並びに丁寧なご祝辞を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。受賞された皆様におかれましては心よりお祝い申し上げますとともに、サイエンスデイで実践された科学や技術を社会に伝えるよい方法論をぜひ共有化いただきますようお願い申し上げます。

科学・技術が社会に深く浸透している今、科学・技術は私たちの社会に必要な不可欠である一方、その関係性はどうか、昨今の世界情勢においても改めて問われています。科学や技術の全てを理解することは現実的には不可能ですが、先人たちが積み重ねてきた科学や技術の思考、方法論の理解なしに、わたしたちは心豊かな社会を自ら創造することはできないでしょう。これからも我々は、よい科学や技術の思考、方法論が、私たち一人ひとりの様々な活動において次のよりよい科学や技術、そして社会を創造する原動力となることを目指し、サイエンスデイを継続開催して参ります。今後とも変わらぬご理解ご支援の程お願い申し上げます。



## サイエンスデイ オブ ザ イヤー 2025 贈賞式



【日時】令和7年8月18日(月)15:00～17:00  
【場所】東北大学「知の館」(仙台市青葉区片平2丁目1-1、TEL 022-217-5972)

一、主催者あいさつ  
特定非営利活動法人 natural science 理事 大草 芳江

一、来賓ご祝辞  
文部科学省 審議官(科学技術・学術政策局担当) 福井 俊英 様  
科学技術振興機構(JST)理事 柴田 孝博 様  
東北大学 総長 富永 悌二 様  
(代読:東北大学 理事・副学長(教育・学生支援) 滝澤 博胤 様)  
東北経済産業局 地域経済部長 古谷野 義之 様  
宮城県 知事 村井 嘉浩 様  
(代読:宮城県 経済商工観光部 産業人材対策課長 熊谷 圭太 様)  
仙台市 経済局長 木村 賢治朗 様

一、表彰(各賞の贈呈)・受賞者挨拶  
文部科学大臣賞 宮城県泉館山高等学校 DXLab 殿  
JST 理事長賞 公立大学法人宮城大学 殿  
東北大学総長賞 東北工業大学工学部都市工学課程 × 一般社団法人日本橋梁建設協会 殿  
東北経済産業局長賞 日本無線株式会社 殿  
宮城県知事賞 NPO 法人 楽知ん研究所 仙台 殿  
仙台市長賞 公立大学法人宮城大学事業構想学群 殿  
ベストプレゼンター賞(受賞者の部) 宮城県泉館山高等学校 DXLab 殿  
ベストプレゼンター賞(賞創設者の部) 佐藤 龍(宮城教育大学附属小学校5年) 殿  
石井 智仁(仙台市立第一中学校3年) 殿

一、審査員による講評  
文部科学大臣賞 : 川添 良幸 様 (東北大学未来科学技術共同研究センター名誉教授)  
JST 理事長賞 : 柴田 孝博 様 (JST 理事)  
東北大学総長賞 : 江刺 正喜 様 (東北大学名誉教授)  
東北経済産業局長賞 : 内田 龍男 様 (東北大学名誉教授、仙台高等専門学校名誉教授)  
宮城県知事賞 : 末光 眞希 様 (東北大学名誉教授、宮城学院女子大学元学長)  
仙台市長賞 : 佐藤 一郎 様 (東北生活文化大学学長、東京藝術大学名誉教授)

一、記念撮影

一、受賞者・ご来賓出席者・審査員との懇親



## 文部科学大臣賞

「同じ形のピースだけで不思議な立体が作れるって本当?  
Let's Play with Symmetry!  
宮城県泉館山高等学校 DXLab

### 受賞企画

このコーナーでは「等面体」とよばれる、すべての面が同じ形をした多面体を中心に、いろいろな多面体を組み立てることができます。立方体(サイコロの形)や正四面体(三角すいの形)などのおなじみの立体はもちろん、学校ではあまり見かけない、不思議な形にもチャレンジできます。うまく作るコツは「対称性」を意識すること。ゆっくり観察しながら組み立てていくと、きれいにびったりはまって、できあがったときには思わず感動してしまうかもしれません。途中でわからなくなっても大丈夫。泉館山の高校生スタッフがやさしくサポートします。完成した多面体はそのままお持ち帰りいただけます。ご家族やご友人に見せて、自分で作った多面体の面白さをぜひ伝えてみてください。



### 授賞理由

私たちは三次元空間で生活しており、日々の経験を通じてその空間に親しんでいます。通常、学校教育では二次元図形を学び、その後に三次元図形に進むのが一般的ですが、実際の空間との対応をより直感的に捉えるためには、初めから三次元図形を学ぶ方が理解を早める可能性があると言えます。泉館山高等学校総合科学部の「同じ形のピースだけで不思議な立体が作れるって本当? Let's Play with Symmetry!」は、まさにこの点を実証するものであり、会場には笑いとおどろきが溢れ、小さな子どもたちが「できた!」と嬉しそうに自慢する光景が広がっていました。参加者はまず3Dプリンターで作成された小さな展開図から三次元構造の単位を作り、その単純な単位の組み合わせによって複雑な三次元構造体を作成するプロセスを実践します。大人たちが苦勞する中、頭の柔軟性が高い若年者たちは、あっという間にこのプロセスを実現できていました。これは驚きですし、繰り返しが基本の材料系における複雑な3次元構造理解も、実は2次元の束縛がなければ容易であることを如実に示しています。これらの実践を通して、高校生たちは、従来の教育方法とは逆に、三次元空間の図形を二次元に投影するという逆順の幾何学教育が、いかに効果的であるかを提言しています。この点は教育方法や学習のアプローチを見直す重要な示唆を与えており、特に初期教育におけるアプローチの重要性を再認識させてくれました。さらに、本アプローチは幾何学の枠にとどまらず、結晶系や三次元空間の理解に繋がる広範な領域で活用すべき内容があります。実際に体験を通じて学ぶこの形式は、特に大人目線の教育方法を見直すきっかけとなり、非常に価値のある内容です。このような先進的かつ実践的なアプローチを提案する本展示は、教育の新たな方向性を示すものであり、文部科学大臣賞に相応しいと評価いたします。

### 受賞コメント

このたびは、文部科学大臣賞という大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。今回は多面体を通して数学の楽しさ、不思議さを感じてもらおうことを目的に出展しました。今年が初出展だったので、当日になるまで不安でいっぱいでした。しかし、参加者の皆さんが夢中になって多面体を作っている姿を見て、私たちが楽しみながらサポートすることができました。多面体については簡単なものから複雑なものまで幅広く用意し、一つずつステップアップしながら挑戦できるようにしました。また、同じ形のピースだけで綺麗な立体が組み上がっていく不思議さを感じられるように設計しました。最後になりますが、暑い中私たちの展示にお越しいただいた皆さん、サイエンスデイの運営をしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。これからも皆さんに「数学って面白い!」と感じていただけるような活動を続けていきますので、どうぞよろしくお願い致します。



各受賞団体の出展企画の詳細は、サイエンスデイのホームページで公開中です。ぜひご覧ください。



## JST 理事長賞

「どうして?だからか!  
—60年後の感覚を体験して、高齢者看護を考えよう—  
公立大学法人宮城大学

### 受賞企画

高齢者の行動について、改めて思い出すと不思議に思うことはありませんか?・なぜあんなにゆっくりなの?・何回も話しかけているのになぜ覚えてくれない?それには理由があります。看護は、人の身体・精神・心理・スピリチュアル・社会的側面からその人を捉え、現状を理解し、ケアにつなげます。そして、高齢者を対象とする看護では、高齢者の身体や心や社会との関わり方など、様々な加齢変化を理解することが非常に重要です。今日は、一部ではありますが、高齢者の加齢変化と日常で出会う高齢者の不可解な言動の理由について、疑似体験セットを身に付けて、体験しながら探っていきたいと思います。そして、それらの理解を通して看護について考えていけたらと思います。



### 授賞理由

高齢化の進んだ日本社会において、加齢に伴う身体的・認知的変化への理解はますます重要となっています。本企画は、重り、手袋、色つき眼鏡や耳栓などを用い、視覚・聴覚・触覚の変化を疑似体験できる工夫がなされており、封筒を開ける、文字を読む、伝言ゲームをするといった課題を通して、後期高齢者の感じる困難を「自分ごと」として実感できるよう丁寧に設計されました。疑似体験においては、年齢や立場を問わず、参加者同士やスタッフとの対話を重ねることで、「何が出来るか」「どう関わられるか」を考える契機が生まれ、他者への配慮や共感を育む学びの場がつけられていました。加齢という誰にとっても身近なテーマを入口に、ケアする/される双方の視点を促す本企画は、「社会とともにあること、社会のためにあること」といったJST理事長賞の審査基準にも合致しており、社会的意義の高い優れた取り組みとして、授賞にふさわしい企画であると判断しました。

### 受賞コメント

このたび、私どもが出展した「高齢者疑似体験を通じて看護を学ぶプログラム」が、大変名誉あるJST理事長賞をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。本企画は、日常で感じる高齢者の行動への疑問を出発点に、加齢による身体的・心理的变化を科学的に理解し、看護の本質に触れていただくことを目的としました。参加者には、視覚・聴覚・触覚などの感覚器、および筋力などの変化を体感できる疑似体験セットを用いて、折り紙や伝言ゲームなどの活動を通して、また、スタッフからの問いを通して、高齢者の生活の困難さや心理的負担、思いを覚えていただきました。体験後の意見交換では、支援の在り方や看護の役割について考える場となり、看護が単なる「優しさ」や「補助的」ではなく、科学的かつ創造的な実践であることを多少なりとも伝えることができたのではないかと振り返ります。今後も、看護の価値を社会に広く伝え、誰もが自分事として高齢者を理解し支え合える社会づくりに貢献してまいります。



各受賞団体の出展企画の詳細は、サイエンスデイのホームページで公開中です。ぜひご覧ください。



## 東北大学総長賞

「ドボクを体験 つよいぜ!! 紙で橋をつくってみよう」

東北工業大学工学部都市工学課程 × 一般社団法人日本橋梁建設協会

### 受賞企画

普段なにげなく使っている橋は「うすい鉄の板」を「ようせつ」して作られています。紙でそのかたちをまねると軽くてとても強い橋が作れます。自分の手で橋の模型をつくってドボク技術者のくふうを感じてみませんか? ドボクの「大学」と「橋の専門家」がお手伝いします、つよい橋をつくってみよう!



### 授賞理由

東北工業大学工学部都市工学課程 × (こらぼ) 一般社団法人日本橋梁建設協会は、自然災害が多発し、社会基盤施設の老朽化が進む中、「土木工学の不人気をなんとかしたい」という強い危機感のもと、土木工学の果たす社会的役割の理解促進と、理系学問への興味醸成を目的に、「ドボクを体験 つよいぜ!! 紙で橋を作ってみよう」をテーマに掲げ、2015年度から継続的にサイエンスデイに出展しています。この取り組みは、体験を通じて土木工学を学ぶ貴重な機会を提供し、こどもから大人まで、幅広い年齢層に楽しさと学びをもたらしています。土木工学の成果として、薄い鉄板を溶接して大きな荷重に耐える橋などが作られてきました。これには、アーチ型の構造や支えを入れた構造などが工夫して使用されています。このプログラムでは、その基本的な構造原理を、柔らかなケント紙を用いて再現し、軽くて強い橋の模型を製作する方法を学びます。この時、金属の場合に使われる溶接を模擬して、「グルーガン」と呼ばれる接着剤が用いられ、参加者は接着剤を加熱して出す道具を使用し、溶接気分を組み立てます。プログラムは大変な人気を集め、出展者が昼食の時間も取れないほどの盛況ぶりです。一日で200点以上の橋が参加者によって作られました。最終的に、ペットボトルを乗せて橋の耐久性を確認し、その成果を拍手と記念撮影で祝う場面では、参加者の驚きと喜びが溢れ、貴重な思い出として心に残ったことと思います。大学のロゴマークが入ったヘルメットを身に着けた若者たちが、橋の専門家とともに、土木技術者になった気分、橋の模型を工夫して作り上げる姿は、将来の可能性を感じさせるものでした。このような体験を通じて、今後社会で活躍する人材が育成されることが期待されます。本プログラムは、学術的な価値と教育的な意義を兼ね備えた素晴らしい取り組みであり、東北大学総長賞に相応しいものと評価いたします。

### 受賞コメント

この度は「東北大学総長賞」を頂きどうもありがとうございます。サイエンスデイ AWARD2025 の「宮城県産業技術総合センター所長賞」、「ミヤテレ賞」に重ねての受賞で大きな喜びと、また多少の驚きと共に受け止めています。関係の方々全てに感謝いたします。2015年の初参加は正直なところ積極的ではない理由でしたが、完成した橋のペーパークラフトにペットボトルのおもりが載って喜ぶ、あるいは驚く小さい参加者の様子に逆に私達が驚き、出展の楽しさと可能性を感じ始めたのを覚えています。次年度に賞を頂きましたがその後は改善を続けながらも坦々と出展を続けていました。とくに約10年にわたりサポートを続けて下さった(一社)日本橋梁建設協会東北事務所の方々にはあらためて感謝の意を表したいと思えます。出展を続ける中でこの企画の終わりをずっと考えてきました。この企画に込めた思いは色々ありますが、それらに関係なく最終的には私達の手を離れて広く普及すれば良いかと最近では思っています。もう少し続けてみようと思えます、来年も宜しくお願い致します。



各受賞団体の出展企画の詳細は、サイエンスデイのホームページで公開中です。ぜひご覧ください。



## 東北経済産業局長賞

「『電波』って何だ? ワイドFM対応AM/FMラジオを作ろう!」

日本無線株式会社

### 受賞企画

AM放送がFMでも聞こえることをご存じですか? この放送は「ワイドFM」と呼ばれ、AM放送と同じ内容を、FMの電波でクリアな音質で楽しむことができます。本プログラムでは、AMとワイドFMの両方を受信できるラジオを、部品のはんだ付けから自分の手で組み立てることができます。完成したラジオは無料で持ち帰りいただけます。また、夏休みの自由研究にも役立つ「電波についてのお話」では、AMとFMの違いなどについて学ぶことができます。ものづくりを楽しみながら組み立てたラジオのスイッチを入れ、実際に放送が聞こえてきたときの感動は、他ではなかなか味わえない特別な体験です。無線の仕組みを理解しながら、ものづくりの楽しさや放送を受信できたときの感動を体験してみましょう。



### 授賞理由

日本無線株式会社が実施したプログラム「『電波』って何だ? ワイドFM対応AM/FMラジオを作ろう!」は、電波のわかりやすい解説とともに、参加者自ら手を動かし、理解し、完成させる、ものづくりの機会を提供することで、参加者の科学技術への理解を深め、ものづくりの楽しさと感動を五感で実感させる素晴らしい取り組みでした。参加した小中学生たちはまず、実験やクイズを通じて、ラジオが聞こえる仕組みである電波について学びます。次に、エナメル線を巻いてアンテナを作成し、はんだ付けによって部品を組み立て、AM/FMラジオの製作に挑戦しました。ほぼ全員が成功を収め、その達成感と喜びは、苦労した分、大きなものとなりました。また、このラジオシステムには、AM放送をFM方式で受信する「ワイドFM」の技術が組み込まれていました。日本無線株式会社は2012年からサイエンスデイに出展しており、従来のAM放送では、やや雑音があったり場所によって電波が届きにくい場合があったのに対して、2019年からはワイドFMに変更することで、電波が弱くても明確に受信でき、音も素晴らしかったようです。ラジオから音が聞こえた瞬間、子どもたちは感動し、大きな達成感を覚えていました。さらに、この完成したラジオは無料で持ち帰ることが許可され、参加者の満足度は非常に高かったようです。こうした体験を通じて、子どもたちは科学技術やものづくりへの興味を深め、将来の可能性を広げる貴重な時間を過ごしました。本プログラムは、このような素晴らしい工夫と努力により、創意工夫を重ねて実際にものを作り上げる楽しさと感動を体験する場を提供した点において、東北経済産業局長賞に最も相応しいものと評価されます。

### 受賞コメント

このたびは、「東北・経済産業局長賞」をいただき誠にありがとうございます。日本無線では、社会貢献活動の一環として2010年より小中学生を対象に「ラジオ工作教室」を開催しており、サイエンスデイには2012年から参加しております。この受賞したプログラムの目的は、組み立て方、半田付けを教えるだけではなく、電波に興味を持つための取組と考えています。内容としては電波の説明を身近なRFIDカード、GPS等の例などで学習してから、実際にラジオを製作します。製作しているラジオでは放送局を自分で選局して受信するので電波の周波数を理解しやすく、組立後にも役に立つと考えて取り組んでいます。また2025年は、日本でラジオ放送が始まって100年の年です。当社も創立110年ですが、創業当時の無線技術では主に船舶と通信するための技術でしたが、今ではスマートフォン、タブレットも利用されており、生活になくはならない技術となっております。当社では無線技術を扱うメーカーとして、主に無線技術が身近に電波が使われていることを理解していただくための活動、さらに技術の継承の担い手として小中学生が未来のエンジニアとして育つための基盤づくりに取り組んでゆきます。



各受賞団体の出展企画の詳細は、サイエンスデイのホームページで公開中です。ぜひご覧ください。



## 宮城県知事賞

「大道仮説実験講座〈しゅぼしゅぼ〉」

NPO 法人 楽知ん研究所 仙台

### 受賞企画

私たちは、子どもから大人まで、誰もが一緒にたのしく感動的に学ぶことができる〈科学入門講座〉を全国各地で開催している NPO の研究所です。「サイエンス・デイ 2025」では、昨年の〈ころりん〉につき「大道仮説実験講座」を開催します。「大道」といっても〈大道芸〉や〈サイエンスショー〉ではありません。参加者が自分の脳ミソで予想を立てて、他人の脳ミソも借りて考えて、実験することを繰り返すと、見えないものが見えてくる?! というお気楽な科学入門教育の講座です。そんな「脳ミソ喜ぶ体験」をあなたも! 今年のテーマは〈しゅぼしゅぼ〉。大人も(大人こそ!) たのしめる実験、実験、また実験! 親子孫、友だち、カップル、おひとり様も一緒に、ワイワイ楽しみましょう!



### 授賞理由

「ここにあるのは昔なつかしなスタバな缶コーヒー。昔はこれに特別な穴あけ器を使って小さな穴を二つ開けて飲みました。一つだと、ほら、逆さまにしてもコーヒーは落ちてきません。缶の中と缶の外の空気のパンチ力がつりあっているからです。でも透明容器にこのコーヒー缶を入れて容器の空気を〈しゅぼしゅぼ〉すると、あー不思議、缶の中のコーヒーが出てきます。缶の外側のパンチ力が弱くなったからです。でも〈しゅぼしゅぼ〉のバルブをひねって空気を戻してあげると、あー不思議、一度出たコーヒーがまた缶の中に戻っていきます。」こんな風に講座は進んでいきました。〈しゅぼしゅぼ〉とは容器の空気を抜く道具(ポンプ)のこと。参加者たちはコーヒーの出入りを見ては歓声をあげ、目に見えない分子のパンチ力(圧力)をしっかりと感じたのでした。「仮説実験」は実験する前に結果を予想するところが肝ですね。予想通りだった時の嬉しさ、予想が外れた時の驚き、どちらもとても楽しいのです。これこそまさにサイエンス。プロセスを楽しむサイエンスデイの趣旨にぴったりでした。真空調理器として市販されている〈しゅぼしゅぼ〉を真空実験用に初めて使ったのは、宮城県美里町の不動堂中学校(当時)の佐々木悦子先生とのこと。楽知ん研究所の宮城県のホームグラウンドは東京エレクトロンホール宮城とお聞きしました。宮城県知事賞にまことに相応しい展示と高く評価いたします。

### 受賞コメント

この度は、素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。私たちは科学入門教育の講座を全国で開催している NPO ですが、イベントとして1回限りの講座ではなく、年齢や職業などに関わらず、自由闊達に話し合い、仮説実験する仲間を求めて活動しています。うれしいことに、今回のサイエンスデイに参加されたのをきっかけに、その後の楽知ん研究所の講座にも楽しく参加して下さっているかたが多数いらっしゃいます。サイエンスデイを主催され、お世話になっている、ナチュラルサイエンスのみなさん、選んでいただいた審査員のみなさん、アワードで賞をくださったお二人、そして講座に参加して下さったたくさんみなさんに改めて感謝申し上げます。この素晴らしい賞に恥じないよう、これからも仲間と一緒に、たのしい科学の伝統を守り広げていきます。



## 仙台市長賞

「自分が撮った動画をCG空間で鑑賞してみよう!」

公立大学法人宮城大学事業構想学群

### 受賞企画

本講座では、参加者が事前に提出した動画をもとに3D立体物を再現し、VR(仮想現実)を使いその立体物を鑑賞してもらいます。当日は、動画から3D立体物を再現する方法についての説明を行い、参加者の皆さんには自分が撮影した「モノ」を仮想空間で立体的に見てもらおう予定です。再現された3D立体物は、VR環境で体験することができます。参加者はVRヘッドセットを使用して、VR内で立体物を自由に観察し、触れることができます。この体験は、視覚的な没入感を提供し、実際にその場にいるかのような感覚を味わうことができます。また、VRでの体験後、参加者自身が3Dスキャンを体験する機会も提供します。参加者は専用のスキャニング機器を使用して、自分の手元にある物体をスキャンし、デジタルデータとして保存することができます。この体験を通じて、3Dスキャン技術の基本的な原理や応用方法について一緒に考えていきたいと思います。



### 授賞理由

網の目のごとく、限りなく複雑に相互連関的存在となって「グローバルな地球社会」が進展するとともに、自然の大災害、国家間の戦争など、予測不可能な時代が到来しております。このようななか、日本の高等教育機関は柔軟に教育と研究に対応することが求められています。とくに、高度情報化社会に対応する人材養成が急務とされており、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、人間中心の社会を作り出そうという、ソサエティ5.0(Society 5.0)が進行しています。そのためには、実生活に必要なICT(インターネット・コミュニケーション・テクノロジー-情報通信技術)、AI(人工知能)を扱う技術の向上と、それらを支え、かみあう人文・社会科学、文化・芸術などの幅広い教養の涵養が求められています。まさに、宮城大学事業構想学群の「自分が撮った動画をCG(コンピュータ・グラフィックス)空間で鑑賞してみよう!」は、その一例であり、フィジカル空間(現実空間)とサイバー空間(仮想空間)とを組み合わせた入門編、導入編としての役割が明確に設定されていました。小学生、中学生はもちろんのこと、一般の大人にとっても楽しく体験できるようになっていました。スマートフォンを通して、3Dデータの取得、それをもとにVR(ヴァーチャル・リアリティ)体験をするという、これからの個人レベルでの広範な可能性をも示唆していました。そこには、急速に進展するマルチメディアとの協調によって、果たさなければならない役割を自覚し、充分に考え実行できる能力を持った、地方創生を担う「21世紀型市民」が形成される端緒となる試みであります。まことに「仙台市長賞」に相応しいと評価いたします。

### 受賞コメント

このたびは仙台市長賞という栄誉を賜り、厚く御礼申し上げます。本企画「自分が撮った動画をCG空間で鑑賞してみよう!」では、フォトグラメトリを用いて参加者が撮影した動画を立体化し、VRで鑑賞する体験を通じ、文化と科学をつなぐ新たな方法を探りました。参加者には「地域の宝」や「大切なもの」をテーマに、撮影方法マニュアルを参考にしながらスマートフォンで撮影していただき、そのデータを立体化して会場でVR体験として共有しました。また当日は、参加者同士で撮影の工夫を議論し、i-Padで3Dスキャンした立体物をデジタル展示する体験も提供いたしました。これにより、身近な技術を活用して文化資源を保存・継承できる可能性を具体的に示すことができました。本取り組みは、科学技術を市民参加型の学びへと結びつける実践的研究であり、文化資源の保存と教育的活用の両面から意義を持つものと考えています。ご支援くださった市民の皆様、運営・審査の皆様、そして関係各位に心より感謝申し上げます。今後も仙台を拠点に、地域の記憶を可視化し、次世代の学びと創造性を育む活動を進め、科学を社会に開く研究へと発展させてまいります。



各受賞団体の出展企画の詳細は、サイエンスデイのホームページで公開中です。ぜひご覧ください。

各受賞団体の出展企画の詳細は、サイエンスデイのホームページで公開中です。ぜひご覧ください。



## ベストプレゼンター賞 (受賞者の部) 宮城県泉館山高等学校 DXLab

### 受賞コメント

このたびはベストプレゼンター賞という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。私たちは、大人から子どもまで幅広い世代の方々に数学の楽しさを感じていただくことを目指して、多面体の組み立てが体験できる展示を企画しました。今回のプレゼンでは、出展の目的達成のために工夫したことについて、以下の3点にまとめて発表しました。

- ・同じ形のパーツを組み立てることで、図形のもつ対称性を実感できるようにしたこと
- ・形や材料を工夫することで、何度も試行錯誤しながら取り組めるようにしたこと
- ・体験する人を夢中にさせるために、複数の種類の多面体を用意したこと

1分間という限られた時間でのプレゼンでしたが、これらの工夫に込めた思いが来場者の皆様に伝わり、このような賞として評価していただけたことを大変嬉しく思います。今回の経験を励みに、自由に数学を楽しむ雰囲気がさらに広がっていくように、今後も活動を続けてまいります。



## ベストプレゼンター賞 (賞創設者の部) 佐藤 龍 (宮城教育大学附属小学校5年) 石井 智仁 (仙台市立第一中学校3年) ※会場投票で同数1位

### 受賞コメント (佐藤 龍 (宮城教育大学附属小学校5年))

賞を作った事によって、賞を貰えるシステムが他にはないようなとても面白いシステムで、楽しかったです!

### 受賞コメント (石井 智仁 (仙台市立第一中学校3年))

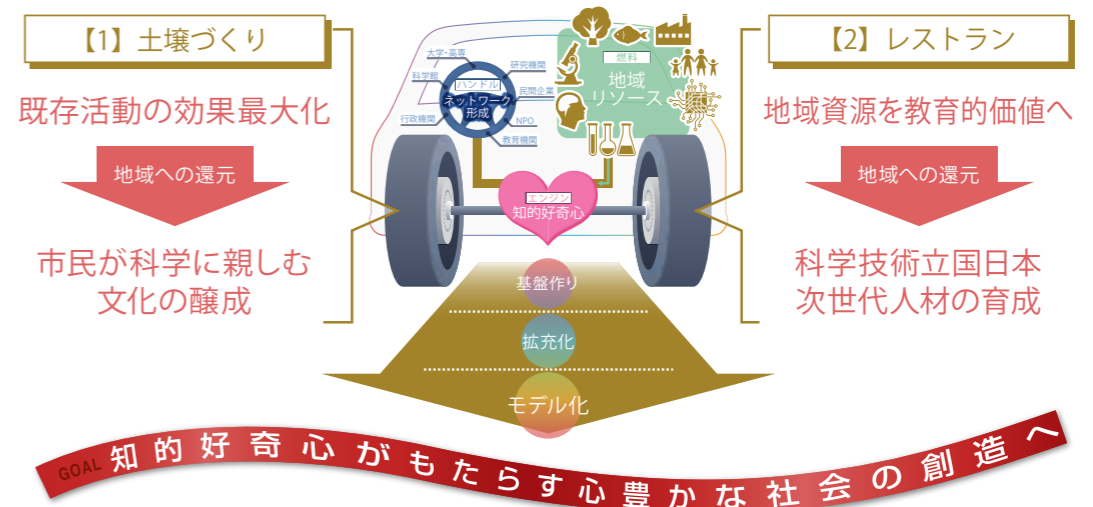
「ベストプレゼンター賞」を頂戴し、ありがとうございます。実は、賞創設のお話をいただいたときには「ただの中学生が賞を贈呈する立場なんておこがましい」と尻込みする気持ちがあったのですが、折角の機会だと捉え、参加いたしました。小学生の頃から何度も参加していたサイエンスデイに初めて賞創設者として臨んだことで、ただ楽しむだけでなく、出展内容を多角的に見るという体験ができました。この日に向けて同世代の中高生が準備してきた努力がどれほどのものであったのか、難しい研究を一般の人に興味を持ってもらうためにどんな工夫をしているのかななどにも思いを致し、これまでで最も内容の濃い一日になりました。さらにサイエンス・オブ・ザ・イヤーでは、著名な先生方の講評・講義をお聞きして直接お話しすることもでき、素晴らしいご褒美をいただいた気分でした。貴重な機会を下さった関係者の皆様、改めて、本当にありがとうございました。



『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』は、大学・研究機関や企業等が集積する学都「仙台・宮城」の地域特性とポテンシャルを活かし、この地で生まれた科学の“結果”だけでなく“プロセス”が、教育的価値として地域に還元される循環を「科学・技術の地産地消」と名付け、その実現を目指して形成されました。「科学・技術の地産地消」の構築により、知的創造力が資源である我が国の将来を担う人材育成に携わっている“実感”を共有できるコミュニティを形成することで、新たな科学が継続的に生まれる文化の醸成を目指しています。本趣旨に賛同する既存の枠を超えた多様な主体と連携のもと、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は手弁当モデルによる持続可能な運営により、毎年開催されています。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を核に、既存の科学コミュニケーション活動の効果最大化を図ることで、市民が科学に親しむ文化の醸成を図ります。

## 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ

SCIENCE:COMMUNITY 科学・技術の地産地消  
サイエンスコミュニティ



JST 科学技術コミュニケーション推進事業「ネットワーク形成地域型」平成25年度採択事業  
(提案機関: 宮城県、運営機関: 特定非営利活動法人 natural science / コーディネーター 大草芳江)

### ネットワーク形成による既存の科学コミュニケーション活動の効果最大化

サイエンス・デイの周知ツールであるチラシ(約23万部を学校配布)裏面での合同広報に加え、サイエンス・デイの申込受付自動化Webシステム(会員約2万5千人むけ)を、サイエンス・デイ以外の各団体主催科学イベント周知にご活用いただけます。

### サイエンス・デイのチラシ裏面に、科学イベント情報を掲載できます (県内の全公立小中学校並びに出展高校等に約23万部を学校配布予定)

今年下半期に開催される科学イベント情報を一元的にまとめた『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～科学イベント編～』を、今年度もサイエンス・デイのチラシ裏面(県内の全公立小・中学校及び出展高校等に全児童・生徒分の約23万部を6月下旬～配布予定)を活用して作成し学校配布します。情報掲載ご希望の方は、5月末までに natural science へご連絡ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスマップ科学イベント編

### 科学イベント情報告知・申込・受付自動化 Web システムを利用できます (学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ会員約3万5千人むけ)

『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の個人会員(約3万5千人)むけに、各団体が年間を通じて開催している科学イベント情報を告知し、申込・受付を自動化できる Web システムを利用できます(登録無料)。ご希望の方は Web (<https://science-community.jp>) にご登録ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ <http://science-community.jp>